鹽田世綱君

鹽田鐵工場主

養父誠太郎君は正六位勳四等退役海軍機關少佐にして、退官後鐵器製造業を開始して斯界に令名あり。

君は山口縣の人柳寛三郎君の二男にして明治二十四年十二月を以つて生る。大正六年東京帝國大學法科大學經濟學科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に身を投じ、養父君の隱退により其の事業を繼承して鐵工業を營み、現に鹽田鐵工場主として斯界に令名高し。

夫人安喜子は養父誠太郎君の長女たり現に東京市小石川區西原町一ノ八番地に住し電話小石川一八二八番なり。

平野平兵衛君

帝國油脂株式會社取締役　×　大阪府多額納稅者

君は大阪府の人平野平兵衛君の長男にして明治二十七年十二月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ小麥粉卸商を營むかたら帝國油脂、中外護謨各株式會社の重役にして且つ大阪府多額納稅者たり。

夫人靜枝子は東京府の人原田鎭治君の二女にして學習院女學部を卒業し、君と四女にして學習院女學部を卒業し、君と友治君及びきぬ子、いそ子等あり、現に東京市芝區二本榎西町二番地に住し電話高輪一一三四番なり。

島崎新太郎君

東京日々新聞副主幹

君は京都府の人島崎八藏君の二男にして明治十五年一月二十一日を以つて生る夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治三十九年早稻田大學文科哲學科を卒業し、直ちに大阪毎日新聞社に入りしがまもなく一年志願兵として入營す。

然して退營後は大阪毎日新聞社の特派員として奉天に駐在し、大正三年東京日々新聞社に轉じ同八年歐米を漫遊して歸朝し、同社政治部長より地方部長、社會部長等を歷任して大正十四年九月副主幹となり今日に至る、趣味として角力、野球、觀劇等あり。

夫人とく子は京都府の人橫田清次郎君の二女にして其の間に正二君、良介君、友治君及びきぬ子、いそ子等あり、現に東京市芝區二本榎西町二番地に住し電話高輪一一三四番なり。

塩谷宇平君

鐵島銀行取締役　×

君は岐阜縣の人先代宇平君の長男にして明治十年五月を以つて生る。明治三十一年早稻田大學邦語政治科を卒業し現に前記の外岐阜縣多額納稅者たり。

夫人ため子は岐阜縣の人內原源吾君の三女にして其の間に一男二女あり瀧雄君及び蔦枝子、峰子等なり、岐阜縣稻葉郡鏡島村に現住す。

柴田增次郎君

京都府多額納稅者　×

君は京都府の人柴田茂吉君の令弟にして、明治十七年十月を以つて生る。夙に實業界に投じて吳服問屋を營み、現に京都府多額納稅者として直稅三千五百三十余圓を納むといふ。

夫人ヨシエ子は京都府の人中村義輔君の三女にして君との間に尹夫君、侯三君及び一子等あり、現に京都市下京區高倉六角下ルに住し電話中二二一七番なり。

平沼亮三君

青島製粉株式會社長　×　衆議院議員

橫濱憲政會の重鎭として、且つ彼の關東大震火災當時東京から橫濱まで驅け通して一躍マラソン界に謳はれ、而かも我が紳士的實業家として知らるゝ平沼亮三君は、神奈川縣の人平沼九右衛君の長男にして明治十二年二月十五日を以つて生る。

明治三十一年慶應義塾を卒業するや直ちに財界に投じ、現に南進公司護謨、青島製粉各株式會社々長たる外麒麟麥酒、ボルネオ護謨、古河電氣工業、日本タイプライター各株式會社の重役にして、曩に橫濱市より推されて衆議院議員に當選し現に憲政會に屬す。

明治三十六年以來橫濱市會議員に選ばるゝこと數回、神奈川縣會議員として鳴らし大正十一年市會議長に就任せり、尙ほ神奈川縣多額納稅者にして現に直接國稅三千九百四十余圓を納むといふ。

夫人婦美子は京都府の人高木豊三君の二女にして共立女子職業學校の卒業なり現に橫濱市西平沼町七五番地に住し電話三〇八番なり。

定塚門次郎君

日比谷商店取締役　×　日比谷銀行取締役

君は富山縣の人定塚三右衛門君の四男にして明治十九年九月を以つて生る。現に前記の外武藏整織株式會社監査役たり現に東京市麹町區富士見町二ノ三十二番地に住す。

夫人きぬ子は群馬縣の人正田文右衛門君の長女にして高等女學校の卒業たり、現に東京市小石川區小日向臺町一ノ二二番地に住し電話小石川九七二番なり。

正田貞一郎君

日清製粉株式會社長

君は群馬縣の人正田作次郎君の長男にして、明治三年二月二十八日を以つて生る。明治二十四年東京高等商業學校を卒業するや歸鄕して醬油釀造業に從事し、同三十四年館林製粉株式會社を創立して自ら經營の任に當り、同四十年日清製粉株式會社設立と共に之に合併し同社專務取締役に擧げらる。

尙ほ曾つて正田醬油株式會社取締役、岡田商店、日本醬油、千代田工業、輸出國產各株式會社の監査役たりしが現時は日清製粉株式會社々長たる外東京製パン株式會社長、東武鐵道、日清紡績、日本共立火災保險各株式會社の重役として知らる。

勝田主計君

従三位勳一等　貴族院議員

君は舊高松藩士勝田久廉君の五男にして、明治二年九月十五日を以つて生る。夙に東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官職を奉じ、大藏屬となり同廿九年文官高等試驗に合格し同卅年稅關檢査官に任ぜられ、爾來稅務監督官、函館稅關長兼函館稅務管理局長、稅關事務官、大藏書記官、臨時國債整理局書記官同局長、大藏省理財局長等に歷任す。

大正二年山本內閣成るや大藏次官に擧げられ同三年貴族院議員に勅選せられ、尋いで朝鮮銀行總裁となり寺內內閣の成立を見るや大藏次官に任ぜられ同五年十二月大藏大臣に親任せられ、同十三年清浦內閣成るや再び大藏大臣として臺閣に列す。

曩に明治卅四年より卅六年に亘り浦鹽斯德歐洲及清韓兩國に差遣せられ、大正三年再び歐洲に航し大正九年三度歐米各國を巡遊す、明治四十二年以降支那に漫遊すること數回に及ぶ、現に東京府豊多摩郡中澁谷五六五番地に住し電話青山二〇四五番なり。

志水源兵衞君

小濱銀行取締役

福井縣多額納稅者

君は福井縣の人松田源助君の二男にして、明治二十五年十一月を以つて生れ先代源兵衞君の養嗣子となる。現に前記の外若州製糸、小濱運送倉庫各株式會社の重役として知らる、現に福井縣遠敷小濱に住す。

白井松次郎君

千日前土地建物株式會社長

京都府多額納稅者

君は京都府の人大谷榮吉君の長男にして、明治十年十一月を以つて生れ先代龜吉君の養嗣子となる。現に前記の外松竹キネマ、松竹座各株式會社取締役たり。

夫人ヤエ子は京都府の人大久保傳右衞門君の長女たり、現に大阪市南區玉屋町四十三番地に住し電話南六四五〇番なり

幣原喜重郎君

男爵　従三位勳一等

君は文學博士幣原担君の令弟にして、明治五年八月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業し翌二十九年外交官及領事官試驗に合格す。

爾來仁川、倫敦各領事官補、アングヱルス、釜山各領事、外務書記官、外務省取調局長、米國、英國各大使館參事官、和蘭兼丁抹駐劄特命全權公使、外務次官米國駐劄特命全權大使等を歷補し大正九年勳功に依り特に華族に列し男爵を授けらる。

大正十年米國駐劄ワシントン會議に全權委員として參列し、同十一年臨時外務省の事務に從事し同十三年加藤內閣成るや外務大臣に親任せらる、現に東京市本郷區駒込上富士前町に住す。

白塚大三郎君

松坂銀行取締役

日印通商株式會社監査役

君は三重縣の人間宮新助君の長男にして、明治二年七月を以つて生れ先代代三郎君の養嗣子となる。現に前記の外松坂鐵道、南勢紡績、三重土地、伊勢殖産、三重合同電氣各株式會社の重役たり。

尙ほ君は三重縣多額納稅者にして現に直接國稅二千六十余圓を納め當地方の勢力家たり、現に三重縣飯南郡松坂町に住す。

×

平田敏雄君

東京女子高等師範學校教授

君は和歌山縣士族平田綱一郎君の長男にして明治六年六月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學理科大學を卒業するや、更に大學院に入りて研鑽を積み、明治三十二年東京女子高等師範學校教授に任ぜられ以つて現在に及べり。

夫人常子は故陸軍少將小島政利君の二女にして其の間に三男四女あり、現に東京市本郷區駒込西片町一〇番地に住し電話小石川三〇七二番たり。

×

斯波忠三郎君

男爵　従三位勳二等　貴族院議員

工學博士

當家は舊金澤藩の國老にして代々一萬石を領し、先代蕃君に至り男爵を授けらる。君は蕃君の長男にして明治五年三月八日を以つて生れ、同卅九年襲爵仰せ付けらる。夙に第一高等學校を經て東京帝國大學工科大學に學び、更に同大學院に進み舶用機關學を專攻せり。

明治廿九年工科大學助教授に任ぜられ同卅一年同教授に進み同年文部省に入り同省より選ばれて海外留學を命ぜられ、英獨佛の三ケ國に遊び專心舶用機關學の蘊奥を極め、ディー、エス、シーの學位を得て歸朝す。

然して一千九百一年英國グラスゴーに工學會議開催せらるゝや、名譽會員として參列し、明治卅八年八月南清に於ける造船造機及び交通機關視察の爲め出張、同卅九年本邦最初の海底電線布設船の設計及監督を囑託せられ、同年海軍大學の教官を囑託せられ應用力學の講座を擔任し特許局技師を兼ねたり。

尙ほ又學習院評議員、特別都市計畫委員會委員、文政審議會學術研究會議員等を歷補し、大正六年貴族院議員に互選せられ、現に其の任にある外東京帝國大學教授、航空研究所長、帝國海軍協會理事機關學會々長等を兼ね本邦學界の泰斗たり、現に東京市本郷區駒込曙町一六番地に住し電話小石川四四番なり。

白崎仁三郎君

東亞工業株式會社常務取締役

君は福井縣の人白崎佐五右衞門君の長男にして明治七年七月を以つて生る。夙に實業界に志し、現に前記の外大福商店福井撚糸染工各株式會社の重役にして、且つ福井縣多額納稅者にして直稅千七百

九十余圓を納むといふ。

夫人ちか子は福井縣の人小川宇右衞門君の長女にして君との間に矻君及び靜子等あり、福井縣吉田郡森田町に現住す。

×

志村源太郎君

従四位勳三等　貴族院議員

君は山梨縣の人志村宇平君の長男にして慶應三年三月一日を以つて生る。明治二十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに官界に投じ農商務省參事官、同秘書官、法制局參事官、農商務省工務局長等を歷任す、曾つて勸業博覽會出品課長として功勞あり藍綬褒章を賜はる。

後日本勸業銀行相談役、横濱正金銀行檢査役、同外國課長等を經て再び日本勸業銀行に入り副總裁より總裁の要職に就き在職二十一年後辭して現に貴族院議員たる傍ら大藏省預金部資金運用委員會委員、農林省米穀委員會委員たり。

夫人サカエ子は愛媛縣の人德田波江君の令妹にして君との間に二女ありて菊子及びみどり子と稱す、現に千葉縣山武郡に住す。

白石元治郎君

實業家

我が財界の巨星白石元治郎君は新潟縣士族前山保太郎君の令弟にして、慶應三年七月を以つて生れ先代武兵衞君の養嗣子となる。夙に東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、淺野商店に入り明治二十六年石油部支配人に擧げられ、同二十九年總一郎翁東洋汽船會社を創立するや、之に參劃し同社の設立と共に支配人に擧げられ同三十一年歐米各國を歷遊して彼地の海運業を視察し歸朝後は專ら同社の經營に任ぜり。

次いで同社桑港支店長として赴任し同三十五年歸朝し、翌三十六年同社取締役兼支配人に推擧せられ、爾來各種の事業に關與し現に日本エナメル、帝國人造肥料、日支炭礦、中央製鐵各會社々長たる外日本鋼管、東京灣埋立、淺野造船所、淺野同族、淺野石材工業、淺野小倉製鋼所、大島製鋼所、東海鋼業、東洋汽船、樺太汽船、庄川水力電氣、關東水力電氣帝國蓄電池、磐城炭礦、大日本石油礦業大日本自轉車、京濱運河、淺野物產、山元オブラート等各株式會社の重役として令名高し。

夫人をまん子と呼び我が財界の巨頭淺野總一郎君の二女たり、現に東京市芝區三田功運町一番地に住し電話高輪四〇二番なり。

白鳥保五郎君

甲子製紙株式會社取締役

君は青森縣士族杉山壽之進君の令弟にして、明治六年五月を以つて生れ後白鳥家の養嗣子となる。明治二十六年中央大學法科を卒業するや、直ちに實業界に投じ第百銀行に入り、累進して京橋支店長たりしが後ち辭して現に前記の職にあり

夫人を直子と呼び東京府士族藤岡正信君の令妹にして跡見高等女學校の出身たり、現に東京市小石川區金富町四〇番地に住し電話小石川一五八番なり。

×

平野忠太郎君

新潟貯蓄銀行取締役

君は新潟縣の人平野六平君の四男にして、明治三年一月を以つて生る。夙に實業界に投じ現に前記の外東洋物產株式會社專務取締役たり。

夫人クメ子は新潟縣の人早川寅次郎君の長女たり、現に新潟市西湊町通四ノ一番地に住し電話六三五番なり。

×

斯波貞吉君

大勢新聞社長　衆議院議員

君は斯波有造君の長男にして明治二年八月を以つて生る。明治二十二年より同二十四年迄英國オックスフォード大學に留學し、更に明治二十九年東京帝國大學文科大學英文科選科を卒業するや盛岡中學校及佛教大學に教鞭を執り、同三十二年萬朝報英文言論記者となり、同四十年同社編輯長に任ぜらる。

然して大正十四年大勢新聞社創立と共に其の社長兼主筆となり、大正十四年東京府郡部より推されて衆議院議員に當選し以つて現在に及ぶ。寫眞、書畫等に趣味を有すといふ。

夫人ヤス子は福井縣士族橋本知貞君の長女にして東京女子高等師範學校を卒業し、現に文華高等女學校長として令名あり、東京府豐多摩郡代々幡町代々木一六六番地に現住し電話四谷七八番なり。

×

篠原藏司君

千葉縣多額納稅者　小草畑銀行取締役

君は千葉縣の人先代篠原藏司君の三男にして明治二十五年十月を以つて生る。夙に實業界に入り現に小草畑銀行取締役にして、且つ千葉縣多額納稅者たり、

夫人きや子は青森縣の人藤田武君の令姉にして君との間に達三君、武夫君及びゆき子等あり、現に東京市麻布區富士見町九番地に住す。

×

澁澤義一君

實業家

君は子爵澁澤榮一君の從弟たる澁澤喜作君の三男にして、明治十二年五月四日を以つて生る。明治三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、直ちに第一銀行に入りて實務を修得する事數ヶ月、後ち澁澤商店に入り經營者長太郎氏の沒後營業を繼承して蠶糸貿易商を營み傍ら横濱火災海上保險、横濱生命保險各株式會社の重役及横濱商業會議所副會頭たり。

曩に大正八年米國に遊ぶ、神奈川縣多額納稅者にして現に直接國稅一萬八千七百余圓を納め横濱に於ける有數の實業家として令名高し、趣味として文學あり。

夫人貞子は清野長太郎君の長女にして

御茶の水高等女學校の出身たり、現に東京市外荏原郡入新井町新井宿二八〇八番地に住す。

×

島居幸雄君

廣島縣多額納稅者

尾道銀行取締役

君は廣島縣の人島居儀右衞門君の令弟にして明治四年七月を以つて生る。夙に實業界に志し現に前記の外蠻備銀行、尾道輕便鐵道、廣島合同貯蓄銀行各株式會社の重役たり。

尙ほ尾道商業會議所副會頭にして且つ廣島縣多額納稅者として、直稅二千四百十余圓を納むといふ、現に尾道市土堂町五三番地に住す。

清水近太郎君

加須銀行常務取締役

君は埼玉縣の人先代善兵衞君の令孫にして明治元年四月を以つて生る。現に加須銀行常務取締役にして、且つ埼玉縣多額納稅者たり。

夫人なか子は茨城縣の人長澤時之助君の叔母君にして其の間に晃一郎君、健次郎君、輝次君、敏三郎君及び豐子、きく子等あり、現に埼玉縣北埼玉郡加須に住す。

×

平井清君

實業家

君は兵庫縣の人平井清右衞門君の長男にして明治十三年一月を以つて生る。曾つて池田倉庫株式會社取締役たりしが現時は北攝銀行取締役、猪多川水力電氣株式會社常務取締役にして且つ桃園溫泉土地株式會社取締役たり。

夫人フジ子は大阪府の人小山定治郎君の二女にして其の間に一男三女あり、現に兵庫縣川邊郡東谷町に住す。

×

下村宏君

法學博士　從三位勳二等

朝日新聞社專務取締役

君は和歌山縣士族先代房次郎君の長男にして、明治八年五月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや官界に投じ、爾來遞信書記官、北京郵便局長、爲替貯金局長、遞信官吏練習所長、臺灣總督府民政長官、同府總務長官等を歷任し、後ち官界を去りて歐米を巡遊し歸朝後朝日新聞社專務取締役に就任し現在に及べり。

曩に白耳義に留學し斯學の研鑽を積みて歸朝し、大正八年法學博士の學位を授けられ、曾つて中央法政早稻田東京商科各大學の講師たりしことあり、著書多く就中「財政學」「富と貯蓄」「貯蓄機關論」「日本國民性論」「歐米より故國」歌集「芭蕉の葉陰」等は著名なるものなり。

夫人ふみ子は東京府の人佐々木與一君の令妹にして君との間に一男あり、現に兵庫縣西宮市外苦樂園に住す。

清水義彰君

愛媛銀行取締役

松山土地建物會社監査役

君は愛媛縣の人清水藤三郎君の長男にして明治五年一月を以つて生る。明治二十八年中央大學を卒業するや直ちに地方財界に活躍し、現に前記の外南海電氣、三津濱煉瓦、伊豫電氣鐵道、松山瓦斯各株式會社の重役として知らる。

夫人ヤウ子は愛媛縣の人渡邊滿弘君の長女にして其の間に哲作君、卓三君及び年子、章子等あり、現に松山市湊町四番地に住す。

×

廣岡惠三君

加島銀行頭取

大同生命保險株式會社長

關西實業界の重鎭廣岡惠三君は子爵一柳末幸君の伯父君にして、明治九年二月を以つて生れ後ち先代信五郎君の養嗣子となる。明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに三井銀行に入り幾許もなく同行を辭し、現に加島銀行頭取たる外廣岡合名會社代表社員、大同生命保險株式會社々長にして尙ほ白木屋吳服店、東洋綿花、神戸瓦斯各株式會社の重役として聲名あり。

夫人カメ子は養父信五郎君の長女にして君との間に喜一君及び多惠子、八重子、佐惠子、美惠子等あり、現に大阪市北曾根崎中町一ノ一〇六番地に住し電話長北六七八番なり。

×

下村正之助君

北海木材株式會社專務取締役

北海ホテル監査役

君は富山縣の人野村五右衞門君の令弟にして明治十一年二月を以つて生れ後ち先代長藏君の養嗣子となる。現に前記の外山田屋信託、丸肥旭川肥料、天鹽水電阿部式電氣時計製作所、上川市場各株式會社の重役たり。

夫人マキ子は北海道の人大山精一君の長女にして君との間に健一君、修二君及びソノ子、セツ子、サダ子等あり、現に北海道旭川市五番通六番地に住す。

×

匹田銳吉君

岐阜日々新聞社長

君は岐阜縣士族匹田重秋君の長男にして明治元年四月を以つて生る。夙に東京專門學校政治經濟科を卒業し、曩に讀賣新聞記者、富山日報、九州日報、北陸タイムス各主事等を歷任し、又支那廣東、福建、江蘇、浙江、湖北、直隸各省及滿洲並に露領西比利亞を視察せしことあり然して岐阜縣民多數の輿望を擔つて衆議院議員に當選すること前後三回に及べり、夫人を貞子と稱す、現に東京府下大森町八幡に住す。

×

廣田精一君

神戸高等工業學校長

正五位廣田精一君は廣島縣士族廣田紋三郎君の二男にして、明治四年十月を以つて生れ先代アキ子の養子となる。明治

二十九年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業するや直ちに獨逸に航し、伯林シーメンス、ハルスケ電氣會社電力部に入社し技術を研鑽すること二ケ年、而して在獨中高田商會の聘に應じ同倫敦支店詰となり、同三十一年歸朝するや電氣部長に推さる。

明治三十八年茨城電氣株式會社創立せらるゝや、其の取締役に擧げられ同四十年私立電機學校を創立し理事長となりしも、大正十年神戸高等工業學校長に任ぜられ以つて現在に至る。

廣瀬實光君

實業家

君は東京府の人廣瀬榮君の二男にして明治七年八月を以つて生る。現時は日本玩具株式會社々長たる外日本陶器、森村商事、坂部商會、南米商事、森村組、ミカド貿易、日本硝子各株式會社の取締役にして且つ東洋陶器株式會社監査役たり。

×

夫人沽龍子は東京府士族鄭永昌君の長女にして其の間に一男三女あり、現に名古屋市東區撞木町一ノ五番地に住す。

下村晴三郎君

畫家

君は東京府の人下村豊次郎君の三男にして明治六年四月を以つて生る。明治二十七年東京美術學校日本畫科を卒業せり雅號を觀山と稱し、大正三年斯界の泰斗横山大觀等と日本美術院を再興し、爾來文部省に對抗して毎年展覽會を開き、現に其の幹事として且つ日本畫界に令名あり。

夫人をせん子と稱し東京府の人山田鑑士君の四女にして君との間に時春君、英時君、豊君、弘君及び千代子、喜久代子等あり、現に横濱市本牧町一三三九番地に住す。

×

廣瀬德藏君

衆議院議員

從七位辯護士辨理士廣瀬德藏君は大阪府の人廣瀬種藏君の長男にして明治十一年五月を以つて生る。明治三十四年關西大學法科を卒業し現に辯護士にして大阪市選出衆議院議員たり、尚ほ曩に大阪府會議長、同市參事會員たりしことあり。

夫人を益江子と呼ぶ、現に大阪市北區木幡町六四ノ一番地に住し電話北二五七〇番なり。

×

白山茂次郎君

白山殖産株式會社取締役

君は兵庫縣の人白山保三郎君の二男にして明治二十三年五月を以つて生る。大正四年慶應義塾法律科を卒業するや身を財界に投じ、現に白山殖産株式會社取締役として知らる。

夫人フサ子との間に弘太郎君、武次郎君、勝三君、邦四郎君及び喜久子等あり現に兵庫縣武庫に住す。

柴山雄三君

正五位勲四等

東京鑛山監督局長

君は滋賀縣の人樋口外吉君の令弟にして、明治十六年一月を以つて生れ、後ち先代重幸君の養嗣子となる。明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、同年直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて、職を官途に奉じ、爾來、農商務省山林事務官、商工局事務官兼農商務省參事官、臨時産業調査局事務官、農商務書記官、農商務省畜産局畜政課長、商工事務官、特許局審判部長等を歴任し昭和二年六月東京鑛山局監督局長に榮轉し以つて現在に及ぶ。

夫人まつ江子は養父重幸君の長女にして君との間に幸雄君、正雄君、武雄君及び峯子、秀子、民子等あり、現に東京市小石川區表町一〇九番地に住し電話小石川六三二〇番たり。

白根松介君

男爵　從四位勲六等

宮内大臣秘書官兼宮内事務官

大臣官房庶務課長兼秘書課長

當家は世々山口藩士にして、祖父多助君は勤王家を以つて聞え、維新後任官して埼玉縣知事に至り、而して先代專一君は其の二男にして、夙に官界に職を奉じて秋田縣大書記官、内務省大書記官、愛媛、愛知各縣知事、内務次官、遞信大臣等を歴任し、明治三十年功に依り特旨を以つて男爵を授けらる。

君は其の二男にして、明治十九年十月を以つて生れ同三十一年襲爵仰せ付けらる。夙に學に厚く、明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業するや官途に職を奉じ、爾來、爲替貯金局書記、帝室會計審査官補、同審査官等を歴任し以つて現在に及ぶ。

夫人喜美子は茨城縣の人金塚仙四郎君の長女にして君との間に精一君及び富美子、美穂子等あり、現に東京市麹町區一番町二番地に住し電話九段六一六番たり

日比野寛君

愛知商事株式會社常務取締役

正五位勲四等日比野寛君は愛知縣の人織田文信君の二男にして、慶應二年十一月を以つて生れ後ち日比野くに子の養嗣子となる。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業し、愛知縣立第一中學校長に任じ、曾つては衆議院議員として中央政界に鳴らせしことあり。

斯くて後ち實業界に參じ、現に愛知商事株式會社常務取締役にして且つ本邦體育界に盡瘁すること尠からずマラソン王として知らる。

夫人をふさ子と呼び愛知縣の人山田常重君の三女にして其の間に五男一女ありて弘君、正君、進君、安君、明君及び千代子と呼ぶ、現に愛知縣愛知郡東山村に住し電話東一二一八番なり。

澁谷德三郎君

正七位勳七等
東京市京橋區長

君は宮城縣の出身にして、明治三年三月二十日を以つて同縣黒川郡大松澤村に生る。明治二十二年宮城縣師範學校を卒業するや、直ちに地方教育界に投じ、爾來、明治三十二年に至るまで十年一日の如く縣下各學校に訓導としてはた又名校長として盡瘁すること甚大、遂に同年六月抜擢せられて同縣名取郡視學に擧げられ、後ち栗原郡視學に轉じ、明治三十八年三月辭して上京す。

斯くて、直ちに文部屬に任じ、傍ら日本大學法科に入りて同校正科を卒業し、爾來、文部省普通學務局第一課長、日本大學教務部長囑託、東京高等師範學校講師、埼玉縣女子師範學校長、東京市主事教育課長、東京市學務課長、兼任東京市講師等を歴任す。

然して、大正十一年九月東京市麹町區長に擧げられ、更に本郷區長を經て大正十五年十二月東京市京橋區長に轉じ以つて現在に及ぶ。

現に東京市小石川區林町七十番地に住す。

廣川周造君

魚津銀行取締役
富山縣多額納稅者

君は富山縣の人廣川久松君の長男にして、明治十三年十月を以つて生る。夙に地方財界に活躍し、現に魚津銀行、實業銀行、入善銀行各株式會社取締役にして且つ富山縣多額納稅者たり。

夫人メッエ子は富山縣の人金木三郎君の長女にして君との間に久君及び久榮子等あり、富山縣下新川横川に住す。

志賀和多利君

辯護士　鐵道參與官
衆議院議員

君は岩手縣の出身にして志賀英之進君の長男にして、明治七年十月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて上京し、研鑽琢磨、明治三十三年日本大學法科を卒業するや直ちに文官高等試驗及び判檢事登用試驗に登第す。

斯くて、職を官途に奉じて司法官試補檢事代理たりしが、後ち辭して辯護士事務所を開設し一般法律事務を掌り、而して衆議院議員に當選すること前後二回、現に其の任にありて中央政界に重きをなし、昭和二年四月田中内閣成立するや鐵道參與官に任ぜらる。

夫人リセ子は新潟縣の人石山保吉君の二女にして君との關に擧而君及びやな子等あり、現に東京市本郷區本郷五ノ十六番地に住し電話小石川四七六〇番たり。

白根竹介君

正五位勳五等
富山縣知事

當家は先々代多助君より其の家名を擧ぐ、同君は夙に埼玉縣令として國家に忠勤すること甚大なりき。

君は先代勝次郎君の長男にして、男爵白根松介君の從兄君に當り、明治十六年五月を以つて生る。明治四十一年東京帝國大學法科大學を卒業するや翌年文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、靜岡縣警視、同事務官補、同磐田郡長、山梨縣理事官、同警察部長、山形縣警察部長、岐阜、京都、東京各府縣内務部長等を歴任し、更に岐阜縣知事等を經て富山縣知事に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人を末脊枝子と稱し君との間に五男三女あり、現に同縣知事官舍に住す。

社本劒次郎君

社本護謨合資會社社長

最近我が國に於けるゴム工業は著しき發達を遂げたりと雖も、尚ほ斯業界に無限の進歩改良を加へらるゝは勿論、恐らくは將來ゴム萬能の時代到來すること疑なかるべし。

夙に斯業の將來有望なるに着眼して、專心これが改善發達に盡瘁する我が合資會社社本ゴム工場代表者社本劒次郎君は名古屋の産にして大正五年淺草區福井町に營業を開始し、爾來、多少の消長ありしも業績順調を辿るに至れり。

然して大正十四年十二月現在の地に移轉し、同時に組織を合資會社に變更して自ら同社代表社員として斯業の改善發達に日夜精勵し、君が斯業の蘊蓄と研究的精神とは相俟つてゴム工藝品に優秀なる製品を出し、殊に海水浴帽の製作は君獨特の塗料法を案出し内地に於ける同製品の到底追隨し得ざる優秀品を廣く需用者に提供して多大の好評を博せり。

尚ほ最近特許を得たる列車專用自由輕便枕の如きは從來の空氣枕と全く其の趣きを異にし、使用に際し形体及び使用法を七様に變化し得るの特色を有し、汽車旅行は勿論家庭用としても最適品にして而も尚ほ該品は浮揚力と防水力とを具備する關係上船中に用ひて航海中の非常用救命具として其の効力絶大なるものにして、今や是等優秀品の製作其他一般ゴム工業品の製作販賣に精勵し、常に三十有余名の從業員を督勵して一ケ年數十萬圓の製産額を示し、本邦ゴム工業界の白眉を以つて目さゝるに至れり。

今や我が工業界は年と共に發展の歩調を辿る季に際し、我が社本劒次郎君に俟つべきもの蓋し多々なるべく、斯業の爲め邦家に貢獻すること甚大ならん、東京市下谷區御徒町二ノ十六番地に住す。

廣海惣太郎君

貝塚銀行頭取
泉州物産株式會社監査役

君は大阪府の人廣海惣爺君の長男にして、明治十一年四月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して其の敏腕を斯界に鳴らし、現に貝塚銀行頭取たる外泉州物産、木辰酒造、岸和田煉瓦綿業、泉醬油東洋商工各株式會社重役として知らる。

夫人をノブ子と稱す、現に大阪市泉南貝塚に住し電話十一番たり。

白川義則君

正三位勳一等功三級

豫備陸軍大將　陸軍大臣

君は愛媛縣士族先代義信君の令弟にして明治元年十二月を以つて生る。夙に陸軍士官學校及び陸軍大學校を卒業し、累進して大正十四年三月陸軍大將に陞進す。

其の間陸軍士官學校敎官、守正王附武官、歩兵第二十一聯隊大隊長、人事局課員、歩兵第三十四聯隊長、第十一師團參謀長、中支那派遣隊司令官、歩兵第九旅團長、陸軍省人事局長兼俘虜情報局長官陸軍士官學校長、第十一師團長、第一師團長、陸軍次官兼航空局長官、鐵道會議々員、道路會議々員、馬政委員會議々員陸軍技術會議々長、港灣調査委員、中央統計會委員、海事委員會委員、關東軍司令官等を歷任し、昭和二年四月田中政友會内閣成るや臺閣に列して其の陸軍大臣に親任せらる。

夫人をタマ子と稱し君との間に義正君義直君、元春君、浩君及びキヨ子、ハマ子等あり。

島田七郎右衛門　君

高岡新報社監査役

高岡電燈株式會社取締役

君は富山縣の人島田七郎右衛門君の長男にして、明治十六年一月十六日を以つて生る。退役陸軍中尉にして大正十三年十一月北陸に擧行せられたる陸軍特別大演習の際御前講演の光榮に浴す。

現時は前記の外北陸製絹、中越土木、笹川窯業、岡吉商事各株式會社の重役にして且つ福岡町長たり。

夫人壽加子との間に二男三女あり、現に富山縣西礪波福岡に住す。

重松養二君

日進電機株式會社取締役

君は舊鳥取藩士重松貞幹君の二男にして、明治十九年二月を以つて生る。明治二十五年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて、三菱合資會社に入りて同社技師として槇峰、生野、佐渡各鑛山を歷勤し同四十年西谷鑛山長となり、大正元年高取鑛山長を經て本社詰を命ぜられ、更に大正五年鑛山部專務理事に榮進、同七年合資會社より分離して三菱鑛業株式會社成立するや擧げられて同社常務取締役に就任す。

然して後ち同社を辭し、現に日新電機株式會社取締役たり。夫人をあや子と稱し君との間に五男四女あり、現に東京市芝區高輪南町五三番地に住し電話高輪二九九番たり。

×

下村齋次郎君

日米商店常務取締役

中外護謨株式會社取締役

君は兵庫縣の人下村德郎君の長男にして、明治十九年三月を以つて生る。夙に實業界に活躍し、現に前記の外東海鋼業大日本自轉車、帝國蓄電池各株式會社の重役として知らる。

夫人をシン子と稱し君との間に三男一女あり、現に兵庫縣武庫郡御影に住す。

清水泓平君

松尾鑛業株式會社專務取締役

君は東京府の人清水忠助君の三男にして、明治二十年十一月五日を以つて生る明治四十三年早稻田大學商科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて增田貿易株式會社に入社し、上海支店長に擧げられ、大正十三年同社を辭して松尾鑛業株式會社に轉じ、同社常務取締役に推され以つて現在に及ぶ。

夫人君子は京都府士族市川亮明君の長女にして同志社女學校の出身たり、現に東京市牛込區市ヶ谷富久町一一三番地に住し電話牛込五九五三番たり。

下野直太郎君

正四位勳三等

東京商科大學敎授

君は岐阜縣の人下野甚助君の長男にして、慶應二年十月を以つて生る。明治二十一年東京高等商業學校を卒業す。

曩に東京高等商業學校敎授を勤め且つ東京海上火災保險株式會社の創立に參劃し、又商業學研究の爲め英國に留學せしことあり、現に東京商科大學敎授たり。

夫人勢伊子は岡山縣士族岸本繁三郎君の三女にして君との間に一女あり、東京市麹町區富士見町二ノ一番地に現住す。

平川松太郎君

辯護士　特許辨理士

衆議院議員

君は神奈川縣の人先代久八君の長男にして、明治十年一月を以つて生る。明治三十四年中央大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試驗に登第す。

斯くて、辯護士事務所を開設して一般民事法律事務を掌り、現に傍ら衆議院議員たり。

夫人コマ子は神奈川縣の人田村信懋君の令妹にして君との間に憲一君及び和枝子あり、現に神奈川縣足柄下郡小田原に住す。

清水新平君

長江硝子工業株式會社取締役

中國工商株式會社取締役

君は秋田縣の人清水豐作君の二男にして明治二十年三月を以つて生る。明治四十二年東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

現に中日實業株式會社支配人たる外前記各株式會社の重役として知らる。東京市外下澁谷一四三七番地に現住す。

芝義太郎君

雄別炭礦鐵道株式會社取締役

君は愛媛縣士族芝義方君の長男にして明治六年二月八日を以つて生る。夙に實業界に投じ、曾つて龍田炭礦社長、北海道炭礦鐵道取締役たりしことあり。

夫人をムメ子と稱す、東京市外上目黑一七〇一番地に現住す。

元田肇君

從三位勳一等
衆議院議員

當家は舊豐後臼杵藩の儒家にして、古より松平家に仕へ代々藩主に儒學を進講したる家柄なり、先々代彝君は號を伯倫と稱し、尚書集解、大學標註等の名著あり、其の二男直君家督を繼ぎ漢學を修め古代法制を研究し、維新後江戸に出でて私塾を開き子弟の育英に盡瘁せり。

君實は大分縣の人猪俣榮造君の二男にして、安政五年一月を以つて生れ後ち先代直君の養嗣子となり明治二十三年三月家督を相續す。初め養父に就きて和漢の學を修め、同五年開拓貸費生として開成校に學び、後ち東京帝國大學に轉じ同十三年同學法科を卒業するや、辯護士となり一般訴訟事務に從事せり。

然して明治二十三年大分縣第一區より選出せられて衆議院議員に當選し、爾來改選毎に選出せられ、初期以來議政壇上に立つこと三十有余年立憲政友本黨の元老にして現に同黨總務として知らる、曾つて衆議院副議長、遞信大臣、外交調査會委員、鐵道會議員、拓殖局總裁、鐵道大臣等を歷任す。

現に東京市麹町區紀尾井町八番地に住し電話四谷二三一六番なり。

望月小太郎君

勳三等　衆議院議員
英文通信社長

君は山梨縣の人望月善左衛門君の三男にして、慶應元年十月を以つて生る。夙に慶應義塾に學び卒業後英國に留學しミツツルテンプル、ロンドン兩大學に入りパリスツルの學位を受けて歸朝す。

明治二十九年故山縣公に隨行して露國戴冠式に列し、明治三十年故伊藤公に從ひ英國に航し、女皇六十年式に參列し且つ夙に英文通信社を起し其社長として活躍し、明治三十五年山梨縣郡部より推されて衆議院議員に當選し、爾來衆議院議員たること前後七回現に其の任にありて中央政界に令名高く立憲々政會の元老として知らる、曩に日獨事件の功に依り勳三等に陞叙せらる。

夫人をカヨ子と呼び東京府の人親見七之丞君の長女たり、東京市赤坂區臺町三三番地に現住し電話青山七二二番なり。

芹澤多根君

能登燐礦株式會社長
伊豆銀行取締役

君は靜岡縣の人芹澤伊三郎君の長男にして、明治十年七月二十八日を以つて生る。夙に實業界に活躍し曩に佐野原委托倉庫、渥美養魚、日本化學製油、富士煉乳各株式會社取締役及び御殿場馬車株式會社監査役として盡瘁す。

現に能登燐礦株式會社々長たる外伊豆銀行、駿豆銀行、産業銀行、芹澤銀行、東駿銀行、御厨銀行、三島商業銀行各株式會社取締役にして且つ廣根鑛泉、富士鑛業、芝電氣工業、京濱運輸、千代田興業、駿河電化工業、三河鐵道、東京亞鉛

鐵工、東海石炭、東洋耐火煉瓦各株式會社の重役として知らる。

夫人きわ子との間に一男ありて岩夫君と稱す、因に令弟清根君は其の夫人りつ子と共に子女を伴ひて分家し、令妹さく子は靜岡縣の人勝俣瀧雄君に嫁す、靜岡縣駿東郡泉村に現住す。

關和知君

從五位勳四等
衆議院議員

君は千葉縣の人關八藏君の長男にして明治三年十月七日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや直ちに上京し、明治三十八年東京專門學校政治科を卒業し、更に米國に航してエール大學、プリンストン大學等に學び造詣を深くして歸朝す。

曩に新房總、萬朝報各新聞記者、東京毎日新聞編輯長たりしのみならず、又內務大臣祕書官、司法省副參政官、明治神宮造營局參事官、陸軍省政務次官等を歷任し、現に新房總新聞業務監督にして且つ衆議院議員として政界に令名高し。

夫人むめ子は千葉縣の人岡本七右衞門君の長女にして君との間に一男一女あり、男子は和一君及びひさ子と呼ぶ、現に東京市牛込區市ヶ谷五五番地に住し電話四谷三〇〇八番たり。

森垣龜一郎君

工學博士　從四位勳三等

君は兵庫縣の人森垣宇市郎君の令弟にして、明治七年三月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學工科大學土木學科を卒業し、同三十二年大阪市築港事務所に任じ、同三十九年大藏省臨時建築部技師に任ぜらる。

然して後ち教育界を辭して大阪市助役となり、現に大阪市長にして且つ大阪商業會議所特別議員たり、尙ほ曩に商業學研究の爲め白耳義に留學し、又淸韓兩國に差遣せられしことあり。

夫人けん子は千葉縣の人大塚源左衞門君の四女にして君との間に俊雄君、秀雄君、義雄君及び武子、和代子等あり、現に大阪市南區天王寺勝山通一ノ四四番地に住す。

森本厚吉君

法學博士　正五位勳四等
北海道帝國大學教授

君は京都府の人增山純一郎君の三男にして明治十年三月を以つて生れ、明治二十九年八月森本治造君の養嗣子となる。夙に札幌農學校を卒業するや米國に渡りジョンスホプキンス大學に學び造詣を積みて歸朝す。

然して明治四十年東北帝國大學農科大學豫科敎授となり、同四十一年同大學助敎授に轉じ、大正四年九月經濟學財政學研究の爲め再び米國に留學し、同七年三月歸朝と共に北海道帝國大學敎授に任じ以つて現在に至る。

大正八年法學博士の學位を授けられ大正十二年財團法人文化普及會を東京に設立して其の理事長となり、社會改善事業殊に住宅問題解決の一手段として五十萬圓を投じ模範アパートメントハウスを建設し、消費經濟學理の應用と研究に從事し、其の敎育機關として月刊雜誌「文化生活」を監輯す。

夫人靜子は大阪府の人增山乾三君の二女にして其の間に武也君、文子、和子等あり。

諸新平君

福井鐵工株式會社常務取締役
北陸絹布株式會社常務取締役

君は福井縣士族齊藤政太郎君の令弟にして、慶應元年十月を以つて生れ先代諸ひさ子の入夫となる。

夙に實業界に身を投じ、活躍大いに努め現に前記の諸職にありて地方財界に相當の勢力を張り、尙ほ福井縣多額納稅者として知られ、現に直稅壹千七百四拾余圓を納むといふ。

夫人ひさ子は養父新平君の三女にして君との間に二男三女ありて要君、孝次君及び靜子、しか子、つや子と稱す、現に福井市足羽下二九番地に住す。

望月圭介君

正四位勳三等　遞信大臣
衆議院議員

君は廣島縣の人望月東之助君の二男にして、慶應三年二月廿七日を以つて生る夙に攻玉社共立學校、明治英學校等に學び、傍ら政治法律經濟學を修め學業成るや實業界に入り、鑛山業に從事せり。

然して後ち政治家たらんと志し、推されて衆議院議員に當選すること前後八回現に其の任に在りて政友會の重鎭として永く幹事長を勤め、原內閣時代に擧げられて農商務省參事官たりしことあり。

現に同會總務として令名あり尙ほ中央新聞社取締役にして曩に日獨事件の功に依り勳四等に敘せらる、圍碁音曲等を趣味となす。

現に東京市芝區車町四四番地に住し電話高輪一六一六番なり。

森岡守成君

從三位勳一等功三級
陸軍中將

君は山口縣の人森重五衞門君の三男にして明治二年八月を以つて生れ、後ち先代正奇君の養嗣子となる。明治二十五年陸軍士官學校を卒業し陸軍騎兵少尉に任じ、同三十年陸軍大學を卒業し、大正八年陸軍中將に陞進せり。

其の間軍馬補充部員、軍務局課員、陸軍大學校教官、第五師團參謀、墺國大使館附武官、騎兵第十六聯隊長、騎兵實施學校長、參謀本部課長、青島守備軍參謀長、軍馬補充部本部長、近衞師團長等を歷任し、大正十四年五月軍事參議官に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人せつ子は東京府士族和田由恭君の令姉にして君との間に一成君、二郎君、守君及びヒノ子、義子等あり、現に東京府豐多摩郡中野町一六一八番地に住す。

關戸守君

安曇銀行專務取締役
北安銀行取締役

君は長野縣の人關恒司君の長男にして明治六年三月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、早稻田大學邦語政治科を卒業す。

現時は安曇銀行專務取締役たる外北安銀行取締役として地方金融界に活躍し、尙ほ傍ら安曇電氣株式會社取締役として令名あり。

家族は長男恒夫君、長女芳子、二男和親君等を始めとして養子篤君、長女滿子等あり、現に長野縣三女愛子、四女滿子等あり、現に長野縣北安曇郡池田町に住す。

泉二新熊君

法學博士　從四位勳三等
司法省行刑局長

君は鹿兒島縣の人泉二當整君の長男にして、明治九年一月を以つて同縣大島郡中勝村に生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、郁文館中學校に學び明治二十八年同校を卒へて熊本第五高等學校に入り、進んで東京帝國大學法科大學に入り、明治三十五年優秀の成績を以つて同學を卒業す。

然して直ちに身を官界に投じ司法官試補を命ぜられ、同三十八年四月檢事に任じ、四十年四月司法省參事官を兼ねて君が驥才を發揮し、同年法律取調委員同幹事を仰せ付けられ、後ち東京帝國大學法科大學講師並に私立五大法律學校の講師に任じ、其の薀蓄を傾注して幾多學徒の薰陶に盡瘁せり。

明治四十五年四月司法事務視察の爲め歐米各國に差遣せられ、大正二年三月歸朝するや兼官を免じ東京控訴院檢事に專補せられ、大正五年三月博士會の推薦に依り法學博士の學位を授けらる、現に前記の職にありて錚々の名あり。

現に東京市外下澁谷町一七八三番地に住し電話高輪五二二五番なり。

守屋荒美雄君

株式會社帝國書院社長

曾つては教育界に盡瘁して令名を馳せ今また文化の源泉たる出版界に錚々の名あるを我が守屋荒美雄君となす、君は岡山縣の人守屋鶴松君の三男にして、明治五年五月十五日を以つて生る。

幼にして早くも才幹衆を拔き、年齒僅かに十五歲にして小學教員の檢定試驗に合格して地方教育界に投じ、更に研鑽琢磨、螢雪の功空しからず、二十四歲にして最も困難なる中等教員檢定試驗に首尾よく登第し、直ちに中等學校の教諭に任じ、傍ら中等教科書を著はす等君が育英の道に盡瘁すること甚大なりき。

然して後ち感ずるありて斷然教育界を退き、大正七年獨力帝國書院を創立して圖書出版業を始め、各中等學校の教科書其他一般圖書を刊行し、今や帝國書院の名全國に普ねく、曩に組織を改めて株式會社となし、現に同社取締役社長にして斯界の重鎭たるを失はざるべし。

趣味多樣なる中にも讀書は君の最も好くするところ、就中、地理學の研究家として知らる。

夫人マツ子は神奈川縣の人押田治郎作君の長女にして、神奈川縣立高等女學校の卒業たり、現に東京市牛込區矢來町三九番地に住し電話牛込四一七六番なり。

森田政義君

衆議院議員

君は熊本縣の人森田實政君の令弟にして、明治十七年九月を以つて生れ後ち分家して一家を創立す。大正三年明治大學法科を卒業するや辯護士試驗に合格し大阪市に開業す。

大正十三年の總選擧に際し大阪府郡部より推されて衆議院議員に當選し、現に其の職にありて政友本黨に屬し中央政壇の一異彩たるを失はず。

夫人トクノ子は大阪府の人柴谷伊之助君の二女にして其の間に大造君及びサジ子、政子等あり、現に大阪市住吉町天王寺に住す。

守屋善兵衞君

東北板紙株式會社取締役
東京動產火災保險會社監查

君は岡山縣の人守屋彌作君の長男にして、慶應二年一月を以つて生る。夙に官界に職を奉じ曩に太政官御用掛兼制度取調局御用掛、文部屬等を歷任し、後ち臺灣に航して臺灣日々新報を創刊し更に滿洲日々新聞社々長に轉任し、又歐米諸國を巡遊して新聞通信事業及び印刷工業等を視察見學して歸朝す。

現に東北板紙、東京動產火災保險各株式會社の重役たる外吉林林業、東神火災保險各株式會社の重役にして我が財界に令名あり。

夫人キョ子は栃木縣の人須永元君の令妹にして君との間に時郎君及び智子、行子等あり、東京市外目黑町一一八五番地に現住し電話高輪一一七番なり。

森永太一郎君

森永製菓株式會社長

君は佐賀縣の人森永常次郎君の長男にして、慶應元年六月を以つて生れ、明治廿一年十一月絕家森永家を再興す。明治十八年横濱に出でて陶磁器貿易店員となり、同廿二年桑港に渡航し實業に從事せしが失敗に歸し、即ち志を轉じて菓子製造業者につき其の職工となり、つぶさに辛酸を嘗めて刻苦精勵十ケ年、菓子製造の技術を研究して同卅二年歸朝す。

斯くて赤坂溜池附近に西洋菓子商店を開き、數年後にして赤坂田町五丁目に店舗を移し、更に明治四十年芝區田町一丁目に營業所を移轉し、自ら職工に伍して鋭意斯業の擴張發展を計り、爾來業運隆盛に赴きしかば更に斯業の一大擴張を企圖し、之が組織を變更して森永製菓株式會社と改稱し、支店及び製菓工場を全國各地に設け、今や東洋一の製菓會社を以つて目せらるゝに至る、蓋し君の多年の奮闘の賜と云ふべく、「森永……」の名聲內外に普し。

現に東京府荏原郡品川宿御殿山三四四番地に住し電話高輪一九番なり。

森村堯太君

伊勢崎銀行專務取締役

君は群馬縣の人先代堯太君の長男にして、明治二十年二月を以つて生れ、大正十二年家督を相續し前名貞策を改む。

明治四十五年慶應義塾大學を卒業するや、東京渡邊銀行に入りしが大正七年同行を辭し現時利根運河會社長、森堯合名會社代表社員たる外伊勢崎銀行、群馬銀行、森村土地各株式會社の重役として知られ尚ほ群馬縣多額納稅者にして現時直接國稅一千二百五十余圓を納むといふ。

夫人富士子は岡村謙次郎君の長女にして貞淑の譽れ高し、現に群馬縣佐波郡宮郷町に住す。

最上謙吉君

角間川機業株式會社長

平鹿銀行當務取締役

君は秋田縣の人最上廣胖君の三男にして、明治八年三月を以つて生る。明治二十九年慶應義塾大學正科を卒業するや、直ちに歸鄉して地方產業の發達に盡瘁し現に角間川機業株式會社を長たる外平鹿銀行取締役にして、且つ秋田貯蓄銀行取締役として地方財界に聲名あり。

夫人イシ子は秋田縣の人久米良助君の長女にして君との間に義胖君及び榮子、とみ子、眞佐子、富美子、雪子等あり、現に秋田縣平鹿郡角間川に住す。

森彦三君

工學博士

名古屋高等工業學校長

君は岡山縣士族森庄藏君の二男にして慶應三年三月七日を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學工科大學を卒業するや、直ちに身を官界に投じ遞信省鐵道省各技師、帝國鐵道廳技師、鐵道院技師等を歷任し、曩に中部鐵道管理局工作課長兼新橋工場長たりしが、現時は從四位勳三等工學博士にして名古屋高等工業學校長として令名あり。

夫人金子は岡山縣の人相賀經太郎君の令姉にして岡山縣女子師範學校を卒業し君との間に正門君、技視君、博視君、公視君及び喬敏子等あり。

守屋此助君

勳三等　法政大學理事

東京勤產火災保險會社取締役

君は岡山縣の人守屋大一郎君の令弟にして、文久元年五月を以つて生る。夙に中央大學の前身たる東京法學院に學び後ち代言人試驗に及第して狀師となり、一般訴訟事務に從事するに至れり。

然して明治二十七年岡山縣より推されて衆議院議員となり、爾來選出せらるゝこと前後數回に及べり、曩に日露事件の功により勳四等に叙せられ、且つ日獨事件の勳功により勳三等に陞叙せられ、且つ法政大學理事として同校發展に盡瘁し傍ら東京動產火災保險、敎育銀行、吉林林業、日本建築紙工、東神火災保險各株式會社の重役たり。

夫人千代子は東京府士族平塚光榮君の二女たり、現に東京市京橋區南佐柄木町五番地に住し電話銀座七三〇番たり。

茂木惣兵衞君

橫濱貯蓄銀行頭取

茂木合名會社代表社員

君は先代茂木保平君の長男にして、明治二十六年三月を以つて生る。先代保平君は夙に高崎市に於て古着商を營みしが後ち橫濱に出でて生糸貿易業を經營し、巨萬の富を蓄積して本邦有數なる實業家として數へらるゝに至る。

君は即ち生れながらにして其の富を惠まれ、裕福なる中に普通敎育を卒へて八高に學びしも、たま〳〵大正三年嚴父の逝去に際會し、遂に中途にして學を廢し家業を繼ぎて前名貞太郎を改稱す。

然して其の一時七十七銀行頭取を始めとして幾多事業會社に關係し橫濱實業界に兩翼を自由に張りしが、現時は橫濱貯蓄銀行頭取たる外合名會社茂木商店代表社員として知らる、現に神奈川縣橫濱市辨天通り二ノ三〇番地に住す。

森田福市君

廣島縣多額納稅者

廣島縣會副議長

君は廣島縣の人森田善太郎君の長男にして、明治二十三年六月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍し前廣島生糸株式會社取締役にして、且つ廣島縣多額納稅者として直稅壹萬七千三百九十余圓を納め當地方財界の一勢力たり、

斯くて財界に羽振りを利かすのみならず、又縣制に參與して其の敏腕を振ひ、現に廣島縣會副議長として知らる。

夫人マツヨ子は廣島縣の人荒川眞造君の長女にして其の間に津滿枝子、[illegible]多計代

茂木佐平治君

野田醬油株式會社取締役
千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人先代茂木佐平治君の長男にして、明治二十四年九月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に千葉縣多額納稅者にして直稅二千七百七十余圓を納め、且つ野田醬油株式會社取締役として知らる。

夫人愛子は千葉縣の人茂木房五郎君の長女にして君との間に資一郎君、永三君及び鎖子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住す。

瀨川秀雄君

文學博士　學習院教授　從四位勳四等

君は舊岩國藩士瀨川盛器君の長男にして、明治六年八月廿七日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し、更に大學院に入りて戰國時代中國史を專攻す。

然して明治三十八年史學研究の爲め歐米諸國に留學し、歸朝するや學習院講師同院教授兼同院圖書館長、陸軍大學講師毛利公爵家三卿傳編纂所長等を歷任し、現時は學習院教授、同教務課長兼中等科長たり。

夫人くか子は男爵井上星三郎君の養叔母君にして君との間に素雄君、俊雄君、光雄君及び治子、文子、敦子、澄子、壽子、淑子等あり、現に東京市四谷區花園町八〇番地に住す。

茂木房五郎君

實業家
千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人先代茂木房五郎君の長男にして、明治三年七月を以つて生れ後ち家督を相續し前名熊藏を改稱す。

夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校に學び、後ち實業界に投じ醬油釀造業を營み、現に野田商誘銀行、野田醬油、萬上味淋各株式會社重役として地

方財界に名あり。尙ほ千葉縣多額納稅者にして現時直稅壹千三百四十余圓を納むといふ。

夫人ひで子は千葉縣の人茂木七郎右衞門君の叔母君にして、其の間に三千歲君芳次郎君、七郎君、新七君及びこと子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住し電話三番たり。

森廣三郎君

福井銀行取締役
福井絹糸倉庫會社長

君は福井縣の人森廣三郎君の長男にして、明治三年十一月七日を以つて生れ前名廣輔を改めて襲名す。曾つて福井縣會議員、同參事會員として縣制に參與し、明治三十七年には貴族院議員に互選せられしことあり。

現時は勳四等にして福井縣多額納稅者として令名を謳はれ、前記の諸職にある傍ら越前電氣、福井紡績、北陸電化各株式會社取締役たる外日本水電株式會社監査役として地方財界に名あり。

夫人くみ子との間に廣之君及びくみ子、惠美子、英美子等あり、現に福井縣今立郡國高村に住す。

千賀千太郎君

岡崎商業會議所會頭
岡崎貯蓄銀行頭取

君は愛知縣の人千賀傳三郎君の長男にして、明治十五年十一月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に岡崎貯蓄銀行頭取たる外額田銀行、岡崎銀行、岡崎瓦斯、天龍電氣、燧洋電氣、三陽農林、靜岡瓦斯、西尾鐵道、岡崎自動車、三河製粉、岡崎紡績各株式會社取締役にして且つ三河セメント、尾三貯蓄、岡崎倉庫、細谷製糸、東洋建築材料、駿陽電氣、東產社各株式會社の監査役として地方財界に令名嘖々たるものあり。

夫人なつ子との間に光吉君、武彌君及び千重子、百合子、三鶴子、十龜子、八與子等あり、岡崎市連尺町に現住す。

本野亨君

工學博士

君は舊佐賀藩士本野盛亨君の四男にして本野精吾君の令兄に當り、子爵本野盛一君の叔父君たり。明治三十五年京都帝國大學理工科大學を卒業し、更に佛國に留學してシュナイデル會社工場及び高等電氣學校に入りて電氣工學を專攻して歸朝し、爾來京都帝國大學理工科大學助教授、同教授等を歷任す。

夫人きよ子は東京府士族坂田春雄君の二女にして其の間に二男一女あり、現に京都市上京區聖護防圓頓美町二一番地に住し電話上三一三三番なり。

森村開作君

男爵　正五位

君は先代男爵市左衞門君の二男にして明治六年十二月を以つて生れ大正八年襲爵す。明治廿五年慶應義塾を卒業し翌廿六年米國に航し同國商業學校に學び在留九ヶ年にして歸朝す。

爾來森村組に在りて父君の業を補佐し其の歿後之を繼承して森村銀行頭取を初め横濱正金銀行、九州水力電氣、富士瓦斯紡績、森村商事、第一生命、明治製糖其他幾多會社の重役及び森村豊明會、東京慈惠會、理化學研究所其他多數公共事業に理事又は幹事として盡瘁す。

夫人をうめ子と呼び子爵井上勝純君の令姉たり、東京市芝區高輪南町三三番地に現住し電話高輪六六七番なり。

森　廣藏君

臺灣銀行頭取

君は鳥取縣の人森甚十郎君の三男にして、明治六年二月廿四日を以つて生れ同卅七年十二月分家して一家を創立す。

明治卅年東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に身を投じ横濱正金銀行に入り本店詰、上海支店詰、牛莊支店詰、倫敦支店詰等を經て神戸支店支配人となり同時に神戸商業會議所特別議員たりしが後ち倫敦支店副支配人に轉任し、大正十二年三月臺灣銀行取締役の地位に就き副頭取たりしが、大正十四年八月同行頭取仰せ付けられ以つて今日に及ぶ、銀行倶樂部、交詢社、如水會、南洋協會日華實業會各會員たり。

夫人みつ子は兵庫縣士族與田孫一君の長女にして其の間に長男幸雄君及び長女春子、二女節子、三女久子、四女泰子等あり、現に東京市芝區高輪南町四七番地に住し電話高輪一〇三番なり。

本野精吾君

京都高等工藝學校教授

君は舊佐賀藩士本野盛亨君の五男にして子爵本野盛一君の叔父君に當り、明治十五年九月十五日を以つて生れ後ち分れて一家を創立す。明治三十九年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し、更に圖案學研究の爲め英佛獨各國に留學し斯學の研鑽を積みて歸朝するや、明治四十一年京都高等工藝學校教授に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人花枝子は東京府の人佐々木廣勝君の長女にして君との間に三男ありて長男を享一君、二男を正一君、三男を東一君と稱す、現に京都市上京區東丸太町通廣道東入に住す。

關島卯三郎君

關島商店經營者
明治大學評議員

君は長野縣の人關島武市君の二男にして、明治十二年七月拾五日を以つて同縣下伊那郡下川路村に生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切磋琢磨の功空しからず、明治三十六年優秀の成績を以つて明治大學法科を卒業す。

然して實業界に志し日本火災保險株式會社に入りて恪勤すること三ヶ年、後ち東亞火災保險株式會社に轉勤し、更に大倉商事株式會社に轉じ、大正七年七月在職のまゝ中央火災傷害保險の前身たる日本火災傷害保險株式會社營業部長に擧げられ、同年九月大倉商事會社を辭して、

專心中央火災傷害保險株式會社の爲め盡瘁するに至れり。

偶々大正十四年十二月獨立の機運愈々熟するや、奮然起つて獨立の旗幟を飜し關島商店を開設して中央、日本、東京、明治等各一流火災保險會社の代理店を特約し、尚ほ傍ら地方顧客の便益に資する目的を以つて代理部を兼營し、今や帝都同業界に於ける有數なる代理店を以つて目せられ、社會の信望月に年に加はり前途益々多望なるものあり。

尚ほ昭和二年四月全國火災保險被保險者を打つて一丸となし、我が國火災保險制度の改善發達に資するは勿論、被保險者相互の研究機關として廣く江湖の贊同の下に茲に大日本火災保險被保險者協會を創立し、君は其の理事として內外の事務を執掌する外、母校明治大學々員會評議員として盡瘁すること尠少ならず。

夫人みよ子は新潟縣の人安部吉右衞門君の四女にして新潟縣立產婆學校を卒業し、君との間に秀郎君、和郎君、吉郎君及び綠子等あり、東京府荏原郡世田ヶ谷町大字北澤八〇二番地に現住す。

森　恪君

東京鑛業株式會社代表者

君は大阪府の人森作太郎君の二男にして、明治十六年二月十五日を以つて生る夙に實業界に身を投じ、曾つては三井物産株式會社天津支店長、中日實業株式會社常務取締役、小田原紡織株式會社取締役等を歷任して我が國實業界に貢獻すること甚大なり。

然して大正九年には衆議院議員に當選して政界に活躍し、現時は東京鑛業株式會社代表社員たる外東洋採炭、東洋電鑛、東亞通商、滿洲採炭各株式會社の重役として斯界に聲名あり。

夫人榮枝子は男爵瓜生外吉君の三女にして君との間に新君、卓君等あり、現時は大阪市西區江戸川北通一ノ二九番地に住し電話土佐堀三六〇番なり。

茂木七左衞門君

野田商誘銀行常務取締役

君は千葉縣の人先代茂木七左衞門君の二男にして明治十一年八月を以つて生る夙に千葉縣下財界に羽振りを利かし、現に野田商誘銀行常務取締役たる外萬上味淋、野田醬油、北總鐵道各株式會社の重役として知られ、且つ千葉縣多額納稅者として直接國稅壹千七百九十余圓を納むといふ。

夫人まき子は埼玉縣の人關口茂一郎君の長女にして君との間に潤一郎君及びりん子、春子、きぬ子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住す。

關　直彥君

衆議院議員　勳三等

君は舊和歌山藩士關平兵衞君の二男にして、安政四年七月を以つて生る。明治十六年東京大學法學部を卒業す。

曩に東京日々新聞記者、麴町區會議長代理、東京市會議員、帝國石油株式會社

長たりしが現時は日本格魯謨株式會社監査役にして、且つ明治二十三年以來衆議院議員に當選すること前後九回に及び、現に其の任にありて我が政界に令名嘖々たり。

夫人はな子は石川善吉君の長女にして君との間に盛雄君あり、現に東京市京橋區木挽町一ノ一五番地に住し電話京橋一一〇番たり。

百井正明君

土木建築請負業
百井組頭取

帝都復興建築界に活躍して灼々たる名聲を博し、今や斯界に其の雌雄を競ふて漸次堅實なる地歩を獲得し、社會の信望月に年に增大する我が百井組代表者百井五三郎正明君は、明治十三年一月十日を以つて函館市に生る。

夙に鄉里の中學校を卒ふるや直ちに實業界に投じ、明治四十一年青雲の志を抱いて單身上京して東都建築界に投じ、大正元年當時斯界の重鎭を以つて目せられし雨宮長次郎氏の配下に入りて、專心斯業研究の傍ら自ら業務擔當責任者として活躍大いに努め、其の間三越吳服店本館東京銀行集會所、東京海上ビルディング等の大建築工事に從事して何れも完璧を期して賞讃を博し、同組の發展に盡瘁すること甚大なりき。

然るに怨むべし、大正五年四月雨宮長次郎氏不幸病を得て他界せしかば、君其の遺族及配下一同の懇請を入れて業務を繼承して獨立開業し、爾來益々奮闘以つて今日に及べるものにして、此の間請負工事數枚擧に遑あらざるも就中其の主なるものは宮中賢所御前コンクリート堀、淀橋專賣局修築工事、代々木停車場改築工事、霞ヶ關海軍省構內無線電信塔、濱松市三方ヶ原飛行七聯隊飛行機格納庫等諸官衙の大建築工事を始めとして、三菱假本社、三菱銀行部、朝鮮銀行本館、東京會館、三越吳服店西南各館、同落合染色工場、同目白製線工場、日本工業俱樂部、橫濱正金銀行東京支店、國技館、上野國產奬勵會館、丸ノ內ホテル、東京株式取引所等の都下著名なる鐵筋コンクリート新築工事及び橫濱正金銀行、日本銀行、千代田館、淺野セメント、東洋印刷東亞製粉、帝國劇場、第一銀行、森村銀行等の各復舊修理工事は勿論土方伯爵邸岡部邸、大島邸等諸名家の建築請負に至るまで何れも完璧を期し、君が責任ある請負と優秀なる技術とは愈々社會の信望を擔ひ、今や帝都はおろか遠く各地方にまで其の勢力を波及し、我が百井組の名聲東西に嘖々たり。

復興の帝都は多事にして多端、君の力に俟つべきもの蓋し多からん、宜しく自重自愛以つて其の大成を期して可なりである。因に君は深く日蓮宗に歸依し常に御聖訓を以つて其の事業的精神の骨子となし、更に「一心欲見佛、不自惜身命」を君の生命省察の玉條として修養これ怠らず、又正武護國會道場を開設しては精神鍛練の機關となし、尙ほ大日本武德會

特別會員たり、以つて君の人と爲りを知るべく、今日東都土木建築界にありて錚々の名ある故なきにあらざるべし。

現に事務所を神田區三河町に有し、府下池上町德持四四六番地に現住す。

森田繁男君

利根運河株式會社專務取締役
唐津炭礦株式會社取締役

君は群馬縣士族高畠平作君の二男にして、明治元年八月を以つて生れ先代信四郎君の養嗣子となる。夙に實業界に投じ現に利根運河株式會社專務取締役たる外唐津炭礦株式會社取締役にして又曾つて縣會議員として縣制に參與せり。

夫人まき子は群馬縣の人森田文宇君の長女にして君との間に二女ありてサダ子等なり、千葉縣東葛飾郡新川に現住す。

森平兵衞君

實業家

君は大阪府の人松井小兵衞君の二男にして明治七年二月を以つて生れ、先代平兵衞君の養子となり前名小二郎を改稱す現に大阪商業會議所議員にして且つ東亞藥業株式會社取締役たる外東印度貿易株式會社監査役たり。

夫人檜榮子は大阪府の人田畑利兵衞君の四女にして其の間に一郎君及び朝子あり、現に大阪市南區心齋筋二ノ一三番地に住し電話南九〇一番なり。

森田三郎君

辯護士　特許辨理士
實業家

君は滋賀縣の人森田利兵衞君の長男にして、慶應三年十月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學法科大學を卒業するや官界に職を奉ず。

爾來京都區裁判所檢事等の要職にありしが後ち官を辭して辯護士を開業し、現に其の職にある傍ら大阪ホテル、京都信託各株式會社の專務取締役たる外京都第一倉庫、大阪工業藥品、大阪ビルディング、名古屋信託、東亞興業、東洋塗料各株式會社重役として知らる。

夫人さい子は京都府の人甲和龜次郎君の長女にして君との間に二男二女あり、現に京都市上京區柳號場通御池南入に住し電話上一二三〇番たり。

瀨川昌世君

醫學博士
瀨川小兒科病院長

君は故醫學博士瀨川昌耆君の長男にして、明治十七年十一月二十三日を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學醫科大學を卒業するや、更に獨逸に留學して斯學の研鑽を積むこと數年、其の造詣を深くして歸朝す。

然して專心小兒科の研究に盡瘁し、今や我が國醫學界に小兒科の權威として令名高く、現時瀨川小兒科病院長として知られ、且つ內務省保健衞生調査會委員たり、曩に醫學博士の學位を授與せらる。

夫人喜子は男爵古市公威君の長女にし

て、東京女子高等師範學校附屬高等女學校の卒業たり、東京市本郷區弓町二丁目三十四番地に現住し電話小石川一二六一番なり。

盛田喜平治君

七戸水電株式會社長
青森縣多額納稅者

君は青森縣の人盛田喜平治君の長男にして、慶應元年八月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に七戸水電株式會社々長にして、且つ青森縣多額納稅者として直稅壹萬三千三百七十余圓を納め當地方に於ける勢力家の如し。

夫人との間に富太郎君及びさと子、かつ子、きよ子等あり、現に青森縣上北郡七戸に住す。

諸井四郎君

西武鐵道會社常務取締役

勳四等實業家諸井四郎君は埼玉縣の人諸井泉衞君の四男にして、明治二年一月を以つて生れ、後ち分家して一家を創立す。明治三十三年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業するや直ちに實業界に投じ日本煉瓦製造會社會計課長、澁澤倉庫支配人京釜鐵道會社取締役等を歷任し、日露事件の功に依り勳六等に敘し瑞寶章を授けらる。

明治三十八年より東亞製粉株式會社々長たりしが大正十一年六月同社を辭し、現時は西武鐵道株式會社常務取締役として內外の事務を執掌する傍ら、東京毛織株式會社並に秩父鐵道株式會社取締役として知らる。

夫人をせき子と呼び東京府の人柿沼谷藏君の令妹たり、現に東京市本郷區湯島新花町九四番地に住し電話小石川二二七九番なり。

守田勘彌君

俳優

君は本名を守田好作と呼び十二代目勘彌の三男にして、明治十八年十月十八日を以つて生る。夙に劇界に志し、僅かに六歲の頃新富座に於て「樋口逆櫓の遠見の船頭」の初舞臺より早くも其の才幹を發揮し、明治二十二年先代を襲名して勘彌と改め同時に市村座出勤となる。

大正七年十二月市村座を退きて文藝座を組織し菊池寬氏の作「忠直卿行狀記」を上演して新劇俳優としての技倆を世に問ひ、更に同八年四月帝劇專屬となり新劇を上演し、時に市川猿之助君の春秋座に加盟して劇界の衰頽振興に努力し、俳優の先覺者として將來を囑望せられ「忠直卿行狀記」「恩讐の彼方」「俊寬」「幽靈」「その妹」「生きてゐる小平次」等は君の最も得意なりしものにして今や守田勘彌の名我が劇壇に嘖々たり。

俳句を能くしさつきの栽培に妙なりといふ、夫人を君子と呼び內助の譽れ高し現に東京市下谷區上根岸町一一九番地に住し電話下谷三二〇九番なり。

森淑君

西駿銀行常務取締役

君は靜岡縣の人森定四郎君の長男にして、明治五年三月を以つて生る。現に西駿銀行常務取締役たる外、島田銀行取締役にして且つ島田軌道株式會社監査役として知らる。

夫人津奈子は靜岡縣の人氣賀半十郎君の長女にして其の間に四男六女あり、現に靜岡縣志田郡島田村に住す。

森政美君

合資會社ラヂオ商會社長

奮闘今や着々として我が財界に雄飛しつゝあるラヂオ商會代表社員森政美君は東京府の人森善平君の長男にして、明治十六年四月十一日を以つて生る。

夙に香川縣立中學校を卒業するや青雲の志を抱いて東上し、研鑽以つて中央大學を卒業し、直ちに身を實業界に投じ、明治四十四年十二月より銀座菊屋町に貿易商を開設し、後ち大正十三年六月井上電話店を開き、電話賣買仲立業に從事する傍ら合資會社ラヂオ商會代表社員として活躍するに至る、尙ほ東京無線電話機商組合員にして曩に東京電話營業組合幹事たりしことあり。

夫人梅子は東京府の人畠等平八君の長女にして貞淑の譽れ高し、現に東京市日本橋區本石町一ノ一一番地に住し電話大手一〇〇五番一八八〇番なり。

關重兵衛君

群馬縣多額納稅者
伊勢崎銀行取締役

君は群馬縣の人鈴木重太郎君の三男にして、慶應三年九月を以つて生れ後ち先代重兵衛君の養嗣子となる。夙に實業界に身を投じ現に伊勢崎銀行、上毛撚糸各株式會社取締役にして、且つ群馬縣多額納稅者として直稅三千九百八十余圓を納むといふ。

夫人しげ子は群馬縣の人須藤儀左衞門君の三女にして君との間に定平君、信夫君及びふみ子等あり、現に群馬縣佐波郡伊勢崎に住す。

持永善市君

都城銀行取締役

君は宮崎縣の人持永善吉君の長男にして、明治九年十月を以つて生る。現に都城銀行取締役たる外宮崎農工銀行監査役にして且つ眞幸電氣、北諸縣郡是製糸各株式會社取締役たり。

夫人スエ子は同縣の人南崎十兵衞君の二女たり、現に宮崎縣北諸縣郡加島村に住す。

森田佐吉君

實家業
大阪米穀取引所取引員

君は森田源次郎君の長男にして、明治元年九月を以つて播磨國に生る。當家は代々米穀商を營みしが君の幼時に於て、嚴父源次郎君公債株式の賣買業を初めて見事失敗し、家產の全部を失ひしかば忽

又清韓兩國に差遣せられ、現に東京帝國大學教授として令名あり。

夫人ちせ子との間に元一君及び敏子等あり、東京市赤坂區青山南町五ノ四五番地に住す。

森田國太郎君

土木建築左官工事請負業
東京左官工業組合工友會長

君は東京府の人にして明治三年五月を以つて生る。當家は代々商業を以つて業となし、東都に於ける有數なる老舗たりしが、君の時代より土木建築界に志を立てゝ斯界に活躍し、明治三十年獨力以つて左官工事其他一般土木建築の請負を開始し、爾來幾多の波瀾曲折は免れざりしと雖も、業運慨して順調を辿り以つて今日に及べるものなり。

然して其の永き年月の奮闘によりて得たる君が尊き經驗と修練とは、漸次技術の上に遺憾なく發揮せられ、その優秀なる技術と堅實なる施工振りとはやがて社會の信望を博し、今や東都同業界の元老として重きをなし、傍ら東京左官工業組合工友會々長として盡力すること蓋し甚大なり。

君や資性豪放、毫も些々たる小事に拘泥せず、又極めて義俠に富み、後輩を誘掖する懇切にして、其の敬虔なる德は世人の最も畏敬するところ、君の今日ある又故なきにあらざるべし。

現に東京市神田區紺屋町十一番地に住す。

森下亀太郎君

辯護士　辨理士

君は岡山縣士族森下眞諒君の三男にして明治二年十一月を以つて生る。明治二十七年明治法律學校を卒業し、曩に衆議院議員たりし外大阪市會議員たりしが、現時は辯護士及び辨理士として大阪法曹界に令名あり。

夫人奈良兎子は大阪府の人杉野與宗君の二女にして其の間に五男五女あり、現に大阪市東區今橋通五ノ八番地に住し電話本局一二四三番なり。

諸戸北郎君

東京帝國大學教授

君は三重縣の人諸戸清三君の長男にして、明治六年九月一日を以つて生れ先代清吉君の養嗣子となる。明治三十一年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し、更に大學院に入り學業成るや林業研究の爲め獨墺洪各國に留學す。

然して歸朝後は專ら教育事業に盡瘁し曩に東京帝國大學農科大學助教授にして

森岡保喜君

東京市下谷區長

君は原籍を大阪府に有し、明治八年十二月を以つて高知縣土咸郡小高坂村に生る。夙に鄉校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、中央大學の前身たる東京法學院大學に學び、研鑽琢磨螢雪の功空しからず、明治三十三年十月優秀の成績を以つて同學を卒業す。

然して後ち職を官界に奉じ、明治四十年六月兵庫縣警部に任じ、翌年八月文官普通試驗に首尾よく登第し、同四十三年六月警視廳警部に榮轉し、翌年六月東京市淺草區象潟警察署長に任ぜられ、爾來同區の爲め貢献すること甚大なりき。

斯くて大正二年九月辭して日本橋區役所に入り同書記として恪勤すること一昔年、大正十二年同區主事に陞進し、更に大正十五年十二月拔擢せられて、東京市下谷區長の椅子を贏ち得て以つて現在に及ぶ、復興途上にある帝都は多事にして多端、天禀豐かなる君の才量を發揮して同區の爲め盡瘁する又疑ひなかるべし、現に東京市麻布區廣尾町七十九番地に住す。

茂木鋼之君

東京サルヴェージ會社會長

君は靜岡縣士族茂木茂勳五等茂木鋼之君の長男にして、安政五年六月を以つて生る。夙に海事に志し、明治五年攻玉堂近藤塾に入りて航海術及び數學を修得し同十年三菱會社に入り、同十八年同社が共同運輸株式會社と合併して日本郵船株式會社の成立を見るや、君入りて同社所有船の船長となり、各地を航して功績甚大なりき。

偶々日清戰役勃發するや君は陸軍運輸逐船々長及び海軍病院船神戸丸船長として國家の爲め功を立て勳六等に叙し旭日章を授けられ同三十年八月監督助役に轉勤し、日露の役には佐世保及び海軍根據地に出張して會社の御用船事務を監督し功に依り勳五等に叙し同三十九年監督に進み次いで航海課長となり、現に東京サルヴェージ株式會社取締役會長たり、曾つて大藏省臨時建築部顧問を囑託し又內務省港灣調査會委員に擧げらる。

夫人まさ子は東京府士族小林彌三郎君の令妹にして君との間に省一君あり、東京市小石川區原町一三番地に現住す。

關谷守男君

關谷合資會社代表社員
東三商事株式會社取締役

君は愛知縣の人關谷泰君の長男にして明治十五年十月を以つて生る。夙に地方財界に活躍し、現に前記の要職にある外北設樂銀行、新城病院、三州絹紡、三河木材各株式會社取締役として知らる。

尙ほ愛知縣多額納稅者にして現時直接國稅二千四百九十余圓を納むるを以つて

地方實業界に名あり。

夫人きみ子は愛知縣の人中村正次君の長女にして君との間に一郎君、晃君、城三君及びゑみ子、千枝子等あり、現に愛知縣北設樂郡田口町に住す。

關本英作君

常盤生命保險會社專務取締役

君は山梨縣の人關本勘左衞門君の令弟にして、明治五年八月を以つて生れ同十二年十月絶家關本家を再興す。

明治二十九年東京帝國大國工科大學機械工學科を卒業するや、直ちに實業界に投じ三重紡績株式會社に入社して同社技師に任じ、爾來同社の發展に盡瘁すること甚大、累進して同社取締役に擧げられ後ち東洋織布株式會社專務取締役として內外の社務を執掌し、其の貢獻すること尠少ならざりき。

然して感ずるところありて斷然職を辭して歐米視察の途に上り、彼の地の經濟狀況を具さに研究して歸朝し、後ち常盤生命保險株式會社の創立に參畫して其の設立を見るや推されて同社專務取締役に就任し、以つて現在に及べるものにして傍ら日本觀光、大正鑛山各株式會社取締役及び愛知銀行協議役たり。

夫人とく子は山梨縣の人志村源太郎君の養妹にして其の間に健男君、健二君及び八重子等あり、東京市牛込區南榎町五四番地に現住し電話牛込五四三番たり。

森俊六郎君

正四位勳三等

山東鑛業株式會社監査役

君は福島縣の人森惣左衞門君の五男にして、明治十年三月六日を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに官界に投じ大藏省に職を奉じ、翌年書記官に任ぜられ爾來大藏大臣祕書官、同省參事官、同書記官兼參事官、銀行局長、理財局長等を歷任せり。

然して後ち官界を辭して臺灣銀行に入り、同行副頭取仰せ付けられしが、後ち南滿州鐵道株式會社理事に任じ、現に其の職にある傍ら山東鑛業株式會社監査役たり、謠曲に堪能にして社交に厚く日本倶樂部、鐵道協會各會員たり。

夫人朝子は子爵大久保忠春君の令姉にして女子學習院を卒業し君との間に倭子文子等あり、現に東京市牛込區若松町七五番地に住し電話牛込五七番たり。

元田傳君

東京高等師範學校教授

君は東京府の人元田直君の長男にして同肇君の養弟に當り、慶應三年六月を以つて生る。明治二十三年東京帝國大學理科大學を卒業し、尙ほ進んで大學院に學び、更に明治三十四年數學研究の爲め英國及び獨逸に留學し、造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝後は專心敎育界に盡瘁し曩に海軍大學敎授たりしが現時は從五位勳四等勅任待遇にして、東京高等師範學校

敎授たり。

夫人を楓子と呼び京都府士族李家隆介君の令妹にして君との間に太郎君、大助君及び福子、愛子、慶子等あり、現に東京市小石川區大塚仲町二六番地ノ第八號に住す。

關矢孫一君

小出銀行取締役會長

衆議院議員

父祖三代連綿たる政治家として有名であり、更に父祖傳來の資產二百餘萬圓を擁する素封家として、名にしあふ青年政治家關矢孫一君は、故衆議院議員關矢橘太郎君の二男にして、明治二十五年二月十五日を以つて生る。

夙に小千谷中學校を經て慶應義塾に入りしも、嚴父早逝の爲め中途にして學業を廢し、爾來鄉里にありて廣瀨村會議員北魚沼郡聯合青年團長等に推され、續いで大正十三年新潟縣郡部より立候補を宣し木村、樋口の兩醫學博士を向ふに廻して奮戰し、遂いに當選の榮冠を克ち得て中央政界に乘り出し憲政會に屬す。

今や其の雄辯と機畧縱橫とは父祖を辱めざる前途多望の政治家と目せられ、尙ほ前記諸職の外堀田銀行、北越殖民各株式會社の重役にして且つ新潟縣多額納稅者として、現時直接國稅四千八百五十余圓を納む、文學、劇、音樂等に趣味を有すといふ。

夫人由美子は新潟縣の人佐藤佐平治君の六女にして內助の聞へ高し、現に東京府豐多摩郡下澁谷三〇番地に住し電話青山六〇八一番なり。

森伊三次君

實業家

君は長崎縣士族森伊三次君の長男にして、明治二年十月を以つて生る。現に長崎具卽、久保鐵工所各株式會社取締役に して且つ日本タルク製造株式會社監査役たり。

夫人をミサ子と呼び其の間に吉郎君及びノブ子、フミ子等あり、現に長崎縣長崎市館內町に住す。

森田三郎右衞門君

醬油釀造業及船荷卸商

君は福井縣の人森田三郎右衞門君の長男にして、明治十二年十二月を以つて生る。現に福井縣多額納稅者にして森田銀行及び森田貯蓄銀行の各頭取たる外森田銀行倉庫運送部の社長たり。

夫人かず子は同縣の人橫山吉十郎君の養女にして其の間に四男五女あり、現に福井縣坂井郡三國町に住す。

森正則君

小樽商業會議所議員

大正證券株式會社取締役

君は愛媛縣士族岡本正金君の養子にして、明治五年四月を以つて生る。現に小樽商業會議所議員にして、且つ大正證券株式會社取締役たる外早川商店と稱して文房具商を營み地方財界の重鎭たり。

夫人タケ子は養父久通君の二女にして其の間に久則君、龍夫君、通則君及びタミ子等あり、現に北海道小樽市色内町七丁目に住す。

關口兒玉之輔君

東洋紙工印刷會社常務取締役
大島拓殖電氣會社長

君は埼玉縣の人關口直溫君の二男にして、明治十一年七月三十一日を以つて生れ、大正四年絕家關口家を再興す、明治三十六年專修大學理財科及日本大學法律科を卒業するや、直ちに實業界に入り大日本人造肥料株式會社に入社し、在勤十三年大いに敏腕を振ひぬ。

然して大正八年十一月大正紙器株式會社に轉じて其の支配人となり、後ち東洋紙工印刷株式會社取締役支配人となり、尋いで同社常務取締役に擧げられ、現に其の任にある外大島拓殖電氣株式會社取締役社長として知らる。

趣味として美術工藝品あり特に虎に關するものを愛好すといふ。

夫人ます子は東京府の人桑山龍之助君の二女にして其の間に長男直久君、二男進兒君、三男博之君、四男武之輔君及び長女達子等あり、現に東京市本鄉區駒込蓬來町七番地に住し電話小石川五九〇五番なり。

瀨下清君

三菱銀行常務取締役
日佛銀行取締役

本邦銀行界の重鎭瀨下清君は長野縣の人瀨下七兵衞君の三男にして、明治七年九月十八日を以つて生れ後ち先代起十君の養嗣子となる。

明治三十六年東京高等商業學校附屬主計學校を卒業するや實業界に志し、三菱合資會社に入社し、漸次昇進して同社銀行部支配人より常務取締役に擧げられ、現に其の要職にある傍ら日佛銀行、三菱海上火災保險各株式會社の重役として知らる。

曾つて銀行事務研究の爲め歐米に留學せしことあり。讀書に趣味を有し銀行俱樂部、交詢社等の各會員たり。

夫人千勢子は東京府士族笹田敬修君の長女にして其の間に貞夫君及び漣子、克子、悅子、春子、和子等あり、現に東京市芝區車町七六番地に住し電話高輪一三一二番なり。

關根要八君

日本鐵工株式會社會長
東洋汽船株式會社取締役

君は福島縣の人關根直藏君の五男にして、明治六年五月三十日を以つて生る。明治二十六年青山學院を卒業するや、更に露國陸軍大佐イワノサ及び文學士莊司鐘五郎君等に就いて露語を研究す。

然して研鑽を積むや實業界に投じ、淺野商店廻送部に入り汽船事務長となり沿岸航路に從事せしが、明治二十八年貨物監督となり露領浦塩及び樺太に航し、明治二十九年東洋汽船株式會社に轉勤し、

同社調度課長、文書課長等を歷任し、大正八年同社專務取締役に擧げられ其の經營に盡瘁せしが、後ち同社を辭し現に前記の諸職にある外帝國ホテル常任監査役として知らる。

夫人惠美子は東京府士族潮田建二郎君の二女にして青山女學院を卒業し君との間に直矢君、健兒君及び八千代子、芳枝子、靜子、已代子、和子等あり、現に東京府荏原郡上大崎二五四番地に住し電話高輪一六二六番たり。

森田富次郎君

浮羽銀行頭取

君は福岡縣の人森田益藏君の長男にして、明治三年十二月を以つて生る。現に浮羽銀行の頭取たる外田主丸銀行及び田主丸貯蓄銀行、兩筑軌道各株式會社の取締役たり。

夫人をマサ子と稱し同縣の人有吉金右衞門君の長女にして其の間に千君、工君皐君及び陸子、ハマ子、イコ子等あり、現に福岡縣田主丸町に住す。

森　環君

大分縣農工銀行監査役

君は大分縣の人森鶉吉君の長男にして明治九年六月を以つて生る。現に勳四等にして大分縣農工銀行監査役たる外鶴崎木材株式會社取締役、大分縣大野郡上井田村會議院議員に當選せしことあり。

夫人をコスエ子と呼び大分縣の人首藤玄甫君の二女にして君との間に三男一女あり大分縣大野郡上井田村に現住す。

瀨島猪之丞君

東京揮發油株式會社長
千代田石油株式會社長

君は鹿兒島縣の人瀨島熊助君の長男にして、明治三年二月一日を以つて生る。夙に實業界に志し明治二十六年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに日本石油株式會社に入社し、漸次累進して同社營業課長たりき。

大正三年同社を辭して旭石油株式會社の前身たる瀨島製油所を創立し、後ち同所を旭石油株式會社と改稱して自ら其の社長に任じ、多年の蘊蓄を傾注して社運大いに擧りしかば更に東京揮發油株式會社を創立して社長となり、大正十三年二月千代田石油株式會社を創立して其の社長に就任し以つて現在に及ぶ。

趣味として園藝あり、相州湯河原の所有地内の溫泉廢湯を利用して溫室を作り四季百花を以つて滿たさるゝと云ふ、現に東京市牛込區納戸町三七番地に住し電話牛込一四九一番なり。

關戶守彥君

日本貯蓄銀行頭取
愛知縣多額納稅者

當家は代々名古屋に住し、各藩士の御用金方を勤め、同地三人衆の一に數へられし舊家にして、君は先代二郎君の長男に當り、明治二年八月を以つて生る。

夙に地方金融界に活躍し獨力以つて關

戸銀行を創立し、後ち同行が愛知銀行と合併せらるゝや君推されて同行重役に擧げられ、現に其の職にある外前記銀行頭取にして、且つ千歳殖産株式會社取締役として地方財界に重きをなす。

尙ほ愛知縣多額納稅者にして現時直接國稅五千百余圓を納むるを以つて知らる趣味として書畫、骨董を愛好し其の鑑識力非凡なりといふ。

夫人隆子は兵庫縣の人小西茂十郎君の三女にして君との間に有彥君、明君、高君及び萩子、苗子、和子、淳子等あり、現に名古屋市西町堀詰十七番地に住し電話西一〇〇七番たり。

本川藤三郎君

氷見銀行頭取
氷見電氣株式會社取締役

君は富山縣の人吉田善七郎君の二男にして、明治十年八月を以つて生れ、後ち先代藤三郎君の養嗣子となり前名友次郎を改稱す。

夙に地方財界に投じ現に前記の外富山合同貯蓄銀行、丸一木材各株式會社取締役にして、尙ほ富山縣多額納稅者として直稅壹千六百六十余圓を納むといふ。

夫人との間に藤一郎君、藤成君、及びみよ子、てる子等あり、現に富山縣氷見郡氷見に住す。

瀨木博尙君

株式會社內外通信社長
信越木材株式會社取締役

君は東京府士族瀨木博重君の長男にして、嘉永五年十月を以つて生る。夙に實業界に投じ後ち株式會社內外通信社を創立して同社長に就任し、內外新聞通信事業に貢獻すること甚大、且つ株式會社博報堂を興して廣告通信業を營み、我が國斯界の元祖として知らる。

尙ほ前記の諸職にある傍ら日本化工、富士木材各株式會社の重役にして且つ前記博報堂主たり。

曩に我が國新聞通信及び雜誌等の歷史的發達を永く後世に遺し、斯業の發展に資せんことを志し、吉野作造博士等と相謀り同資料保存の爲め東京帝國大學構內に資料保存館を建設すべく、多額の寄附をなす等君が我が通信事業に貢獻することと蓋し甚大なりと云ふべし。

夫人とめ子は千葉縣の人武田常吉君の叔母君にして君との間に博吉君、博俊君博信君、博政君、博克君及び靜子、純代子、美佐子等あり、現に東京市牛込區河田町九番地に住し電話牛込一一二〇番なり。

×

諸戸淸六君

諸戸殖產株式會社長
內外倉庫運輸株式會社取締役

君は三重縣の人諸戸淸六君の四男にして明治十七年七月五日を以つて生れ、前名淸吾を改めて襲名し其の家督を相續す嚴父淸六君は米穀仲買業を營み、後ち諸戸殖產合名會社を創立して專ら土地開墾及び殖產林業等に從事し、明治二十年に

は海防費として金二萬圓を獻納し從六位に叙せらる。

君即ち祖業を繼承し曩には東海生命保險株式會社取締役に擧げられ、現に諸戸殖產合名會社長たる外福島木材、內外倉庫運輸各株式會社取締役として知らる。

夫人てる子との間に民一君、鐵男君等あり、現に東京市麹町區元園町及び三重縣桑名郡桑名町に住す。

×

守安瀧次郎君

秋田木工株式會社常務取締役
株式會社日米商店取締役

君は東京府の人守安瀧三郎君の長男にして、明治二十年七月を以つて生る。明治四十年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ橫濱正金銀行に入りて同行本店、安東縣出張所、大連支店等を歷勤す。

然して後ち同行を辭して歐米に歷遊し彼の地の經濟狀況を視察見學して歸朝し現に秋田木工株式會社常務取締役たる外株式會社日米商店取締役たり。

夫人喜美子は和歌山縣の人明渡知瑜太郎君の長女にして君との間に祥太郎君及び照子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷加賀町二ノ十六番地に住し電話牛込七三四番たり。

守田保太郎君

ラヂウム製藥株式會社專務取締役

君は東京府の人先代重次郎君の長男にして、明治十五年三月を以つて生る。

現にラヂウム製藥株式會社專務取締役たり。夫人をハル子と稱し東京府の人森島萬造君の三女なり、現に東京市外入新井新井宿一四五九番地に住し電話大森六四〇番たり。

望月利八郎君

廣島縣多額納稅者

君は廣島縣の人望月利八郎君の長男にして、明治三年三月を以つて生る。夙に廣島地方財界に投じ、てんぐ本店と稱して當地方有數の小間物問屋として知られ尙ほ廣島縣多額納稅者として直稅壹千六百六十余圓を納むといふ。

夫人との間に庄太郎君及び富美子、縫子等あり、現に廣島市中島本七三番地に住し電話三六一番なり。

森永善吉君

森永製菓會社取締役總務部長

君は小林平左衛門君の三男にして、明治十九年十月を以つて生れ大正五年森永太一郎君の養嗣子となる。夙に米國に航し彼の地の實業界に活躍して實地の研鑽を積むこと三年有半、大いに造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝するや直ちに森永製菓株式會社に入社して同社販賣部長、仕入部長營業部長、外國販賣部長等を歷任し累進して現に同社取締役兼總務部長として內外に重きをなし、傍ら森永製品販賣株式會社の重役として知らる。謠曲は君の最も得意とするところ、其の餘韻や錚々と

して頗る珍妙なり……とか。

夫人マサ子は養父太一郎君の長女にして東京高等女學校の卒業たり、現に東京府荏原郡北品川宿七二七番地に住す。

森山茂君

大洋速進機製作所代表社員
垣根商店支配人

君は岡山縣の人森山代乃君の長男にして、明治十九年一月二十九日を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、螢雪の功空しからず早稻田大學法科を卒業す。

然して直ちに實業界に投じ、明治四十四年以來垣根商店に恪勤精勵、同店發展に盡瘁すること甚大にして、現に其の支配人として內外の事務を執掌する傍ら、合名會社大洋速進機製作所代表社員として知らる。

夫人操子は東京府士族村田重治君の三女にして愛知縣立高等女學校の卒業なり現に東京府北豐島郡高田町巢野三五五一番地に住し電話牛込七八二番たり。

關口伊太郎君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人關口金次郎君の三男にして、明治九年十一月十八日を以つて生る。現に大阪府多額納稅者として直接國稅五千二百九十余圓を納め、即ち多額納稅者の故を以つて名士として恥かしからざる人物なり。

夫人ソノ子は大阪府の人森川岩吉君の二女にして君との間に伊三郎君、信二君及びハナ子、フヂ子、絹子、愛子、尙子等あり、現に大阪市浪花町南坂一五四ノ一番地に住し電話南一三六二番たり。

森六郎君

株式會社森商店社長
德島縣多額納稅者

君は德島縣の人森六郎君の長男にして、明治五年二月を以つて生れ、後ち家督相續と共に襲名して前名英太郎を改稱す。

夙に地方實業界に活躍して地方產業發展に貢獻すること甚大、現に株式會社森商店取締役社長たる外日本製飴、德島製函、重要物產各株式會社の重役にして、且つ德島縣多額納稅者として當地方財界の重鎭たり。

夫人ケイ子は德島縣の人小泉泰五郎君の令妹にして君との間に三女ありて純子トク子、ムメ子等なり、現に德島市通りに住す。

×

森榮藏君

吉野製糸株式會社取締役
奈良縣多額納稅者

君は奈良縣の人先代淸七君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。夙に地方實業界に身を投じ、現に吉野製糸、大和鐵道各株式會社の重役として知られ、且つ奈良縣多額納稅者として直稅二千五百八十餘圓を納むといふ。

夫人トヨ子は奈良縣の人仲川宗次郎君の四女にして君との間に一男一女ありて榮君及びキクノ子と稱す、現に奈良縣吉野町大淀村に住す。

森岡常藏君

東京高等師範學校教授

君は福井縣の人赤倉黃藏君の長男にして、明治四年三月十八日を以つて生る。明治三十年東京高等師範學校を卒業し、更に小學校教授法研究の爲め獨逸に留學し其の薀蓄を積みて歸朝するや、東京高等師範學校教授、文部省視學官兼文部省編修官、文部省圖書事務官兼文部省圖書官等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人長子は和歌山縣の士族島村八百輔君の長女にして、君との間に四男三女あり、現に東京市小石川區小日向臺町一ノ六六番地に住す。

千家尊統君

男爵
出雲大社宮司

當家は天照大神の第二の御子天穗日命の後裔にして十七世の孫宮向出雲國造の職を賜はり、爾來六十四世代々出雲大社大宮司として先々代尊澄に至る。先代尊福君其の後を享け大敎正に補し、明治十七年特旨を以つて男爵を授けられ、元老院議官、文部省普通學務局長、埼玉、靜岡各縣知事、東京府知事、司法大臣等を歷任し又貴族院議員たりしことあり。

君は千家尊紀君の長男にして明治十八年六月を以つて生れ、後ち養嗣子となり大正七年襲爵仰せ付けられ、現に出雲大社宮司たり。

夫人一子は養父尊福君の五女にして君との間に國麿君。遂彥君及び富佐子、致子等あり、現に鳥取縣汽川郡杵築村に住す。

×

森岡寅四郎君

太興商事株式會社專務取締役

君は滋賀縣の人森岡伍兵衞君の四男にして、明治二十三年一月を以つて生れ、後ち先代忠七君の養嗣子となる。夙に實業界に身を投じ、現に太興商事株式會社專務取締役として知らる。

夫人みね子は東京府の人青柳長太郎君の令妹にして君との間に三女ありて麗子俊江子、公子と稱す、現に東京市牛込區東五軒町三五番地に住す。

森榮七君

愛知縣多額納稅者
桔梗屋商會主

君は愛知縣の人森榮七君の二男にして明治十五年八月を以つて生れ、前名淸三郎を改稱す。

當家は當地方有數の資產家として知られ桔梗屋と稱し、呉服太物商を營み尙ほ愛知縣多額納稅者として直稅二千九十余圓を納むといふ。

夫人きみ子は愛知縣の人東松松兵衞君の令妹にして君との間に淸太郎君、英次君及び千代子等あり、現に名古屋市西玉屋町三番地に住し電話本局一九二二番たり。

籾山半三郎君

籾山商店取締役社長

君は東京府の人先代籾山半三郎君の長男にして、明治二十年八月を以つて生れ後ち家督を相續して前名竹藏を改稱す。

夙に海產物商を營み東都有數の老舖として知られ、現に籾山商店株式會社取締役社長として名あり。

夫人ミツ子は東京府の人津田信太郎君の令妹にして其の間に啓一郎君及び俊子等あり、現に東京市麹町區永田町二ノ一番地に住し電話青山四六七〇番たり。

清古平吉君

千葉電燈株式會社取締役
辯護士　辨理士

當家は千葉縣に於ける舊家にして、君はその昔寒川の名主役を勤めたる清古善左衞門君の二男にして明治元年二月を以つて生る。明治二十四年東京法學院を卒業し、後ち辯護士登用試驗に應じて首尾よく登第し、而して鄉里千葉市に辯護士を開業して一般訴訟事務に從事し以つて現在に至る。

然して辯護士を開業する傍ら地方財界に活躍し現に千葉電燈株式會社取締役たり、又曾つて千葉市會議員に擧げられしことあり。

夫人てる子は千葉縣の人小沼萬助君の令妹にして君との間に平一君、平八郎君進君、吉彥君、及び百枝子等あり、現に千葉市千葉一二三六番地に住す。

森彥兵衞君

飛驒銀行監査役
岐阜縣多額納稅者

君は岐阜縣の人森七左衞門君の二男にして、明治十六年一月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや更に高等學校に入り同科を卒業し、後ち實業界に投ぜり。

現に地方財界に重きをなし、飛驒銀行監査役にして且つ岐阜縣多額納稅者として直稅二千五百九十余圓を納む。

夫人ぬひ子は岐阜縣の人押上森藏君の四女にして君との間に彰君及び壽子、文子等あり、現に岐阜縣大野郡大谷田村に住す。

×

森正太郎君

第四十七銀行取締役
富山縣多額納稅者

君は富山縣の人森仙右衞門君の長男にして、安政五年七月を以つて生る。現に第四十七銀行取締役にして且つ富山縣多額納稅者として直稅三千七百五十二圓を納むといふ。

夫人シウ子は富山縣の人菅忠衞君の三女にして其の間に德之助君、嘉吉君及びコト子、菊枝子、フサ子、マサ子等あり富山縣山新川町東岩瀨に現住す。

森田政太郎君

殖產銀行取締役
長崎縣多額納稅者

君は長崎縣士族先代久助君の長男にし

て、慶應三年八月を以つて生る。夙に金融業を營み現に其の傍ら殖產銀行取締役にして、且つ長崎縣多額納稅者として當地方財界に知らる。

夫人テイ子は長崎縣士族星野信之君の令姉にして其の間に實君、尙志君、久治君、義治君、貞利君、虎彥君及びツヨ子クマ子、君代子、美代子等あり、現に長崎縣佐世保市福石に住す。

關屋貞三郎君

從三位勳一等
宮內次官

君は栃木縣の人關屋良純君の長男にして、明治八年五月二日を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、臺灣總督府參事官、大藏省參事官兼內務大臣祕書官、關東都督府事務官兼民政署長、佐賀、鹿兒島各縣事務官、朝鮮總督府中樞院書記長兼學務局長、靜岡縣知事等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人きぬ子は東京府士族故長田秋濤君の令妹にして君との間に正彥君、友彥君光彥君、健彥君及び淑子、由香子、美惠子等あり。

盛田久左衞門君

盛田合資會社長
株式會社中埜酒店社長

君は愛知縣の人先代久左衞門君の長男にして、慶應二年十月を以つて生れ、後ち前名久治郎を改めて襲名す。

夙に縣下釀造界に活躍し、現に盛田合資會社々長及び株式會社中埜酒店社長た る外敷島バン株式會社監査役として當地財界に知らる。

夫人ちよ子は愛知縣の人盛田太助君の二女にして君との間に彥太郎君、敬三君萬二君及びゆき子、いと子、みよ子等あり、名古屋市東白壁町二番地に現住す。

茂木長一君

日本商會東京支店長

夙に貿易界に活躍して、新進の名あるを我が日本商會東京支店長茂木長一君となす。君は兵庫縣姬路市の出身にして、明治二十年十一月九日を以つて生る。明治三十八年關西商工學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて、大阪範多商店に入り、後ち株式會社鋼管商店に轉じ、恪勤精勵、同社の發展に盡瘁すること甚大、大正十一年三月愈々獨立の機運熟するや敢然起つて獨立を宣し、而して諸機械及び鐵材等の直輸出入貿易業を開始し、爾來、着々として斯界に健實なる地步を占め業勢益々發展の步調を迎るに至れり。

偶々君の穎才にして商機を見るに敏なるを知悉せる日本商會社長中島氏の聘に應じ、遂に大正十五年八月同社に入社して東京支店長の要職に就き、今や東都業界に活躍して令名あり。

現に東京市麹町區內幸町一丁目六番地

に住し電話銀座四〇九三、三四九二番たり。

仙石政敬君

子爵　従三位勳三等
宗秩寮總裁

×

當家は左大臣魚名四世越前守高房の後裔にして、鎮守府將軍利仁の末葉越前守秀久の後なり。秀久豐臣氏に仕へ軍功あり、信州小諸六萬石を封ぜられ、三世政明に至り但馬立石五萬八千石を領す。

其れより六世を經て政固君に至る、同君は仙石藩知事、少議官侍從、內務權書記官等を歷任し、且つ貴族院議員に選ばれ、明治十七年勳功により特旨を以つて子爵を授けらる。

君は其の四男にして明治五年四月を以つて生れ、大正六年十二月襲爵仰せ付けらる。明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや官界に投じ、爾來貴族院書記官、宮內事務官、諸陵頭、賞勳局總裁等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人敏子は福島縣士族內村直俊君の二女にして君との間に一男三女あり、現に知事官舍に住す。

森岡二朗君

正五位勳四等
青森縣知事

×

君は奈良縣の人森岡万平君の二男にして、明治十九年五月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、兵庫縣警部、同縣出石郡長、同縣理事官、同縣警視、同縣事務官、青森縣警察部長、神奈川縣警察部長、警視廳刑事部長、同官房主事、京都府內務部長等を歷任し、昭和二年四月田中政友會內閣成るや拔擢せられて青森縣知事に任ぜられ、以つて現在に及ぶ。

夫人敏子は福島縣士族內村直俊君の二女にして君との間に一男三女あり、現に知事官舍に住す。

森田茂君

從七位勳三等　辯護士
衆議院議員

君は高知縣士族森田族郷君の長男にして、明治五年八月を以つて生る。明治三十三年明治大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試驗に登第す。

然して、職を官途に奉じ、京都地方裁判所檢事たりしが、後ち辯護士を開業し傍ら高知縣會議員、京都府會議員、同副議長等に擧げられ、且つ衆議院議員に當選すること前後四回に及び、現に其の任にありて中央政界に令名高し。

夫人鹿愛子は高知縣士族中島稚利君の長女にして、君との間に二女あり、現に京都市上京區烏丸通二條下ル秋野口に住し電話四七二番たり。

茂木森藏君

茂木商店取締役
大竹製菓株式會社監査役

君は埼玉縣の人茂木助次郎君の二男にして、明治元年八月を以つて生る。夙に地方財界に投じ、現に御厨銀行頭取たる外

して、明治十七年十月を以つて生る。夙に財界に投じ、現に前記各會社の重役として知らる。

夫人たき子は東京府の人石井千之助君の養女たり、現に東京市日本橋區龜井町三〇番地に住す。

森下博君

大阪府多額納稅者
森下博營業所主

×

君は大阪府の人先代佐野右衛門君の長男にして、明治二年十一月を以つて生る夙に藥種商を營み、名にしおふ懷中藥仁丹及び仁丹の体溫計、仁丹のハミガキ等は實に君の經營する森下藥房より搬出せるものなり。

君は大阪府實業界の功勞者として公私に知られ、大正九年十二月多年財界に盡瘁せる功により特に綠綬褒章を賜はり尙ほ大阪府多額納稅者たり。

夫人ハナ子は大阪府の人丸尾兼吉君の令妹にして君との間に二女あり、現に大阪市東區北久太郎町一ノ三八番地に住し電話船場五番たり。

守岡多一郎君

加賀銀行監査役
石川縣多額納稅者

君は石川縣の人守岡多作君の長男にして、明治九年七月を以つて生る。夙に地方金融界に活躍して名聲を馳せ、現に前記の外金澤軌道與業株式會社取締役にして、且つ石川縣多額納稅者として知らる。

夫人こと子は石川縣の人松村太吉君の三女にして、君との間に多吉君、外茂吉君及び芳子、錫枝子等あり、現に金澤市笠市町二番地に住し電話三八九番たり。

森田泰次郎君

御厨銀行頭取
伊豆相互貯蓄銀行取締役

君は靜岡縣の人森田豐八君の長男にして、明治元年八月を以つて生る。夙に地方財界に投じ、現に御厨銀行頭取たる外伊豆相互貯蓄銀行取締役たり。

夫人いし子は靜岡縣の人長倉陸吉君の令妹にして君との間に五男三女あり、現に靜岡縣駿東郡楊原に住す。

望月乙彥君

東京府多額納稅者
東京株式取引所一般取引員

君は靜岡縣士族田熊永錫君の長男にして、明治二十二年三月を以つて同縣富士郡大宮町萬野原新田に產す。

夙に東都實業界に投じて君の敏腕を振ひ、現に東京株式取引所一般取引員として、我が株式界に聲名あり、尙ほ東京府多額納稅者たり。

夫人まさ子は靜岡縣の人望月謹八君の二女にして、靜岡精華高等女學校の出身たり、現に東京府荏原郡大井町四八四番地に住し電話高輪二九七三番たり。

鈴木喜三郎君

法學博士　正三位勳一等

內務大臣

君は神奈川縣の人川島富右衞門君の三男にして、慶應三年十月十一日を以つて生れ、明治十五年六月先代慈孝君の養嗣子となる。

明治二十四年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに司法官試補となり、同二十六年判事に任ぜられ麹町、京橋各區裁判所判事、同部長、東京控訴院判事同部長等を歷任し、明治四十年三月司法制度研究の爲め歐米各國に差遣せられ、在留一ヶ年造詣を深くして歸朝するや大審院判事、東京地方裁判所長、司法省法務局長等を歷任せり。

曩に寺內內閣及び原內閣時代に各司法次官に任ぜられ、大正十年平沼氏の跡を襲ふて檢事總長に擧げられ、清浦內閣の出現と共に臺閣に列して司法大臣に親任せられ、大正十三年九月帝室制度審議會委員仰せ付けられ、而して昭和二年四月田中政友會內閣の內務大臣として臺閣に列し以つて現在に及ぶ。

曾つて法政大學、專修大學、日本大學各講師として教壇に立ち、且つ民法に關する著書多く讀書、旅行、音樂等に趣味を有すといふ。

夫人カヅ子は鳩山和夫君の長女にして東京女子高等師範附屬高等女學校の卒業たり、現に東京市麹町區三番町七一番地に住し電話四谷三〇〇九番なり。

鈴木富士彌君

衆議院議員

正五位鈴木富士彌君は大分縣の人三塚重次郎君の令弟にして、明治十五年十一月を以つて生れ、後ち鈴木藤三郎君の養嗣子となり前名文藏を改稱す。

明治三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや更に歐米漫遊の途に上り、海外に滯留すること三年有半大いに識見を高くして歸朝す。

然して爾來辯護士、特許辨理士を開業し民刑事件を取扱ひて令名を馳せ、大正六年以來靜岡縣郡部より推されて衆議院議員たること前後三回、現に其の任にありて中央政界に令名高く、且つ保健衞生調査會委員にして曾つては內務省參與官たりしことあり。

現に東京府豐多摩郡上澁谷一三五番地に住し電話青山二〇八番たり。

杉野民之助君

日の本足袋株式會社監査役

當家は愛媛縣桑村郡中村の出にして先代保五郎君明治初年大阪に移り、米穀商を營みて家名を擧げしに端を發す。

君は即ち其の長男にして慶應元年三月を以つて生る。夙に家業を繼ぎて米穀商を營みしが後ち足袋商に轉業し、現に日の本足袋株式會社監査役にして、曾つて大阪府會議員、同參事會員たりしことあり、謠曲、圍碁に堪能なり。

夫人フジエ子は愛媛縣の人杉栗三君の二女にして君との間に康五郎君、林之助

君及びけい子、よしゑ子、ひで子、茂子等あり、現に大阪市西區新北通り一ノ四五番地に住し電話新町五〇八番たり。

鈴木莊六君

從三位勳一等功二級　陸軍大將
陸軍參謀總長

君は新潟縣の人鈴木高次君の三男にして、慶應元年二月十九日を以つて生る。明治二十四年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍騎兵少尉に任ず、更に同二十九年陸軍大學校を卒業し、累進して大正十三年陸軍大將に陞る。

其の間參謀本部々員兼陸軍大學校教官參謀本部課長兼海軍々令部參謀、陸軍大學校幹事、騎兵第三旅團長、騎兵實施學校長、騎兵監、第五第四各師團長、臺灣軍朝鮮軍各司令官等を歷補し、現に陸軍參謀總長の榮職にあり。

彼の日露の戰役には第二軍參謀として出征し、功に依り功三級金鵄勳章を賜はり、曩に米國歐洲及び西比利亞等に差遣せられしことあり。

夫人タケ子は高知縣士族森岡正元君の長女にして君との間に一男一女ありて重雄君及び光子と呼ぶ。

鈴木要三郎君

從四位勳四等功四級
豫備海軍主計大監

君は東京府の人鈴木至政君の令弟にして、慶應元年二月を以つて生る。明治二十一年海軍少主計に任ぜられ、爾來累進して同三十九年主計大監に進み尋いで豫備役仰せ付けらる。

其の間佐世保主計長、海軍大學校主計長、高千穗艦主計長、水路部會計課長、海軍主計官、練習所教官、佐世保海軍經理部長等を歷補し、日露の役には功により勳四等に叙し功四級金鵄勳章を賜はり後ち退官して實業界に投じ、現に日本興業銀行、日本活動寫眞各株式會社の重役として知らる。

夫人ナヲ子は東京府士族今村續君の四女にして其の間に勝之助君、力之助君及び靜枝子、ハルヱ子、滿枝子、玉枝子、喬枝子等あり、現に東京市麻布區三軒屋町二十番地に住す。

杉本新左衞門君

京都府多額納稅者

君は京都府の人杉本爲七君の長男にして、明治六年八月を以つて生れ、後ち先代新左衞門君の養嗣子となり前名爲一を改稱して襲名す。

夙に祖父の遺業たる茶製造販賣を營み三丘園と稱して京都地方に名あり、尙ほ京都府多額納稅者として現時直稅七千二百八十余圓を納むといふ。

夫人たつ子は愛知縣の人岡田頁右衞門君の二女にして、君との間に子女なきを遺憾とす、現に京都市下京區綾小路新西入に住し電話下七二三番たり。

帝都復興之現勢

三六銀行預金六、二九四、〇六五未收入利子六一、四六三 現金七七三合計三五、一九〇、九〇一 **負債**株金三五、〇〇〇、〇〇〇 未拂金四四未拂配當金五、四四二職員積立金二、五一四當期收得金一八二、八九九合計三五、一九〇、九〇一 **損益計算書**收入之部收入利息一八〇、四九二雜收入二、四〇六合計一八二、八九九 支出之部當期收得金一八二、八九九合計一八二、八九九 利息配當當期收得金配當補足金四〇、〇六九當期利息配當金（年五分）二一、九六八。

玉川水道株式會社……**設立**大正七年二月 **資本金**一千萬圓 **拂込金額**六百十七萬五千三百六十二圓五十錢 水道許可地域荏原郡十四ケ町村 **兼營**製氷事業 **長**栗原幸藏 **常**野口長次郎 **締**瀧鼻慶吾 永橋至剛 中原岩三郎 能勢鼎三 平林淺次郎 **監**渡邊三郎 松本留吉 秋本喜七 **貸借對照表**昭和二年五月 **資產**未拂込株金三、八二四、六三七淨水場及取入口設備二、七八七、七七五水管布設々備六、四三五、一七一建物二二〇、八四八地所三九一、三九五機械器具什器二四五、〇三二貸付器具五〇一、六二九專用電話一六、四八二貯藏品三一九、九一四起業費三八八、一〇三未經過保險料七〇五假拂金一四九、七七二社債發行差額九二、〇〇〇未收金二九八、一九三製氷部五八九、三五四銀行預金、振替貯金及金銀一、二四一、〇八七合計一七、五〇二、一二四 **負債**株金一〇、〇〇〇、〇〇〇 法定積立金一一一、〇三〇別途積立金一一一、〇三〇社債四、〇〇〇、〇〇〇 借入金二、五三六、五〇六支拂手形一八六、四二三掛買四、九〇三 未拂配當金社債利子一五、六五七假受金一九一、九〇八前期繰越益金七、九〇七當期利益金三三六、七五一合計一七、五〇二、一二四 **損益計算**利益之部本社當期總益金八一五、四〇二製氷部當期總益金七〇、七〇〇合計八八六、一〇二 損失之部本社當期總損金四七八、六四九製氷部當期總損金四七、六九〇財產減價並ニ社債發行差額償却金五五、〇〇〇合計五八一、三三九差引當期純益金三〇四、七六二 **利益金處分**當期純益金及前期繰越金三一二、六七〇 **內譯**法定積立金一六、〇〇〇別途積立金一六、〇〇〇株主配當金（年一割）二五五、五〇〇役員賞與金及交際費一六、〇〇〇後期繰越益金九、一七〇。

横濱市元町五丁目二百十一番地
建築設計　糸川金次郎

川崎市仲事町八十四番地
土木建築請負　山根組
山根巖

土木建築請負業　増田磯吉
東京市外大森不入斗三三五番地
電話大森一七九番　三〇五番

杉　宣陣君

從五位勳四等　辯護士
衆議院議員

天晴れなる哉、曩に松山市より立候補を宣して彼の山本權兵衞伯の女婿海軍中將山路一善君と闘つて、美事に打ち破り遂に勝利の旗幟を飜せし、新進代議士杉宣陣君は杉晴之助君の四男にして明治廿一年十一月六日を以つて生る。

夙に第一高等學校を經て明治四十五年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに文官高等試驗に合格して遞信書記官に任じ、大正五年朝鮮銀行書記同祕書等を歷任し、後ち寺內內閣成立するや勝田藏相祕書官同省參事官等に任ぜらる。

然して大正七年勝田氏に隨ひて歐米視察の途に上り、尙ほ清浦內閣成るや勝田藏相祕書官を勤め、現時は辯護士を開業し大正十三年愛媛縣より推されて衆議院議員に當選し中央政界に名あり。

夫人はつ子は東京府の人小林臻君の長女にして東京女子高等師範附屬女學校の卒業なり、東京府豐多摩郡西大久保一七番地に現住し電話四谷二〇五四番なり。

杉　原惟敬君

安田銀行取締役
熊本電話株式會社監査役

君は熊本縣士族大塚俊九郎君の三男にして、慶應二年十月を以つて生れ明治二十七年先代エト子の養嗣子となる。夙に實業界に投じ初め九州鐵道會社に入社し後ち同社が國有となるや轉じて日本貿易銀行門司支店支配人に推され、明治三十六年株式會社肥後銀行に入りて同行熊本支店長、東京支店長等を經て同行取締役兼支配人に就任す。

然して大正十二年同行が株式會社安田銀行と合併成るや、安田銀行取締役に擧げられ九州地方監督を兼ね傍ら熊本電話株式會社監査役にして、且つ肥後農工銀行相談役たり。

夫人きよ子は熊本縣士族三宅作太郎君の長女にして君との間に一女ありてキミ子と稱す、現に門司市龍門町三丁目二〇二五番地に住し電話三一四番たり。

杉山金之助君

內外紡績株式會社取締役
濱松撚糸株式會社監査役

君は東京府の人杉山文藏君の長男にして、明治十七年一月を以つて生る。夙に學に厚く普通敎育を卒ふるや直ちに慶應義塾大學に學び、明治四十年優秀の成績を以つて同學理財科を卒業す。

然して後ち實業界に志し、入りて活躍大いに努め、君が敏腕を縱橫に振ひ現に內外紡績株式會社取締役たる外濱松撚糸株式會社監査役として知らる。

夫人セイ子は神奈川縣の人廣田寅吉君の長女にして君との間に二男ありて謹吾君、弟也君と稱す、現に東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町八一一番地に住す。

杉山謙造君

神奈川縣多額納稅者

君は神奈川縣の人杉山久五郎君の四男にして、明治十一年四月を以つて生る。夙に實業界に活躍し砂糖商を營み、現に横濱有數の商舖たると共に神奈川縣多額納稅者として現時直稅壹千二百三十余圓を納むといふ。

夫人との間に久一郎君あり、現に横濱市花咲町一ノ九番地に住し電話長一五二三番たり。

鈴木竹麿君

從五位勳六等

東京帝國大學教授

君は宮城縣の人鈴木又人君の長男にして、明治十年十一月を以つて生る。明治四十年東京帝國大學農科大學獸醫科を卒業し、同年陸軍二等獸醫に任じ、同四十三年一等獸醫に昇進せり。

然して大正元年陸軍獸醫學校教官並に農科大學講師に任ぜられ同四年同大學教授に進み以つて現在に及べり、曾つて大正十一年畜産學研究の爲め米佛獨に留學せしことあり。

夫人たき子は宮城縣士族山本悠久君の二女にして君との間に正君、武君、弘君、望君等あり、現に東京府豊多摩郡中澁谷六二一番地に住す。

杉谷泰山君

從四位勳四等　文學士

三井家教育顧問

君は三重縣の人杉谷泰順君の長男にして、慶應三年六月二十三日を以つて生る。夙に高田派勤學院に入りて普通教育及び儒學を修得し、更に青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、獨逸協會學校を經て東京帝國大學に學び、明治三十年同文科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

然して後ち第二高等學校教授に任ぜられ、君の薀蓄を傾注して幾多學徒の薫陶に盡瘁して名聲大いに擧り、後ち擧げられて同校教授に陞進し勅任教授たりしが一月を以つて生れ、大正元年八月家督を相續す。

明治三十二年東京高等商業學校を卒業し更に同三十七年同校專攻部を出で、大正六年商業學研究の爲め英佛米に留學し歸朝するや、三重縣四日市商業學校教諭、熊本縣立商業學校教諭、同校長、山口高等商業學校教授等を歷任し現に京城高等商業學校長として知らる。

夫人チョノ子は山口縣士族檜崎國太郎君の二女にして東京女子高等師範學校を卒業し其の間に鴻一郎君、周三君及びアソ子、みどり子等あり。

住田正雄君

醫學博士　正五位勳四等

九州帝國大學教授

君は兵庫縣の人住田金作君の四男にして、明治十一年三月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に入りて研鑽を積み直ちに教育界に投ず。

然して京都帝國大學醫科大學助教授に任じ、明治四十一年整形外科研究の爲め獨逸に留學し造詣を深くして歸朝するや明治四十五年九州帝國大學醫科大學教授に任ぜられ以つて現在に及ぶ、大正三年夫人せい子は群馬縣の人伊藤覺次郎君の二女にして君との間に正樹君あり、現に福岡市須崎裏二十一番地に住す。

杉山左門治君

東洋木材株式會社取締役

千代田興業株式會社監査役

君は神奈川縣の人式尾彌十郎君の二男にして、慶應二年二月を以つて生れ後ち先代久平治君の養嗣子となる。夙に東都實業界に身を投じ、現に御厨銀行、東洋木材、京濱運輸各株式會社の取締役たる外千代田興業株式會社監査役として知らる。

夫人エルナ子は獨逸人アドリマン、ハインリッヒ氏の二女にして君との間に昇君、政君及び惠里加子等あり、現に北海道札幌市北四條西七ノ十一番地に住す。

鈴木孫彦君

京城高等商業學校長

正五位勳四等鈴木孫彦君は靜岡縣の人先代くに子の叔父君にして、明治十一年

たま〳〵三井家の招聘に應じ、同家の家寮たる清泉學寮に於て同一族の子弟を率いて其の薫陶に當り、併せて東京帝國大學の優秀學生をも選拔して同學友となし爾來孜々として人材の敎養に盡瘁し以つて今日に及ぶ。

君や資性謹直、學博大にして深く人生諸問題の研究に耽り、其の所産として人生二百歳說を力說主張せる名著「長命術」を始めとして「人間天職」「處世哲學」「人間研究」等の著書ありて何れも名著たるを失はざるべく、而も現代の敎育に關しては熱烈なる義務敎育延長論者にして、其の識見や益し博大なり。

夫人たね子は東京府の人鈴木良助君の長女にして淑德の聞え高し、現に東京市麻布區笄町一四七番地に住す。

鈴木寧君

正五位勳四等

北海道帝國大學教授

君は北海道士族鈴木元治君の長男にして、明治十四年二月を以つて生る。明治三十八年札幌農學校本科を卒業するや直ちに同校助敎授に任ぜられ同年水產學研究の爲め獨佛米諸國に留學し、其の造詣を深くして歸朝す。

然して明治四十年東北帝國大學農科大學水產學科助敎授に任ぜられ、同四十二年敎授に昇進し大正七年同學水產專門部敎授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人エルナ子は獨逸人アドリマン、ハインリッヒ氏の二女にして君との間に昇君、政君及び惠里加子等あり、現に北海道札幌市北四條西七ノ十一番地に住す。

須田信次君

勳六等　泰平組合理事
東京計器製作所取締役

廣く海外の商機に精通して能く內國產業の歸趨を看破し、我が國財界の恩人且つ斯界の元老として知らるゝ須田信次君は、新潟縣の人須田守約君の長男にして文久二年八月三日を以つて生る。

夙に實業界に志して上京し明治十四年高田商會の創立せらるゝや同社に入り、彼の日清戰役中佛國郵船に便乘して英國に航し、高田商會支店に在りて畫策大いに努め、明治三十年十月米國を經て歸朝し、越えて三十一年再び同支店に赴き約二ヶ年餘にして歸朝す。

顧みるに君が英國在任中屢々歐洲大陸を巡遊して、汎く商工業の實況を視察し同三十八年同社副事務長に進み翌年四月支那沿岸より深く支那內地を踏破して對支貿易の實況を調査し、大いに得る所ありしかば明治四十年初めて上海に支店を設置し、自ら同支店長に赴任し其の基礎固きに及んで再び本店兼務となり、大正七年五月常務理事に累進し其の間恪勤精勵實に四十有余年、同社發展に貢獻すること甚大、大正十四年同商會を辭し現に前記會社の重役たり。

其の動等あるは彼の日露戰役に際し、國家に貢獻するところ尠少ならざるの故を以つて特に賜はりたる榮譽あるものなり、君や資性溫厚頗る社交に通じ、且つ其の柔和なる風貌は會談する何人も等しく敬慕するところ、人格の高潔、識高見なる、眞に當代紳士の典型と云ふも敢へて過言にはあらざるべし。

夫人和歌子は東京府の人中村榮次郎君の二女たり、東京市芝區白金臺町一ノ二七番地に現住し電話高輪一六六四番なり

杉山義雄君

株式會社秀英舍社長

君は靜岡縣の人杉山孝一郎君の養兒君にして、慶應二年九月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に株式會社秀英舍取締役社長たる外武田割引銀行、袋井銀行、九曜商會各株式會社監査役にして東都財界の重鎭たるを失はざるべし。

夫人なか子は養父兼郎君の長女にして君との間に一女ありて富子と稱す、現に東京市本鄉區駒込曙町十三番地に住し電話小石川九二三番たり。

鈴木圭二君

正五位勳三等　海軍艦政本部長
海軍造船中將

君は新潟縣の人小林百噸君の令孫にして、明治八年一月を以つて生れ後ち鈴木家の養嗣子となる。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、切磋琢磨、明治三十三年東京帝國大學工科大學造船科を優秀の成績を以つて卒業す。

然して直ちに海軍造船技士に任じ、累進して大正十四年十二月海軍造船中將に陞進す、其の間舞鶴海軍工廠造船部長等を經て現に海軍艦政本部第四部長として令名あり。

夫人ナカ子は養父重熙君の長女たり、現に其の住宅を東京府荏原郡駒澤町綠園に有す。

杉村幹君

戶山腦病院主

曾つては官界にありて樞要の職を歷任し、隨所に其の才幹を發揮して令名を謳はれ、今また戶山腦病院經營者として聞ゆる杉村幹君は東京府士族杉村正謙君の二男にして、明治十四年一月二十日を以つて生る。

夙に東京府立中學校より第二高等學校に進み、明治四十二年七月東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業し、更に大學院に入りて地方自治行政及び警察行政に關する科目を專攻し、明治四十三年十一月官途に就き警視廳に入りて第一警衞課、警務課、官房文書課等を歷勤し、大正三年十一月官界を去りて嚴父の經營に係る戶山腦病院副院主となり、嚴父を輔けて百般の施設に改善を加へ、以つて同院をして今日の大を成さしむるに至れり。

偶々大正九年精神病院法の發布せらるゝや、內務大臣より東京府代用精神病院に指定せられ、大正十三年嚴父病歿するに及んで其の事業を繼承して同院主となり以つて現在に至る。

君又文才豊かにして著作に趣味を有し「農業小論」「行餘集」「轅思樓歌集」「明治大正漢詩私選」等數種の名著あり、尙ほ書畫を愛好し其の鑑識たるや素人の域を脫すといふ。

夫人薰子は石川縣の人杉中利平君の長女にして其の間に秀子、恒子、俊子、慶子等あり、現に東京市牛込區若松町一〇二番地に住し電話牛込六六五番なり。

達助君

廣島高等師範學校教授

君は佐賀縣の人角純一君の長男にして明治十三年十二月を以つて生る。明治三十九年三月廣島高等師範學校物理化學科を卒業するや、廣島縣師範學校教諭、廣島高等師範學校助教授兼同教諭等を歷任し、大正六年兼教授、大正八年同教授に任じ以つて現在に及べり。

夫人貞尾子は大阪府士族加藤貞明君の長女にして君との間に三女ありて靜子、雅子、美子等なり、現に廣島市大手町八ノ三八番地に住す。

鈴木梅太郎君

農學博士　從四位勳三等
東京帝國大學教授

君は靜岡縣の人鈴木捨藏君の令弟にして、明治七年四月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學農科大學農藝科を卒業するや直ちに教育界に投ず。

爾來東京帝國大學農科大學助教授、盛岡高等農林學校教授兼東京帝國大學農科大學助教授等を歷任し、現に東京帝國大學農學部教授たり、曾つて明治三十四年農藝化學研究の爲め獨、佛、瑞各國に歷遊し同年農學博士の學位を授與せられ又

明治四十五年再度外國に航し米國を視察研究して歸朝す。

夫人スマ子は故工學博士辰野金吾君の長女にして其の間に一女ありて久仁子と稱す、現に東京市外上澁谷一四一番地に住し電話青山一三九八番たり。

砂田重政君

勳五等　衆議院議員
司法參與官

今や中央政界一輪の名花と謳はれ、一度議政壇上に其の透徹せる政論を吐くや全院を湧かすに足る少壯政治家を我が砂田重政君となす。君は愛媛縣の舊藩士砂田重治君の長男にして、明治十七年九月を以つて生る。

明治三十七年中央大學を卒業するや、直ちに辯護士及び判檢事登用試驗に合格し東京、京都、神戸に司法官たりしが後ち辯護士を開業し尚ほ傍ら衆組、日本給水各株式會社の重役にして、曩に兵庫縣郡部より推されて衆議院議員に當選するや、縣郡部より推されて衆議院議員に當選し現に其の任にあり。

夫人とら子は東京府の人池田源次郎君の二女にして君との間に實君、秀夫君、保君及び靜子、郁子等あり、現に東京市淺草區森下町二〇番地に住し電話淺草三五三四番たり。

×

鈴木周三郎君

鈴木實業銀行頭取
日東紡績株式會社取締役

君は福島縣の人鈴木清治郎君の長男にして、明治九年九月を以つて生る。夙に地方財界に頭角を現はし、其の勢力たるや縣下財界全般に波及し、現に前記の外福島商業銀行、小高銀行、川俣銀行、福島羽二重、福島土地、長澤釀造、福島毓壹、福島瓦斯各株式會社の重役として知らる。

然も尚ほ福島縣多額納稅者として現時直稅三千七百七十余圓を納むといふ。

夫人ハナ子は福島縣の人瓶子長六君の長女にして君との間に周次郎君、利八郎君、勝衛君及びコク子、チウ子、ヒデ子、タマ子等あり、現に福島縣信夫郡杉妻村に住す。

菅野盛次郎君

從四位勳四等
産業組合中央金庫副理事長

君は東京府士族松本謙之助君の二男にして、明治五年七月を以つて生る。代是止君の養嗣子となる。

明治三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、官界に投じ爾來秋田、函館、金澤各稅務管理局長、大藏書記官東京稅務監督局長兼東京稅務局長、大阪稅務監督局長等を歷任し、後ち官を辭して野に下り現に産業組合中央金庫副理事長として知らる。

夫人崎子は熊本縣の人河野通倫君の三女にして君との間に盛一君及び三八子、ミチ子、すみ子、すず子等あり、現に東京市小石川區宮下町三十七番地に住す。

鈴木章之君

正七位勳六等
東洋麻糸紡績株式會社常務取締役

君は福島縣の人鈴木龜佐君の長男にして、明治八年十月二十七日を以つて生る夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、直ちに商船學校に入學し、明治三十四年同校航海科を優秀の成績を以つて卒業するや、選ばれて同校教授に任じ英國留學を命ぜられ、斯學を研鑽すること二年有半、造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝後は引き續き同校に教鞭を執り、其の新進の學理を傾注して幾多學徒の薫陶に盡瘁すること甚大なりしが、明治四十三年感ずるところありて斷然教職を擲ちて歐米漫遊の途に上り、彼の地の經濟界を視察見學して歸朝す。

斯くて實業界に投じて君が才腕を縱橫に振ひ、大正七年東洋麻糸紡績株式會社の創立に參畫して、其の設立を見るや推されて同社常務取締役に就任し以つて現在に及ぶ。

と前後二回、而して昭和二年四月田中政友會內閣の出現と共に司法參與官に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人キヨ子は豫備陸軍中將小原傳君の養女にして內助の聞え高し、現に神戸市山手通六ノ九二番地に住し電話長元町七二六三番なり。

鈴木富太郎君

白石興產株式會社長
宮城農工銀行監査役

君は宮城縣の人鈴木富五郎君の長男にして慶應二年二月を以つて生る。夙に方實業界に活躍して其の敏腕を振ひ、現に白石興產株式會社々長たる外宮城農工銀行、磐城煉瓦株式會社の重役として知らる。

夫人いし子は宮城縣の人鎌田權五郎君の長女にして君との間に菊藏君、禮吉君及びちとせ子、のち子、みや子等あり、現に宮城縣刈田郡白石に住す。

鈴木隆君

株式會社鈴木商會社長
衆議院議員

君は千葉縣の人鈴木眞作君の二男にして、明治十五年一月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に株式會社鈴木商會社長たる外角取セルロイド工業、鈴木保隆各株式會社重役にして且つ米穀問屋を營み財界に重きをなす。

曩に東京市會議員に擧げられ且つ千葉

訪諏方季君

安中電氣製作所取締役
池上電氣鐵道株式會社取締役

君は東京府の人諏訪方三君の三男にして、明治十年十二月を以つて生る。現に前記の諸職にあり。

夫人きく子は東京府士族池尾武成君の五女にして君との間に方夫君、季夫君、良夫君及び方枝子、喜久枝子等あり、現に東京市麻布區本村町一四五番地に住し電話高輪七二一六番たり。

鈴木龍君

株式會社鈴木商會社長
衆議院議員

君は千葉縣の人鈴木眞作君の二男にして、明治十五年一月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に株式會社鈴木商會社長たる外角取セルロイド工業、鈴木保隆各株式會社重役にして且つ米穀問屋を營み財界に重きをなす。

曩に東京市會議員に擧げられ且つ千葉

君や天資穎明にして性闊達、而も其の博學たる蓋し凡輩を脫す、就中勞資問題に關する其の瀛蓄に至りては專門家道學先生達も遠く及ばざるところ、今や純正學理の把持者であり、且つ又新興大日本財界の一異彩として令名を謳はれ、前途益々多事、且つ多望なりと謂ふべし。

夫人きみ子は福島縣の人白井遠平君の五女にして君との間に一雄君、大二郎君及び敏子、道子、章乃子、好子、千惠子和子等あり、現に東京市本鄕區駒込千駄木町三六番地に住し電話小石川二八八五番たり。

鈴木德男君

醫學博士　從四位勳五等

君は兵庫縣士族鈴木近長君の長男にして、文久三年十一月を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し大正二年醫學博士の學位を受け、縣立神戸病院長たること二十余年にして大正十二年十二月辭す、曾つて歐洲各國に出張せしことあり。

夫人キン子は埼玉縣の人鈴木敏行君の養女にして其の間に武雄君、三八男君、四十二男君及びウメ子、チヨウ子等あり現に神戸市中山手通七ノ番外三十八番地に住し電話元町五〇六番たり。

鈴木梅四郎君

臺南製糖株式會社長
日本鑛業株式會社常務取締役

君は長野縣の人鈴木龍藏君の三男にして、文久二年四月を以つて生る。夙に慶應義塾大學を卒業するや直ちに時事新報記者として聘せられ操觚界に活躍せしが、後ち橫濱貿易新聞社長に任じ、敏腕を振ふて啓蒙開發に盡瘁せり。

然して實業界に轉じ、王子製紙株式會社取締役、日本殖民株式會社々長等を經て現に臺南製糖株式會社々長、日本鑛業株式會社々長たる外臺灣森林工業株式會社長、晩成事業株式會社常務取締役等を始めとして共同火災保險、小涌谷ホテル、帝國通信社、東洋印刷、三越呉服店各株式會社の重役にして我が財界の巨頭として令名あり。

現に東京市麹町區四番町三番地に住し電話四谷二三二一番たり。

鈴木清助君

今井商業銀行常務取締役
山形縣會議員

君は山形縣の人先代清助君の長男にして、明治二十六年二月を以つて生れ後ち前名亮一郎を改めて襲名す。

夙に東京農業大學を卒業するや直ちに地方產業振興を以つて任じ、即ち翻然として歸鄕し、大いに地方財界に活躍し現に今井商業銀行常務取締役たる外山形電氣株式會社取締役たり。

然して深く地方自治制に心を盡し縣政に參與して君が敏腕を振ひ、現に山形縣會議員として令名あり。

夫人イチ子は山形縣の人粕谷九左衞門君の長女にして君との間に一郎君、二郎君及び方子等あり、現に山形縣西村山郡大谷村に住す。

杉山茂太君

土木建築設計工事請負業
杉山工務店代表社員

今や本店事務所を東京市麹町區飯田町に有し、其の專屬工場を東京府下大島町に有して帝都復興事業の第一線に臨んで活躍し、斯界の信望を博しつゝあるを我が合資會社杉山工務店代表社員杉山茂太君となす、君は杉山卯三郎君の長男にして明治九年七月五日を以つて生る。

夙に明治義會中學を卒業するや直ちに第一高等學校に入學せしも後ち感するところありて斷然學を廢し、實業界に雄飛せんとの大志を抱いて清水組に入社し、恪勤精勵すること十余年、其の間具さに土木建築の經驗を積み、後ち轉じて橋本組に入りて實地に研究する事八ヶ年、愈々獨立の機運熟するや大正七年敢然起つて杉山工務店を開設するに至る。

爾來君の誠實と不撓の奮鬪とは相俟つて漸次斯界に頭角を現はし、其の今日迄の事業經路を一瞥するに其の請負ひたる建築物は何れも有數なるものゝみにして陸軍被服廠赤羽工場を初めとして日本製麻株式會社工場及び同倉庫、日本硝子工業株式會社、上毛モスリン株式會社本社鐵筋コンクリート富士製紙株式會社七階等にして今や東都業界の白眉を以つて目さる。

君や天資穎明にして識高見、性闊達にして社交に通じ、又一面情熱豐かなる士にして而も君の宗教哲學的內的生命の豐富と、美術骨董の愛好とは人をして自ら畏敬たらしむるものなり、蓋し君の今日の大を成す又宜なりと言ふべし。

夫人良子は京都府の人巖茂藏君の長女にして京都府立高等女學校の卒業たり、現に東京市麹町區飯田町六丁目二十二番地に住し電話四谷五二六二番七一一五番なり。

鈴木常松君

大阪書籍株式會社常務取締役

君は大阪府の人鈴木善七君の長男にして、明治三年一月を以つて生る。夙に圖書出版界に志し、修文館と稱して書籍商を營み現に大阪書籍株式會社常務取締役たる外修文館書肆を經營し、且つ大阪書籍雜誌商組合組長たり。

夫人をハル子と稱し大阪府の人田松之助君の二女にして其の間に七男三女あり現に大阪市東區博勞町五ノ五六番地に住し電話船場四四〇番たり。

杉田直樹君

醫學博士
東京帝國大學教授

我が醫學界に於ける少壯學者として且つまた精神病學の泰斗として錚々の名あるを杉田直樹君となす、君は明治二十年九月を以つて東京市芝區琴平町に生る。天資穎明才幹衆に秀で夙に郁文館中學校より第一高等學校に進み、同校を經て東

京帝國大學醫科大學に學び、大正元年優秀の成績を以つて同學を卒業するや更に精神病學を專攻す。

然して翌年九月選拔せられて文部省海外留學生として獨逸に留學し、ミュンヘン大學に入りクレペリン、スピールの兩教授に師事して斯學の研鑽に耽り其の蘊奧を極め、偶々歐洲戰亂勃發するや和蘭英國等を經て米國に轉學し、貴府ウキスター研究所に入りドナルドソン教授に就きて比較神經學の研究をなし、造詣愈々深くして大正七年五月芽出度く歸朝す。

爾來東京帝國大學醫科大學精神病學講師に任じ、君が博大なる學識を傾注して幾多學徒の血を湧かし、大正十年一月醫學博士の學位を授けられ、同年四月助教授に陞進し以つて現在に及ぶ。

君や性闊達、辯論透徹して毫も偏するところなし、今や少壯學者として前途を囑望せられ、專門學上並びに教育病理學犯罪心理學等に關する名著尠なからず、又專門學以外の哲學及び文學等內外の書に造詣深く、文筆を能くする等所謂現代醫學者先生達の到底追從を許さゞるところ、眞に我が國醫學界の一異彩たるを失はざるべし。

夫人を輝子と稱し、內助の聞え高し、現に東京市本鄕區駒込西片町十番地に住し電話小石川一九二三番たり。

×

菅波角之助君

帝國酒造株式會社常務取締役
日本製鋼株式會社取締役

君は福島縣の人酒井眞平君の叔父君にして、明治五年三月を以つて生れ後ち明治三十八年菅波家の養嗣子となる。

夙に實業界に活躍し現に帝國酒造株式會社常務取締役たる外日本製鋼、東京信用銀行、極東製藥各株式會社の重役として我が財界に重きをなす、曾つてローヤルセルロイド株式會社取締役たりしことあり。

夫人フミ子は福島縣の人白井遠平君の三女にして君との間に稱事君、康平君、淳君、啓吉君及び柳子、絹子等あり、現に東京市小石川區久堅町二六番地に住し電話小石川四六五番たり。

杉梅之治君

正六位勳五等
東京市淺草區長

君は岡山縣の人杉孫太郎君の三男にして、明治七年六月二十七日を以つて眞庭郡落合町大字西河內に生る。夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、孜々として研鑽を怠らず、明治三十一年八月中央大學の前身たる東京法學院大學を優秀の成績を以つて卒業するや、同年九月文官普通試驗に合格し、更に斯學の蘊蓄を究むべく東京警察監獄學校に學び、明治三十三年七月同校を卒業せり。

然して同年九月職を官界に奉じ、拔擢せられて岡山縣警部を拜命、時に年齒僅かに二十六才、矢掛、勝間田各分署長を經て斯官登龍一線の門地として異名を冠せらるゝ彼の倉敷に赴く、即ち遙かに前

程を望んで南備の原に旗幟を飜へして白馬金鞍の試練に任ぜるなり。

果せる哉、新任早々君の眼前に二大事件は展開せらる、その一は當時關西財界の巨頭故坂本金彌氏の所有に屬する帶江鑛山に於ける爆彈不隱事件にして、該事件たるや決して輕々の畢措に出づべからず、即ち一面數千人の人命に係り、他面社會安寧の上懸る、然りと雖も流石は兩雄の善處、彼の英斷と此れの慧眼とは相俟つて、能く大事を見ずして未然に解決を告げせり。

更にこれと相前後して倉敷紡績の惡疫猖獗せるに際し、これ又大事に至らずして沈靜防遏の途を講じ、斯くて我が青年名署長の名は一時に天下に喧傳せらる。

明治四十一年六月山梨縣に移り同縣衞生課長、保安課長、警務課長、巡査敎習所長等を歷勤して大正四年一月同縣警視に任じ、高等官八等に敘し甲府警察署長に拔擢せられ、同年三月正八位に敘し更に翌年一月高等官七等に昇敘し、同年三月從七位に敘せらる。

大正六年六月同縣北都留郡長の椅子を贏ち得、翌年四月正七位に敘し同六月勳六等に敘し瑞寶章を授けらる。

偶々大正七年八月佐作香川兩縣知事に聘せられて同縣に赴き、仲多度郡長、綾歌郡長等を歷任し、其の間郡制廢止の前期に際會せしかば君能く萬般の整理に敏腕を振ひ、大正十二年二月鄕里岡山縣御津郡長に轉じ、愈々君が天稟の行政的才量を縱橫に發揮し、能く地方行政の改善發達に盡瘁し、大正十二年九月正七位に翌年七月特に勳五等に昇敘し、瑞寶章を授けられ同年十二月官を辭して野に下る。

然して爾來野にあり悠々たること僅かに二春、君の優れたる敏腕と卓越せる識見とを以つて徒らに消光するは國家の爲め惜むべきことゝなし遂に大正十四年四月推されて東京市淺草區長に擧げられ、今や東京市政に參畫して君が多年の經綸を行ふ、必ずや同區の爲め貢獻する又疑ひなかるべし。

鈴木康太郎君

浦和商業銀行取締役

君は埼玉縣の人鈴木順太郎君の長男にして、明治二十二年一月を以つて生る。夙に地方產業開發に心を碎き即ち實業界に雄飛して活躍大いに努め、現に浦和商業銀行取締役にして且つ埼玉縣多額納稅者として當地方財界に聲名あり。

夫人たけ子は埼玉縣の人井原誠一郎君の令妹にして其の間に裕君、敏夫君、通夫君及び和子等あり、現に埼玉縣北足立郡尾間木に住す。

鈴木圭三君

中華企業株式會社監査役
東京株式取引所一般取引員

君は愛知縣の人鈴木嘉一郎君の令弟にして、明治五年二月を以つて生る。夙に東都實業界に活躍して令名を馳せ、現に

現に東京市外中野町大字打越二一七四番地に住し電話中野五五四番たり。

萬屋商店と併して東京株式取引所一般取引員にして且つ傍ら中華企業株式會社監査役たり。

夫人喜美子は東京府の人加茂捨次郎君の令妹にして君との間に一衛君、耐次君、藤五郎君及び喜代子、登代子等あり、現に東京市赤坂區表町四丁目十三番地に住し電話青山六九〇番たり。

杉　琢磨君

従四位勲四等
宮内省内藏頭

君は岡山縣の人杉哲太郎君の二男にして、明治十五年十二月を以つて生る。夙に學に厚く、鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業す。

然して職を官界に奉じ、遞信省に入りて貯金局事務官、同書記官を經て、大正三年宮内省に轉じ書記官に任命せられ、爾來内匠寮經理課長、工務課長、大臣官房用度課長、宮内省參事官、大臣官房庶務課長兼秘書課長等を歷任し、大正十五年一月宮内省内藏頭に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人庫子は東京府の人三好貞雄君の令妹にして君との間に健作君、正作君及び幸子、歌江子、良江子等ありて二男正作君は岡山縣の人杉ます子の養嗣子となる現に東京府豊多摩郡野方町字上沼袋一三二番地に住し電話中野五六二番たり。

鈴木榮助君

東洋コルク工業株式會社監査役

君は廣島縣の人難波榮次郎君の令弟にして、慶應三年五月を以つて生れ後ち先代クラ子の養嗣子となる。夙に地方財界に活躍して異數なる成功を贏ち得、現に東洋コルク工業株式會社監査役にして且つ廣島縣多額納稅者として直稅四千六十六圓を納むといふ。

夫人ゆき子は廣島縣の人淺田保次郎君の長女にして君との間に子女なし、現に廣島市塚本町に住し電話四八六番たり。

鈴木市之助君

旭電化工業株式會社專務取締役
日本電線株式會社監査役

君は京都府の人木村長兵衛君の二男にして、明治十五年二月を以つて生れ後ち先代ェイ子の養嗣子となる、夙に學に厚く明治三十六年慶應義塾大學理財科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに米國に留學しコロンビヤ、エール各大學に學び其の薀蓄を積みて歸朝す。

然して古河合名會社に入社し、後ち古河家經營の博愛生命保險株式會社に轉じ同社專務取締役に就任し、現に旭電化工業株式會社專務取締役社長として内外の社務を掌理し、君が新進の學理と多年の經驗とを以つて愈々同社の發展に盡瘁し傍ら日本電線、原町紡績各株式會社の重役として我が財界に名あり。

夫人トク子は佐賀庄三君の令妹にして内助の聞え高く、君との間に市郎君、康

治郎君、亮三君及び春子、園子等あり、現に東京市麻布區狸穴町十六番地に住し電話青山六〇九九番たり。

末永壽君

明治運輸株式會社長

君は福岡縣士族末永二六君の令弟にして、慶應元年二月を以つて生れ後ち先代フク子の養嗣子となる。夙に地方實業界に活躍し、現に明治運輸株式會社々長として知らる。

夫人ゆき子は福岡縣士族鈴木槇五郎君の令妹にして君との間に弘海君及び照子實枝子、とき子、昌子、ミエ子、キヨ子等あり、現に福岡縣福岡市濱町三七番地に住す。

須田宣君

鬼怒川水電會社監査役

君は山梨縣の人須田耕君の長男にして明治十一年三月を以つて生る。夙に財界に投じ曩に金剛山水力電氣、加富登麥酒各株式會社の重役たりしが現時は前記株式會社の監査役たり。

夫人をかめの子と稱し君との間に堅太郎君、清次郎君、榮三郎君及び鶴子、ちか子、ひで子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町十二番地に住し電話青山一九二番たり。

周布兼道君

男爵　従四位
貴族院議員

當家は先代公平君より其の家名を擧ぐ

公平君は明治九年司法權少丞に任せられ爾來太政官少書記官、同權大書記官、參事官議官補、法制局參事官兼外務省參事官、内閣書記官長、兵庫縣知事、行政裁判所長官、神奈川縣知事、樞密顧問官等を歷任し且つ貴族院議員に勅任せられ、明治四十一年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は其の長男にして明治十五年三月を以つて生れ、大正二年襲爵仰せ付けらるる曩に伊太利に遊び又曾つて逗子電燈株式會社會長たる外相模水力電氣株式會社常務取締役及び小田原電燈、山田炭礦、大和電爐工業各株式會社の重役たりしことあり。

趣味として撞球を能くするが如し、夫人を鑑子と稱し伯爵副島道正君の令妹にして華族女學校の出身たり、現に東京市四谷區南町八八番地に住し電話四谷三〇三〇番たり。

菅原大太郎君

安田銀行常務取締役
江井ケ島酒造株式會社取締役

君は兵庫縣の人菅原寅太郎君の長男にして、明治二年八月十五日を以つて生る夙に鄉校を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、英吉利法律學校、神田共立學校等に學び後ち第一高等學校に入學し、研鑽琢磨、同校を經て明治三十一年東京帝國大學法科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

然して直ちに實業界に投じ、第百三十

銀行に入りて同行小倉支店長、門司支店長等を歴勤して本店庶務部長に轉じ、明治四十年九月拔擢せられて同行韓國支店總支配人に擧げられ、朝鮮財界に令名を馳せしが同四十四年第三銀行に轉じて同行支配人に就任し、累進して同行常務取締役として同行發展に貢献すること甚大なりき。

偶々大正十二年十一月銀行大合同の結果安田銀行に併合せらるゝや君又同行に轉じ、其の取締役兼總監督に推擧せられ後ち同行常務取締役に推され、現に其の要職にある傍ら江井ヶ島酒造株式會社取締役にして、今や我が財界の重鎭として錚々の名あり。

夫人しげ子は東京府の人卜部兵吉君の長女にして其の間に太郎君、恒次郎君等あり、現に東京市本郷區駒込西片町十番地に住し電話小石川二〇五五番たり。

鈴木紋次郎君

實業家

君は岐阜縣の人大洞彌兵衞君の令弟にして、明治十三年三月を以つて生れ後ち先代タカ子の入夫となる。明治三十八年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに財界に投じ第一銀行に入りて預金課長たりしことあり。

現時は淺野造船所、鈴木洋酒店、庄川水力電氣、淺野石材工業、淺野同族、神奈川コークス、内外石油、京濱運河、關東水力電氣、千代田石油各株式會社の取締役にして且つ日之出汽船、中央製鐵、淺野物産、日本鑄造、鶴見木工、日本銑鐵各株式會社の監査役にして其の他大小多數諸會社の重役として我が財界に令名高し。

夫人たか子は財界の巨星淺野總一郎君の五女にして君との間に羊夫君、崇君、至君及び純子、潔子、淳子等あり、現に東京市芝區田町六ノ九番地に住し電話高輪三五一一番たり。

杉崎靜夫君

齋藤製作所專務取締役

太田商事株式會社常務取締役

君は岡山縣士族杉崎溫君の長男にして明治二年十月を以つて生る。早くも本邦實業界に雄飛せんとの大志を抱き、即ち入りて君が天與の才量を自由に振揮し、斯界に盡瘁すること甚大なりき。

現に株式會社齋藤製作所專務取締役たる外太田商事株式會社常務取締役にして且つエビス研磨材、北門銀行各株式會社の重役として知らる。

夫人千見代子は岡山縣の人長尾市三郎君の令妹にして君との間に重遠君、重明君等あり、現に東京市赤坂區福吉町一番地に住し電話青山四三二六番たり。

須田馬太郎君

前橋倉庫株式會社監査役

上毛實業銀行取締役

君は群馬縣士族須田千五作君の長男にして、明治十八年八月を以つて生れ後ち

先代十九平君の養嗣子となる。夙に地方財界に投じ、現に前記の諸職にありて地方財界に重きをなす。

夫人ひで子は文學博士遠藤隆吉君の令妹にして君との間に一男四女ありて保之助君及びあい子、のぶ子、れい子、たき子と稱す、現に前橋市天川町八四番地に住す。

鈴木隆晴君

帝國電氣株式會社長

大同電氣株式會社取締役

君は鈴木豊治郎君の二男にして、明治十九年三月二十一日を以つて生る。夙に實業界に雄飛し曩に東京電燈株式會社技手、甲府電力株式會社技師たりしが、後ち大同電氣の前身たる關東電氣株式會社を創立して同社專務取締役に就任し、更に帝國電氣株式會社を創立し、現に同社々長たる外大同電氣、大島電氣拓殖、原釜電氣各株式會社の重役として知らる。

曾つて株式會社東京電氣鐵工所取締役たりしことあり、書畵骨董を愛好し、政治及び事業に奔走するを以つて唯一の道樂なりといふ。

夫人錦子は山田忠藏君の長女にして和洋裁縫女學校を卒業し其の間に隆文君、大次郎君及び一榮子等あり、現に東京府荏原郡平塚村洗足田園都市二四八番地に住し電話高輪四七〇八番なり。

杉下正命君

東京博善株式會社取締役

君は愛知縣の人杉下兵治郎君の長男にして、明治五年十月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治二十五年慶應義塾大學を卒業して直ちに實業界に投じ、現に東京博善株式會社取締役にして且つ池袋琺瑯工場經營者として知らる。

夫人とき子は愛知縣士族牧野田六君の四女にして其の間に祐次郎君、六郎君及びのぶ子、百代子、きよ子等あり、東京市小石川區大塚仲町二六番地に現住す。

須田萬右衞門君

美濃銀行取締役

岐阜縣多額納稅者

君は岐阜縣の人須田萬右衞門君の長男にして、明治十四年一月を以つて生れ前名英一を改めて襲名す。

夙に地方財界に活躍して驥足を縱横に伸ばし、現に美濃銀行取締役にして尙ほ岐阜縣多額納稅者として直稅多額に及び同地方有數の實業家として令名あり。

夫人なを子は愛知縣の人吉田吉兵衞君の令妹にして君との間に喜智雄君及び錦子、雪子、絲子等あり、現に岐阜縣武儀郡美濃町に住す。

鈴木愛作君

株式會社小林運送店取締役

小林運送店隅田川支店長

東都通運界に錚々の名ある我が株式會社小林運送店の各支店中、其の最も樞要なるを隅田川支店となす、而して同支店長小林愛作君は群馬縣の人小林重三郎君

の三男にして、明治八年七月一日を以つて碓氷郡安中町に生る。

夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて上京し、直ちに東都實業界に投じ、小林運送店に入りて恪勤精勵すること數年、後ち小林運送店社長鈴木五三郎君の經營に係る隅田川運送店支配人に擧げられ、明治四十四年十月同店を君の名義に變更して獨立經營に任じ、愈々業務の大擴張を計り着々として斯界に堅實なる地歩を占め後ち隅田川運送組合幹事、同組合長等に推擧せらる。

偶々大正九年三月小林運送店が資本金五十萬圓の株式會社に變更せらるゝや、君は業務一切を擧げて同社に合同して隅田川支店となし君は同支店長に任じ兼ねて同社取締役に推され以つて現在に及べり、先是懇請せられて鈴木家の養嗣子となりて其の姓を冐し、以つて鈴木三五郎君の義弟となる。

君や資性溫厚篤實にして人と接するに極めて懇切なり、旅行を好み未知未聞の土地を跋渉するを唯一の樂しみとなし、又書畫、骨董を愛好すといふ、夫人乙津子は東京府の人林周藏君の二女にして內助の聞え高し、東京府北豐島郡南千住地方橋場一三七番地に住し電話淺草二五一番たり。

×

杉村七太郎君

醫學博士　正五位勳四等

東北帝國大學醫學部教授

君は靜岡縣の人杉村七重郎君の長男にして、明治十二年十二月を以つて生る。明治三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業するや、更に大學院に入りて外科學を專攻し、後ち佛國に留學して斯學の研鑽に耽り、造詣を深くして歸朝す。

爾來東京帝國大學助手、新潟醫學專門學校敎授等を歷任し、現に東北帝國大學醫學部敎授にして且つ同大學附屬醫院長等あり現に東京市麹町區土手三番町二六番地に住し電話四谷五二一〇番たり。

夫人琴子は靜岡縣の人岡田貞平君の令妹にして其の間に一女あつて郁子と稱す現に仙臺市堤通二七番地に住す。

末繁彌次郎君

日本證券株式會社監査役

辯護士實業家末繁彌次郎君は山口縣の人末繁五郎君の三男にして、明治十七年三月二日を以つて生る。明治三十八年七月日本大學を卒業するや辯護士登用試驗に登第し、現に辯護士として東都法曹界に令名ある傍ら日本證券、北日本興業各株式會社の重役として知らる。

夫人義子は大阪府の人後藤義三郎君の五女にして日本橋高等女學校を卒業し君との間に英太郎君、喜久子等あり、現に東京市神田區仲猿樂町十七番地に住し電話神田二七六四番たり。

菅野修藏君

小倉製紙所取締役支配人

君は兵庫縣士族菅野正盛君の二男にして明治十四年二月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて上京し、直ちに東都實業界に身を投じ、現に株式會社小倉製紙所取締役支配人として知らる。

夫人たか子は東京府の人吉水大智君の長女にして君との間に正義君及び邦子、敏子等あり、小倉市古船場町一五〇番地に現住す。

鈴木太郎君

帝國物產株式會社常務取締役

阿部商事株式會社取締役

君は長野縣士族鈴木健君の長男にして明治四年二月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて上京し、直ちに東都實業界に投じて活躍大いに努め、君が敏腕を縱橫に振展し、現に前記の外東京コークス販賣、唐津工業、山元オブラート、日本莊園、中央靑物市場、相模運輸各株式會社の重役として我が財界に令名あり。

夫人猛子は長野縣士族原澤鑑太郎君の長女にして君との間に次男君及び梅子、竹子、鶴子等あり、現に東京府荏原郡入新井不入斗八八番地に住し電話大森十一番たり。

×

栖原啓藏君

富士製紙株式會社常務取締役

新田製粉株式會社取締役

君は和歌山縣の人栖原角右衛門君の二男にして、明治八年三月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや靑雲の志を抱き笈を負ふて東上し、研鑽琢磨螢雪の功空しからず、明治二十九年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業す。

然して後ち實業界に投じ、君が蘊蓄を傾倒して異數の敏腕を振ひ、現に富士製紙株式會社常務取締役として內外の社務を掌握する傍ら新田製粉、北海道電燈、靜岡電力各株式會社取締役にして且つ樺太鐵道、中央開墾各株式會社監査役として我が財界に令名高し。

夫人薰子は東京府の人山內德三郎君の四女にして君との間に正君、毅君、繁君及び亮子、潔子、妙子、美代子、富士子等あり現に東京市麹町區土手三番町二六番地に住し電話四谷五二一〇番たり。

×

鈴木虎之助君

亞細亞製輪工業會社取締役

君は愛知縣の人加藤貞吉君の二男にして、明治五年三月を以つて生れ後ち先代そふ子の入夫となる。夙に東都財界に投じ現に亞細亞製輪工業株式會社取締役として知らる。

夫人そふ子は先代勝藏君の五女にして君との間に力衞君、斷雄君及び妙子、科子等あり、東京府荏原郡玉川に現住す。

菅井角之介君

神戸電機製作所監査役

兵庫縣多額納稅者

君は兵庫縣の人菅井要助君の長男にして、明治七年十月を以つて生る。現に阪神財界の重鎭として知られ、夙に酒造業

を營み傍ら神戸電機製作所監査役たり。
尚ほ兵庫縣多額納税者として現に直接國税三千八十余圓を納むといふ。
夫人つる子は大阪府の人橋本治助君の令妹にして君との間に濱子、千鶴子、淳子等あり、現に兵庫縣武庫郡御影に住し電話御影六五八番たり。

杉浦文一君

大同電氣株式會社專務取締役

君は愛知縣の人杉浦惣七君の四男にして、明治十六年三月十四日を以つて生る夙に鄉里にありて普通學を修むるや、直ちに笈を負ふて東上し、研鑽を積むこと多年、後ち實業界に投じて君が敏腕を縱横に振ひ、大正八年關東電氣株式會社專務取締役に就任し、内外の社務を輔掌して同社の發展に貢献すること甚大なりき。
然して大正十四年同社が大和電氣株式會社を併合して大同電氣株式會社と改稱せらるゝや引き續き同社專務取締役の要職に就任し、今や芝區田町、麻布及び府下巢鴨等に廣大なる工場を有し、東都同業界に重きをなす、蓋し君の力與つて大なりと謂ふべし。
趣味多様にして、就中書畫、骨董を愛好し、社交に厚く電氣倶樂部、鐵道協會各會員たり、夫人をのぶ子と稱し内助の聞え高く、其の間に總輔君、定夫君、東逸君等あり、東京市芝區三田四國町十五番地に現住し電話高輪三七八六番たり。

須田國雄君

高千穂商會主
シトロエン自動車株式會社取締役

新進の學理と實際とに精通し、正に新日本財界に飛躍して前途多望なる新進實業家を我が須田國雄君となす。君は愛媛縣士族櫻井靜君の令弟にして、明治十一年七月四日を以つて生る。
夙に鄉校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、明治三十六年東京帝國大學工科大學舶用機關科を卒業し、直ちに横濱船渠株式會社に入り、後ち川崎造船所技師として聘せられ、社命を帶びて舶用機關研究の爲め米國に渡航し、研鑽すること五ヶ年、造詣を深くして歸朝するや同社造船部長助役に任ぜられ、同社の爲め盡瘁すること甚大なりき。
然して大正六年之を辭して再び横濱船渠株式會社に轉じ造機部長として君が薀蓄を傾注し、大正十一年同社を辭して獨力以つて高千穂商會を創立し、外國諸機械の販賣を開始し傍らシトロエン自動車株式會社の取締役として令名高し。
夫人ハル子は東京府の人須田利信君の長女にして東京女學館の卒業たり、現に東京市四谷區鹽町一ノ三〇番地に住し電話四谷三〇三二番なり。

角彌太郎君

株式會社日立製作所取締役

君は廣島縣の人角品藏君の長男にして明治三年十一月を以つて生る。明治二十七年法政大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に株式會社日立製作所取締役として聘せられ、社命を帶びて舶用機關研究の爲め米國に渡航し、研鑽すること五ヶ年、造詣を深くして歸朝するや同社造船部長助役に任ぜられ、同社の爲め盡瘁すること甚大なりき。
然して大正六年之を辭して再び横濱船渠株式會社に轉じ造機部長として君が薀蓄を傾注し、大正十一年同社を辭して獨力以つて高千穂商會を創立し、外國諸機械の販賣を開始し傍らシトロエン自動車株式會社の取締役として令名高し。
夫人ハル子は東京府の人須田利信君の長女にして東京女學館の卒業たり、現に東京市四谷區鹽町一ノ三〇番地に住し電話四谷三〇三二番なり。

として知らる。
夫人わか子は東京府の人池田半藏君の二女にして君との間に浩君、正郎君及び靜枝子等あり、現に東京府豐多摩郡中野町一一二〇番地に住す。

×

菅音次郎君

兵庫縣多額納税者
神戸商業會議所議員

當家は代々淡路に住し農業を以つて其の業とせしが、祖父菅新兵衞君志を立てゝ阪神に移り、其の女たみ子才智ありて獨力茶商を營み家運漸次擧りぬ。
君は大阪府の人川口源七君の三男にして、慶應元年四月を以つて生れ後ち女將たみ子の養子となる、而して堅實克く先代の茶商を守りて益々發展に赴かしめ菅園と稱して阪神地方に名あり。
然して事業に專念たる傍ら公共事業に盡瘁し、現に神戸商業會議所議員にして且つ兵庫縣多額納税者として直接國税二千七百八十余圓を納むといふ。

杉本敏治君

合資會社六盟館代表社員

君は東京府の人杉本七百九君の二男にして、明治二十三年十一月二十六日を以つて生る。夙に普通教育を修むるや更に慶應義塾大學理財科に學び、優秀の成績を以つて同學を卒業す。
然して身を實業界に投じ嚴父の經營に係る六盟館合資會社に入りて、嚴父を援けて圖書出版界に活躍し、後ち嚴父他界するや君其の後を繼承して同社代表社員に任じ、能く内外の社務を輔掌し君が新進の學理と經驗とを以つて斯界に飛躍せしかば、遂に今日の大を成すに至り今や我が六盟館の名全國に普ねし。
夫人なか子は東京府の人篠田鑛造君の長女にして君との間に壽子、彌生子等あり、東京府下雜司ケ谷三五一番地に現住し電話牛込三二四九番たり。

杉村博通君

庄川水電株式會社常務取締役

君は東京府の人杉村喜兵衞君の長男にして、明治七年五月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に庄川水電株式會社常務取締役たり、因に君は工學士たり。
夫人しづ子は東京府の人橋本敏行君の長女にして其の間に博昌君、章君、三郎君及び恒子、文子等あり、現に東京府荏原郡大崎町下大崎七十二番地に住し電話高輪二五六八番なり。

杉本東造君

醫學博士
杉本胃腸病院長

君は新潟縣の人杉本直形君の二男にして、明治六年十月を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學醫科大學を卒業し、

理事として令名あり。

趣味廣く謠曲、園藝等は其の最なるものにして、就中謠曲の如きは已に素人の域を脫し、月の夕べ、雪のあした、折ふしに吟ずる君が艷曲は又一夕のあわれを催し、近隣に育つ虫けらも遂に其の音に同ずること又珍らしからずといふ、以つて君の藝の程を窺ふに足るべし。

夫人とし子は靜岡縣の人堀江榮太郎君の長女にして女子學習院を卒業し、君との間に俊介君、敏介君、欣介君及び操子、梅子、愛子等あり、現に東京府下西大久保町四一一番地に住し電話四谷一五一五番なり。

菅原英伍君

仙臺電氣工業株式會社取締役
衆議院議員

君は宮城縣の人菅原金兵衞君の二男にして、明治十九年六月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに三菱鑛業株式會社に入り、奥山鑛山長事務代理、槇峯鑛山所長等を歷任し同社參事に進み、現に尾去澤鑛山長兼荒川鑛山長たる外秋田鐵道株式會社取締役たり。

曩に社命を帶びて外國に航し、歐米各國の鑛業界を視察見學して歸朝し、爾來同社の爲め貢獻すること甚大なりと云ふべし。

夫人甲子は東京府の人平野甚三郎君の二女にして君との間に和子、充子、毬子等あり、現に秋田縣鹿角郡尾去澤鑛山社宅に住す。

杉浦眞鐵君

日本中學校長

君は勳二等故杉浦重剛先生の長男たり嚴父重剛君は舊膳所藩士杉浦重文君の二男にして安政二年三月を以つて生る。夙に藩儒高橋作也師、黒田行元師に就き漢學及び蘭學を修め、後ち京都の儒者巖垣月洲師の門に入り經史を學び、明治三年貢進生に擧げられ、大學南校に入り同九年六月文部省の命に依り化學研究の爲め英國に留學し、同十三年五月歸朝するや東京帝國大學理學部博物場取締、文部省

電氣工業、齊川電氣、仙賀北電氣、廣瀨電力各株式會社の重役にして且つ辯護士を開業し仙臺地方法曹界に令名あり。

曩に宮城縣民多數の推すところとなり馬を陣頭に進めて奮闘の結果、遂いに當選の榮譽を擔ひ衆議院議員に擧げられ今や中央政界に重きをなす。

夫人すみ子は宮城縣の人岩井久兵衞君の令妹にして君との間に英一郎君、讓君及び光子、和子等あり、仙臺市東三番町一二五番地に現住す。

鈴木一郎君

秋田鐵道株式會社取締役
荒川鑛山長

君は埼玉縣の人鈴木謙十郎君の長男にして、明治十五年四月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業するや直ちに三菱鑛業株式會社に入り、奥山鑛山長事務代理、槇峯鑛山所長等を歷任し同社參事に進み、現に尾去澤鑛山長兼荒川鑛山長たる外秋田鐵道株式會社取締役たり。

夙に社命を帶びて外國に航し、歐米各國の鑛業界を視察見學して歸朝し、爾來同社の爲め貢獻すること甚大なりと云ふべし。

×

夫人甲子は東京府の人平野甚三郎君の二女にして君との間に和子、充子、毬子等あり、現に秋田縣鹿角郡尾去澤鑛山社宅に住す。

杉浦眞鐵君

日本中學校長

君は勳二等故杉浦重剛先生の長男たり嚴父重剛君は舊膳所藩士杉浦重文君の二男にして安政二年三月を以つて生る。夙に藩儒高橋作也師、黒田行元師に就き漢學及び蘭學を修め、後ち京都の儒者巖垣月洲師の門に入り經史を學び、明治三年貢進生に擧げられ、大學南校に入り同九年六月文部省の命に依り化學研究の爲め英國に留學し、同十三年五月歸朝するや東京帝國大學理學部博物場取締、文部省準奏任御用掛となり博物場並に植物園を管理す。

然して明治十五年東京大學豫備門長、東京帝國大學寄宿舍取締となり同二十一年七月文部省參事官兼學務局次長等に任ぜられ、明治二十三年滋賀縣より推され又私立東京英語學校は實に君の經營せし所にして其の後身は即ち現在の日本中學校にして君は同校々長として永く育英の道に當れり、夙に西洋倫理思想を注入して文化の普及を提唱すると共に國家主義を唱道して西洋模倣主義を排し、東洋學藝雜誌、日本人及び日本新聞を發刊して其の貢獻する所蓋し甚大なりき。

君又稱好塾を設けて學生を監督し、同人社を再興し東亞同文書院長、國學院學監として本邦教育界に貢獻すること尠少ならず、大正三年五月特に東宮御學問所御用掛仰せ付けられ、大正十三年二月不幸病を得て他界す、時に危篤の報天聽に達するや特に勳二等に陞叙せらる。

實にや「栴檀は二葉より香ばし」我が偉人杉浦重剛先生の嗣子眞鐵君は明治十九年七月を以つて生る。夙に學識衆に秀で、大正二年東京帝國大學林學科を優秀の成績を以つて卒業し、後ち東京市役所水源地林事務所に入り、次いで福島縣技手、東京大林區署技師等を歷任せしも、嚴父病歿に際し其の意思を繼承して新興日本の教育界に盡瘁するに至り、現に日本中學校長として令名あり。

夫人をスマ子と呼び淑德の譽れ高し、現に東京府豐多摩郡淀橋町角筈九番地に住し電話四谷一八三番なり。

杉村虎四郎君

横濱杉村商店代表社員

君は東京府の人杉村甚兵衞君の四男にして、明治二十三年三月を以つて生る。夙に普通教育を卒ふるや直ちに東京商科大學の前身たる東京高等商業學校に學び大正三年同校を卒業して實業界に投じ、

現に合名會社横濱杉村商店代表社員たる外株式會社杉村商店監査役たり。

夫人隣子は東京府の人八十島誠之君の令姉にして君との間に壯一郎君及び祐子直子、素子等あり、現に東京市麹町區三番町七十一番地に住し電話九段四二五六番たり。

鈴木摠兵衛君

正六位勳三等　實業家
貴族院議員

君は愛知縣の人日比野茂兵衛君の長男にして、安政三年二月を以つて生れ後ち先代才造君の養嗣子となる。

當家は代々材木商を營み「材總」と稱して斯界に名高く、且つ同縣下財界に重きをなし、現に日本貯蓄銀行頭取たる外愛知時計電機、名古屋倉庫、尾陽土地經營各株式會社々長にして且つ福壽生命保險、福壽火災保險、京都瓦斯各株式會社監査役として知らる。

尚ほ愛知縣多額納税者にして直税九千六百八十余圓を納め、曩に多額議員に當選し且つ名古屋商業會議所特別議員たりしことあり曩に日露事件の功に依り勳六等に叙せられ瑞寶章を賜ふ。

大正十四年七月朝鮮銀行總裁を仰せ付けられ現に其の任にあり、園碁、テニス、ゴルフ、謠曲、玉突等趣味多様なりといふ。

夫人菊枝子は和歌山縣士族林玄泉君の三女にして其の間に長女千代子、二女ま子等あり、東京市麻布區本村町一一八番地に現住し電話高輪五四九四番なり。

鈴木島吉君

朝鮮銀行總裁
勳六等鈴木島吉君は靜岡縣の人鈴木瀧藏君の長男にして、慶應二年六月二十五日を以つて生る。明治二十二年慶應義塾を卒業するや横濱正金銀行に入社し、同二十八年紐育支店副支配人となり義和團事件の際には轉じて天津支店支配人に推され、後ち上海支店支配人、神戸支店支配人等を經て副頭取に就任し、尚ほ國際信託株式會社取締役會長たりしことあり曩に日露事件の功に依り勳六等に叙せられ瑞寶章を賜ふ。

大正十四年七月朝鮮銀行總裁を仰せ付けられ現に其の任にあり、園碁、テニス、ゴルフ、謠曲、玉突等趣味多様なりといふ。

夫人のぶ子は愛知縣の人青木新四郎君の令姉にして君との間に一女ありてれい子と稱す、現に名古屋市中町大池に住し電話東三五〇番なり。

鈴木鶴治君

長野商業株式會社長
六十三銀行取締役

君は長野縣の人中村宗作君の令兄にして、明治十二年七月を以つて生れ後ち先代勝之助君の養嗣子となる。夙に長野財界に投じ現に長野商業株式會社々長たる外六十三銀行、大倉製糸工場、信濃電氣各株式會社の重役として聲名あり。

尚ほ長野縣多額納税者として知られ、現に直税壹千百十余圓を納むといふ。

夫人しげ子は長野縣の人神林小一郎君の三女にして其の間に子なきを惜むべし現に長野市間御所六番地に住す。

諏訪忠元君

子爵　從三位
芝東照宮社司

當家は源經基の五男村岡下野守滿快の後裔なり、世々信濃に住し先代忠誠君に至り子爵を授けらる。

君は其の後を享く、君實は伯爵溝口直亮君、子爵五條盛輝君等の叔父君にして且つ子爵增山正輿君の養叔父君に當り、明治三年七月を以つて生れ先代忠誠君の養嗣子となり、明治三十一年家督を相續して襲爵仰せ付けらる。

明治二十六年東京帝國大學國文科を優秀の成績を以つて卒業し現に芝東照宮社司として知らる。

夫人はる子は養父忠誠君の三女たり、現に東京府豊多摩郡中野町桐ヶ谷一〇四五番地に住し電話四谷七九二番たり。

杉山四五郎君

從四位勳二等
京都府知事

學窓を出づるや直ちに官界に投じ、多年各樞機に參畫して隨所に其の才腕を振ひ、稀代の能吏として稱揚され、杉山四五郎君は新潟縣の人小川京太君の五男にして、明治三年一月を以つて生れ同二十七年杉山家の養嗣子となる。

當家は代々松本藩士にして先代叙君は維新後官界に入り、丸龜稅務監督局長に昇進して令名あり、君は第一高等學校を經て明治二十七年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業し、同三十三年歐米に遊學し歸朝するや、山梨神奈川各縣參事官、秋田縣書記官、內務省參事官、同書記官、高知縣知事、內務省衛生局長等を歷任す。

其の後野に下り大正四年神奈川縣より推されて衆議院議員に當選し、中央政界に令名を謳はれ大正六年再び官途に就き衞生局長に任じ、後ち關東廳事務總長を經て同十年宮崎縣知事に任ぜられ牧民官として同縣の爲め貢獻すること二年有半再び野に下り悠々たりしも、昭和二年四月田中政友會內閣成立するや、推されて京都府知事に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人若代子は養父叙君の二女にして內助の聞え高し、東京市本鄉區切通坂町一七番地に住宅を有し電話小石川三〇七〇番なり。

杉田駿君

杉田商事株式會社長

君は千葉縣の人杉田勇三君の甥君にして、明治十三年十月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に杉田商事株式會社々長たる外東京製作所、東京保溫材各株式會社の重役として知らる。

夫人を多惠子と稱し君との間に秀雄君耕三君、弘君及び惠子等あり、東京市麹

町區飯田町五ノ三五番地に現住す。

鈴木威君

内國貯金銀行專務取締役
共同保全株式會社專務取締役

君は福島縣士族鈴木久孝君の長男にして、明治十三年四月を以つて生る。現に前記の要職にあり。

夫人ます子は東京府士族玉置源太郎君の三女たり、現に東京市本郷區森川町一番地に住し電話小石川一八四一番たり。

鈴木忠右衞門君

滋賀縣多額納稅者

君は滋賀縣の人鈴木忠司君の長男にして、明治十年十二月を以つて生れ前名忠兵衞を改稱す、縣下多額納稅者の一人として直稅二萬九百二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ふみ子は滋賀縣の人高井作右衞門君の令妹にして君との間に勳君、省三君春男君等あり、現に滋賀縣蒲生郡北比都佐村に住す。

鈴木庄治郎君

正五位勳五等
北海道帝國大學教授

君は宮城縣の人阿部庄作君の長男にして、明治八年十一月を以つて生れ後ち鈴木家に入りて養嗣子となる。明治三十四年東京高等師範學校を卒業するや、更に京都帝國大學に學び明治四十年同學理工科大學純正數學科を卒業す。

然して身を教育界に投じ、長野師範學校教諭兼訓導、東北帝國大學農科大學豫科教授等を歷任し、大正七年北海道帝國大學豫科教授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人なよ子は鈴木與兵衞君の長女にして君との間に一郎君、克二君、憲三君、道雄君及び節子、俊子、しづ江子等あり現に北海道札幌市北一條東七ノ十二番地に住す。

鈴木恒三郎君

原町紡績株式會社長
古河鑛業株式會社取締役

君は豐前舊中津藩士鈴木閑雲君の三男にして、明治六年一月二十七日を以つて生る。夙に笈を負ふて上京し、慶應義塾に學び同二十九年同學を卒業するや、直ちに古河鑛業株式會社に入り銳意同社の發展に盡瘁し足尾鑛毒豫防法、家政會計整理等に力め、明治三十六年虎之助君に從ひ北米に航し、ハーバート大學に學び尙ほ鑛山及び各種事業を實地に視察して得る所尠少ならざりき。

明治三十九年歸朝し專心足尾銅山の經營に當り、恪勤すること二ケ年、後ち本社商務課長に轉じ、更に參事の要職に昇り、社の内外に重きをなし、同四十五年社命を帶びて歐米を視察し、歸朝後は古河合名會社理事、大源鑛業株式會社監査役たりしが現時は前記會社の重役として令名あり。

夫人齊子は東京府の人淺田甚右衞門君

帝都復興之現勢

石井工務店
石井權藏
本店　東京市神田區三崎町三ノ七五番地
電話九段一四八番　一四九番
支店　仙臺市伊勢屋横町一番地
電話仙臺〔局〕五二五番　六一八番
〔長〕九七七番　一一八九番

東京市芝區田町一丁目十二番地
南滿建材工業所
所長　寺西定次郎
電話高輪二七八一番

リソイド
リグノイド
ロックスタッコ
ドロマイト
スタッコ、マンチユリア
給水、衞生、淨化裝置

書畫
骨董
茶器

土木建築請負業
東京市日本橋區新右衞門町六番地
株式會社　**川部商會**
社長　川部利吉

土木建築請負業
東京市芝區南佐久間町二丁目十四番地
電話青山三四六三番
星野合資會社

の令姉たり、現に東京府豐多摩郡中野桐ヶ谷一一二二番地に住し、電話四谷九七〇番なり。

杉本鶴五郎君

杉本合名會社長
東京府多額納稅者

當家は先々代龜五郎君より其の家名を擧ぐ、君は其の昔越中の農家より出でて大江戸に來り實業界に投じ、龜屋と稱して舶來小間物商を營み、而して先代鶴五郎君同じく父の遺業を繼ぎて恪勤精勵、以つて業務の發展に努めたり。

斯くて業務の大擴張を企圖して店舖を銀座街頭に移轉し、更に和洋酒食料品商を經營せしかば愈々益々發展に發展を加へ業勢頓に擧り、遂に銀座界隈屈指の和洋食料品商として數へらるゝに至れり。

然して當代鶴五郎君は千葉縣の人酒卷長藏君の三男にして明治三年十二月を以つて生る。幼時より當店に手代奉公をなし同店の爲め貢獻せしかば、遂いに認められて養子となり前名新藏を改稱せるものなり。

曩に歐米各國の經濟狀況を視察して歸朝し業務の大改革を斷行し、近時は又靑森縣下に殖產事業を興して終始事業の改善發達、我が國產業の發展に盡瘁すること甚大、尙ほ東京府多額納稅者にして直稅五千四十余圓を納む。

夫人のぶ子は養父鶴五郎君の二女にして君との間に龜造君、鶴次郎君等あり、現に東京市京橋區竹川町に住し電話銀座七七二番たり。

鈴木達治君

橫濱高等工業學校長

從四位勳三等理學士鈴木達治君は愛媛縣の人鈴木禮作君の長男にして、明治四年九月十一日を以つて生る。

明治三十三年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し、同四十一年化學工業研究の爲め獨英米の各國に留學し、歸朝後第二高等學校教授兼仙臺醫學專門學校教授廣島高等師範學校教授、東京高等工業學校教授等を歷任し、現に橫濱高等工業學校長として知らる。

趣味として園藝、撞球等あり頗る堪能なりといふ、神奈川縣橫濱市根岸町二一五七番地に現住し電話二一五〇番なり。

鈴木長三郎君

資產家

君は宮城縣の人鈴木門三郎君の長男にして、明治二十一年十一月を以つて生る當家は當地方に於ける資產家として先代より羽振を利かし、而して君は其の潤澤なる家庭にありて生を生活し、御蔭を以つて今や當地方に金力的勢力を有して知らる。

夫人操子は宮城縣士族佐々木德之助君の令孫にして君との間に守君、孝君及び千代子、恭子等あり、現に宮城縣宮城郡高砂村に住す。

末廣恭二君

工學博士　從四位勳四等
東京帝國大學教授

君は愛媛縣の人末廣重恭君の二男にして、明治十年十月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業するや、直ちに長崎三菱造船所に入り、明治三十五年東京帝國大學助教授に任ぜらる。

然して明治四十二年應用力學研究の爲め英獨二ヶ國に留學を命ぜられ、同時に工學博士の學位を授與せらる。而して歸朝後も引き續き帝國大學に教鞭を執り同學教授に擧げられ、又大正十二年には工學研究上の功績顯著なるに對し帝國學士院賞を授與せらる。

夫人みつ子は靜岡縣の人桑原爲十郎君の二女にして君との間に恭雄君及び靜子さが子等あり、現に東京市本郷區駒込上富士前町二十八番地に住し電話小石川二〇九番たり。

鈴木岩藏君

大陽曹達株式會社長
帝國人造絹糸會社長

阪神實業界の重鎭鈴木岩藏君は兵庫縣の人鈴木よね子の三男にして、明治十七年二月を以つて生る。夙に實業界に志し奮闘大いに努め、現に大陽曹達、帝國人造絹糸各株式會社々長たる外日本金屬、鈴木商店各株式會社の重役にして且つ鈴木合名會社理事たり。

夫人懇子は高知縣士族士居通豫君の八女にして君との間に治雄君及び英子、兼子等あり、現に其の住宅を神戸市東須磨大手町に有す。

鈴木茂雄君

大阪電氣分銅株式會社長
大阪商業會議所議員

君は岐阜縣の人鈴木源十郎君の二男にして、慶應元年二月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し研鑽能く勉め螢雪の功空しからず、明治二十年早稲田大學商科を卒業し直ちに關西實業界に投じ、現に大阪電氣分銅株式會社取締役社長たる外日本金屬、鈴木商店各株式會社の重役として知らる。

尚ほ大阪商業會議所議員にして、大正四年以來同議員として活躍し、以つて今日に至る。

夫人きん子は岐阜縣の人岩塚鴻之輔君の長女にして君との間に五男四女あり。誠君、進君、弘君、道雄君、昌雄君及び絢子、美子、貞子、桂子等あり、現に大阪府住吉町天王寺明治通西丸釜一六一九番地に住し電話南六五五〇番たり。

栖原豐太郎君

工學博士　從五位
東京帝國大學教授

君は和歌山縣の人栖原洋三君の長男にして、明治十年九月を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學工科大學機械科を卒業するや更に大學院に學び、後ち東京帝國大學工科大學助教授に任じ現に同學

教授たり。

曩に大正七年航空學研究の爲め歐米各國に出張を命ぜられ、同八年工學博士の學位を授けらる、而して大正十年には航空研究所々員に補せられ現在に及べり。

夫人愛子は東京府の人原恭造君の令妹にして東京府立第二高等女學校を卒業し君との間に一郎君、二郎君、壽郎君等あり、現に東京市本郷區曙町七番地に住し電話小石川五八〇三番たり。

杉野喜精君

山一合資會社長
東京府多額納稅者

君は杉野喜永君の長男にして、明治三年九月を以つて弘前市に生る。夙に銀行事務講習所に學び、後ち實業界に投じ曩に株式會社名古屋銀行取締役兼支配人たりしが、現時は山一合資會社代表社員にして、東京株式取引所一般取引員として兜町界隈に令名あり。

尚ほ東京府多額納稅者にして現に直接國稅一萬三千九十余圓を納むといふ。

夫人をやす子と呼び成立高等女學校の卒業にして君との間に伊勢雄君、昌甫君及び綾子、須磨子、清子等あり、現に東京府荏原郡目黒三田十二番地に住し電話高輪七七五番たり。

鈴木喜左衞門君

造具銀行頭取
群馬縣多額納稅者

君は群馬縣利根郡の豪農鈴木喜左衞門君の長男にして、明治十五年三月を以つて生れ、後ち家督相續と共に前名源一郎を改めて襲名す。

夙に地方實業界に投じ現に造具銀行取締役たる外利根實業銀行取締役にして且つ、群馬縣多額納稅者として直稅一千五百五十余圓を納め縣下有數の實業家たりし、斯くて當選すること三回に及び、尚ほ現に鐵道協會理事たり。

夫人きん子は群馬縣の人關源藏君の令妹にして君との間に順一君、清君、重雄君、宇平君及び敬子等あり、現に群馬縣利根郡赤城根に住す。

鈴木寅彦君

日本曹達株式會社長
東京瓦斯株式會社常務取締役
朝鮮鐵道株式會社常務取締役

勳四等實業家鈴木寅彦君は福島縣の人國井豊次郎君の長男にして、明治六年三月を以つて生れ、後ち先代リキ子の養嗣子となる。

夙に早稲田大學邦語政治科及び日本大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、着々として斯界に地歩を占め現に前記の諸職にある外泰平銀行、日清生命保險、日本電爐工業、東京乘合自動車、北海道瓦斯、上毛モスリン各株式會社の重役として我が財界に令名高し。

曩に郷里福島縣民多數の輿望を擔つて逐鹿場裡に奮戰し、遂に當選の榮譽を贏ち得て衆議院議員として中央政界に鳴らし、斯くて當選すること三回に及び、尚ほ現に鐵道協會理事たり。

現に東京市小石川區原町八十二番地に住し電話小石川五三三六番たり。

杉浦宗三郎君

工學博士　正四位勳三等

東京瓦斯株式會社常務取締役

君は東京府士族雨森宗益君の三男にして、明治三年十二月十三日を以つて生れ後ち先代いね子の養嗣子となる。明治二十七年東京帝國大學工科大學土木科を卒業するや、直ちに實業界に投じ日本鐵道會社に入社せしが、同三十九年同社が國有に歸するに及び鐵道院技師に任ず。

然して爾來東京鐵道管理局營業課長兼運輸船舶課長、同研究所主任等を歷任し後ち理事に進み工務局長となり大正八年技監に昇進し、同年工學博士の學位を授けられ後ち辭して東京瓦斯株式會社に入社し、累進して同社常務取締役に就任し現に其の要職にある傍ら東洋車輛、朝鮮鐵道、秋田鐵道各株式會社監査役にして且つ帝國鐵道協會理事、瓦斯協會副會長たり。

夫人とし子は東京府の人首藤諒君の長女にして御茶の水高等女學校を卒業し君との間に卯吉君、已之吉君、正三君及びその子、春子、てる子、うた子等あり、現に東京府豐多摩郡西大久保四四九番地に住し電話四谷一三一〇番たり。

鈴木俊一郎君

白石製紙株式會社常務取締役

白石銀行取締役

君は宮城縣の人鈴木清之輔君の長男にして、明治二十二年十一月を以つて生る。夙に京都帝國大學法科を卒業するや、直ちに文官高等試驗に合格して其俊才を謳はれたり。

然して直ちに實業界に投じ現に白石製糸株式會社常務取締役たる外白石銀行、白山火山灰、齋川電氣、仙南電氣工業各株式會社の重役として知らる。

夫人ムメ子は福島縣の人矢吹友右衞門君の長女にして、君との間に一男ありて名を勘三郎と改稱す。

當家は先代よりの資產家として界隈に相當に名を知られ、且つ大阪府多額納稅者として現時直接國稅五千四百五十余圓を納め關西財界に知らる。

夫人との間に六男一女ありて勘市郎君、善治君、善夫君、善孝君、善史君及び喜美江と呼ぶ、大阪府東成郡蒲生に住す。

杉田安靜君

東京市四谷區長

君は千葉縣士族杉田定次郎君の長男にして、明治十二年四月一日を以つて千葉縣市原郡鶴舞町に生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、前衆議院議員小倉眞助氏及び故角田新平氏の知遇を得て明治義會中學校を卒業す。

然して、後ち更に苦學力行にて日本大學法科に學び、同科を卒ふるや、直ちに東京市役所に職を奉じ、爾來、同臨時市區改正局經理課員、同下水施設調查委員會書記、臨時市區改正局工務課員、同市區計畫調查會書記兼臨時調查課員等を歷勤す。

斯くて、大正八年東京市主事に任じ、

鈴木重兵衞君

宮城貯蓄銀行常務取締役

君は宮城縣の人鈴木重兵衞君の長男にして、明治八年九月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に宮城貯蓄銀行常務取締役たる外五城銀行、大崎水電、名取川水力電氣、若生本店各株式會社の重役として地方財界に令名あり。

夫人まさ子は宮城縣の人宮本益輔君の長女にして、君との間に道三郎君、喜四郎君、正亮君及びかねよ子、とき子等あり、現に宮城縣仙臺市荒町一〇八番地に住す。

×

杉田善右衞門君

資產家

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人杉田善右衞門君の長男にして、明治二年十二月を以つて生れ前名勘三郎を改稱す。

當家は先代よりの資產家として界隈に相當に名を知られ、且つ大阪府多額納稅者として現時直接國稅五千四百五十余圓を納め關西財界に知らる。

夫人との間に六男一女ありて勘市郎君、善治君、善夫君、善孝君、善史君及び喜美江と呼ぶ、大阪府東成郡蒲生に住す。

杉田安靜君

東京市四谷區長

君は千葉縣士族杉田定次郎君の長男にして、明治十二年四月一日を以つて千葉縣市原郡鶴舞町に生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、前衆議院議員小倉眞助氏及び故角田新平氏の知遇を得て明治義會中學校を卒業す。

然して、後ち更に苦學力行にて日本大學法科に學び、同科を卒ふるや、直ちに東京市役所に職を奉じ、爾來、同臨時市區改正局經理課員、同下水施設調查委員會書記、臨時市區改正局工務課員、同市區計畫調查會書記兼臨時調查課員等を歷勤す。

斯くて、大正八年東京市主事に任じ、

庶務課員、用地課員、社會局公營課員、給水事務統合委員、電氣局臨時建設部庶務課員、同庶務課長心得、同道路局管理課長等を經て、大正十年六月電氣局臨時建設部庶務課長に任じ、遂に大正十四年八月拔擢せられて東京市赤坂區長に擧げられ、同十五年十二月四谷區長に轉じ以つて現在に及ぶ。

夫人こう子は靜岡縣士族植松氏の四女にして君との間に酉春君、鬼陽君、博司君、守君、俊平君及び正子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷富久町六十番地に住す。

×

鈴木槇之助君

實業家

君は愛知縣の人鈴木友吉君の令弟にして、明治六年二月十八日を以つて生れ、後ち先代庄藏君の養嗣子となる。

夙に地方實業界に投じて君の敏腕を自由に振ひ、米穀肥料商として斯界に重きをなし令名あり。夫人いく子は愛知縣の人養父庄藏君の長女にして、君との間に庄治君、仁藏君及び初子等あり、現に名古屋市西區船入町三番地に住し電話本局一三三三番たり。

鈴木孝之助君

醫學博士　正四位勳二等

退役海軍々醫中將

君は三河國舊田原藩士鈴木方舊君の三男にして、安政元年七月を以つて生る。夙に醫學を修め海軍々醫に任じ、明治三十三年海軍々醫監に陞進す。

其の間橫須賀、吳、佐世保、旅順各鎭守府醫務部長等を歷任し、同三十九年豫備役仰せ付けらる。明治三十五年醫學博士の學位を受け、又日露の役に從軍して勳功あり勳二等に叙せられ、現時は醫を業とし別に相州七里ヶ濱に鈴木療養所を設立經營し專ら呼吸器病の診療に從ふ、書畫骨董、圍碁の趣味あり。

夫人しん子は東京府の人野口直三郎君の養女にして其の間に五女ありて方子、

信子、愛子、德子、敏子等あり、現に東京市麻布區飯倉片町五番地に住し電話青山六一一一番たり。

×

末松佐吉君

土木建築請負業
京都府多額納稅者

君は京都府の人末松佐七君の長男にして、明治十七年十月十七日を以つて生る。夙に京都土木建築界に活躍して名聲を博し、現に斯界に重きをなす外京都府多額納稅者として直稅二千二百二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人たみ子は京都府の人桂文之助君の長女にして君との間に佐一郎君、一馬君勇君及びあや子等あり、現に京都市下京區壬生梛宮に住す。

菅原通敬君

從四位勳一等　錦鷄間祇侯
貴族院議員

當家は奥州菅原の本流にして四百年以來の古き家柄として栗原郡姫松村に住し地方治民の職を踏襲し以つて先代通實君に至る。通實君は藩政に功あり後ち久しく官途にありしが現時は野にありて鶴を追ひ風月を友となす。

君は即ち通實君の長男にして明治二年一月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに官界に投じ、大藏省に出仕せしが後ち沖繩縣收稅長、司稅官、稅務監理局長、函館稅關長、丸龜、神戸各稅務監理局長、神戸稅務監督局長、大藏省參事官兼書記官、同主稅局長、釀造試驗所長、大藏次官等を歷任し大正五年貴族院議員に勅選せられ又錦鷄間祇侯たり。

夫人懿子は宮城縣の人熱海琢十郎君の長女にして君との間に通公君、通伯君、通子等あり、現に東京市小石川區駕籠町四九番地に住し電話小石川七六九番たり。

杉榮三郎君

從四位勳三等
圖書頭兼諸陵頭

君は岡山縣の人杉良太郎君の二男にして、明治六年一月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、會計檢査院檢査官、宮內書記官兼宮內省參事官帝室林野管理局主事等を歷任し現に宮內省圖書頭兼諸陵頭として知らる。

夫人ミツ子は嘉納久三郎君の長女にして、君との間に滿佐子、支都子、洋子等あり、現に東京市小石川區駕籠町一二三番地に住し電話小石川一五八二番たり。

×

末廣要君

富士製鋼株式會社取締役
淺野小倉製鋼所取締役

君は山口縣士族末廣基平君の四男にして、明治七年十一月を以つて生る。夙に製鋼業に志し、永く八幡製鐵所にありて斯業の實際に精通し、現に富士製鋼、淺野小倉製鋼所、大島製鋼所各株式會社の重役にして且つ淺野造船所相談役たり。

夫人ツネ子は山口縣士族神代嘉一君の令妹にして君との間に一女ありて花子と稱す、現に小倉市紺屋町二一四番地に住し電話九六一番たり。

須賀喜三郎君

從四位勳三等　判事
廣島控訴院長

君は群馬縣の人須賀喜太郎君の長男にして、明治七年三月を以つて生る。明治二十五年陸軍步兵少尉に任官し大正十四年陸軍大將に陞進す。

其の間參謀本部員、白國英國各駐在大使館附武官、教育總監部參謀、陸軍省副官兼軍務局課長、步兵課長、教育總監部附、清國駐在守備隊司令部參謀、大本營陸軍幕僚參謀、步兵第十四聯隊補充大隊長、步兵第二十九旅團長、陸軍省軍務局長兼軍事參議院幹事、第二十師團長、臺灣軍司令官等を歷補し以つて現在に及ぶ。

曩に日露の役には第三軍參謀として出征し、滿洲の野に轉戰して偉功を立て功三級金瑩勳章を賜はる。

夫人イネ子は群馬縣の人堀越賴三郎君の令妹にして、君との間に太郎君、幹夫君、敏夫君及び光代子、八千代子、睦代子、君代子等あり、現に同官舍內に住す。

×

菅野尙一君

從三位勳一等功三級
陸軍大將　軍事參議院參議官

君は山口縣士族菅野尙喬君の長男にして、明治四年三月を以つて生る。明治二十五年陸軍步兵少尉に任官し大正十四年

菅野一一郎君

七十七銀行支配人
青葉農林株式會社長

君は宮城縣士族谷口敬高君の二男にして、明治四年十二月を以つて生れ、後ち先代正子の養嗣子となる。

夙に地方財界に身を投じて活躍を試みしかば君の敏腕は着々として事業の上に現はれ、名聲頓に擧り現に青葉農林株式會社々長たる外七十七銀行支配人にして且つ東北物產株式會社監査役として當地財界に重きをなす。

夫人をゑい子と稱し君との間に肇君、闢君、博君等あり、現に仙臺市空堀町十一番地に住し電話二二二番たり。

菅野傳右衞門君

高岡銀行頭取
高岡商業銀行頭取

君は富山縣の人先代傳右衞門君の長男

にして、明治十三年十二月を以つて生る。夙に東京商業學校を卒業するや、直ちに地方財界に走つて活躍大いに努め、漸次斯界に名聲を博せり。

現に前記の外富山合同貯蓄銀行頭取にして且つ高岡電燈、高岡打綿、溫泉電氣軌道、越中倉庫、北陸信託、北陸送電、高岡新報、中越運輸各株式會社の重役として知らる。

尙ほ富山縣多額納稅者にして、且つ高岡商業會議所議員たり、夫人をひさ子と稱し、君との間に章一君及び富美子あり現に高岡木舟に住す。

菅　禮之助君

大日本人造肥料會社取締役
古河鑛業株式會社取締役

君は秋田縣の人菅禮治君の長男にして明治十六年十一月を以つて生る。明治三十八年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投ず。

然して古河合名會社に入りて同社大阪支店次長、同支店長、門司支店長、本社販賣部長等を歷任し現に同社取締役たる外大日本人造肥料、日本電線、大阪電氣分銅各株式會社の重役として知らる。

夫人さき子は秋田縣の人長瀨直倫君の長女にして君との間に禮太君、達吉君、元彥君等あり、現に東京市芝區白金今里町一〇一番地に住し電話高輪一八〇七番たり。

菅　原　義　雄　君

仙臺電氣工業株式會社取締役
仙北電氣株式會社取締役

君は宮城縣の人菅原民之輔君の長男にして、明治二十一年五月を以つて生る。夙に地方財界にありて呉服商及び味噌釀造業を營み、現に傍ら前記の外宮城送電興業株式會社取締役にして且つ眞坂町郵便局長たり。

夫人をひさし子と稱し、其の間に五男一女あり、宮城縣栗原郡一迫に現住す。

末松偕一郎君

正四位勳三等
廣島縣知事

君は福岡縣の人末松玄洞君の三男にして、明治八年六月十八日を以つて生る。

明治三十五年の東京帝國大學法科大學出身にして、已に在學中文官高等試驗に登第し、而して卒業するや直ちに職を官途に奉ず。

爾來、內務屬、靜岡、山梨各縣事務官內務書記官、法制局參事官兼行政裁判所評定官、德島縣知事、臺灣總督府民政部財務局長、滋賀、茨城各縣知事等を歷任し、昭和二年四月廣島縣知事に轉じ以つて現在に及ぶ。

曩に明治四十年清國政府の招聘に依り同國自治制度の顧問として奉天に駐在すること二ケ年大いに盡瘁することありき。

夫人を滿壽意子と稱す、現に同縣知事官舍に住す。

鈴　木　儀　助君

實業家

君は宮城縣の人石垣喜右衛門君の令弟にして、明治七年十一月を以つて生れ、後ち先代儀助君の養嗣子となり前名嘉三郎を改めて襲名す。

夙に地方實業界に投じて君の優れたる商才を自由に發揮し、現に當地米穀肥料商界に令名あり。

夫人きしよ子は宮城縣の人伊藤貞三郎君の令妹にして、君との間に太一君、次郎君、宗典君、孝治君、汎君及びくら子うめ子、しゆう子等あり、宮城縣亘理郡亘理町に現住す。

鈴　木　孝　雄君

正四位勳二等功三級
陸軍中將　陸軍技術本部長

君は千葉縣士族鈴木貫太郎君の令弟にして、明治二年十月を以つて生る。明治二十五年陸軍步兵少尉に任官し爾來、累進して大正十年陸軍中將に陸進す。

其の間野戰砲兵射擊學校敎官、砲工學校敎官、野戰砲兵監部々員、近衞野戰砲兵聯隊大隊長、野戰砲兵第十聯隊大隊長、野戰砲兵第十八聯隊附、同第二十一聯隊長、陸軍省軍務局砲兵課長、野砲兵第一野戰重砲兵第一各旅團長、陸軍士官學校長、第十四師團長等を歷任し現に前記の外軍事參議院參議官たり。

夫人もと子は子爵立見豊丸君の令妹にして君との間に武君、英君及びはるえ子千鶴子、夏子、八重子等あり、現に東京府豊多摩郡淀橋柏木四一二番地に住し電話四谷三五七八番たり。

鈴　木　杢　三　郎君

鹿沼貯蓄銀行取締役
下野運輸株式會社取締役

君は栃木縣の人鈴木吾左衛門君の末子にして、慶應三年十二月十五日を以つて生る。當家の祖先は當村草創七農の一人として知られ、代々名主役を勤めし家柄なり。

君は夙に實業界に投じ現に鹿沼貯蓄銀行、下野運輸、下野信託各株式會社の重役にして、且つ菊澤村長たり。

夫人シウ子は栃木縣の人齋藤儀平君の二女にして君との間に秀一君、俊三君及びチヨ子、英子等あり、現に栃木縣上都賀郡菊澤に住す。

鈴　木　信　太　郎君

正五位勳四等
山梨縣知事

君は山形縣士族鈴木幸松君の長男にして、明治十七年十一月を以つて生れ、後ち先代伊和田君の養嗣子となる。明治四十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや直ちに文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官界に奉じ、爾來、石川縣警部、愛媛縣警視、岩手縣事務官、同參事官、同視學官、神奈川縣理事官、島根縣警察部長、內務書記官兼內務省參事官地方局府縣課長、奈良縣知事等を歷任し昭和二年四月山梨縣知事に任ぜられ以つ

て現在に及ぶ。

夫人春子は鹿兒島縣士族政友本黨總裁床次竹二郎君の長女たり、現に同縣知事官舍に住す。

鈴木善助君

資產家

君は東京府の人大西伊三郎君の二男にして、明治十三年四月を以つて生れ、先代善助君の養嗣子となる。

當家は祖先傳來の資產家たり、夫人をあい子と稱し君との間に榮治郎君、正基君及びてる子、美代子、靜枝子、晴子、登志子等あり、現に東京市芝區新門前町一番地に住し電話高輪二五六五番たり。

杉敏介君

正四位勳三等

第一高等學校長

君は山口縣士族杉肇君の長男にして、明治五年五月二十六日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學文科大學國文科を卒業す。

然して、明治三十二年九月第一高等學校教授に任ぜられ國文學講座を擔當し。累進して現に同校々長兼教授として知らる。

夫人ヨシヲ子は滋賀縣士族相宗賢次郎君の長女にして君との間に幹丸君、憲次君等あり、神奈川縣高座郡藤澤町鵠沼二三七〇番地に住し電話藤澤七四番たり。

杉溪言長君

男爵　正三位勳三等

當家は內大臣藤原鎌足の曾孫左大臣魚名の後裔にして、山科家の庶流たり。君は正五位伯爵山科家言君の叔父君にして慶應元年五月を以つて生る。

明治二年三月堂上格を賜ひて杉溪と稱し一家を創立し、同八年三月特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。曩に春日神社神職、京都宮殿勤番殿堂、貴族院議員たりしことあり。

夫人茂子は東京府の人小田切重路君の養女たり、現に東京市麻布區新龍土町十二番地に住し電話青山五九七〇番たり。

杉浦音次郎君

白石銀行取締役支配人

君は宮城縣士族杉浦義禮君の二男にして、明治元年十月を以つて生る。夙に地方金融界に投じ、現に株式會社白石銀行取締役支配人として當地財界に名あり。

夫人さだ子は埼玉縣士族恩田爲寬君の二女にして君との間に博君、智郎君、信吾君、誠君及びあや子等あり、現に宮城縣刈田郡白石に住す。

洲崎隆一君

津市立病院產科婦人科部長

君は富山縣の人洲崎永之助君の長男にして、明治二十年十一月を以つて生る。

大正五年京都帝國大學醫科大學を卒業す現に津市立病院產科婦人科部長たり、夫人を綾子と稱し君との間に一男二女あり、現に三重縣津市に住す。

鈴木永吉君

富士身延鐵道株式會社常任監査役

東京割引銀行取締役

君は山梨縣の人石原半左衛門君の三男にして、明治十一年十一月二十日を以つて生れ、明治四十二年先代きよ子の養嗣子となる。

夙に東京商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、而して明治三十二年東京割引銀行に入り、大正六年同行取締役に擧げられ現に其の傍ら富士身延鐵道、日本煉炭、東洋製鑵各株式會社の重役として知らる。

夫人きよ子は山梨縣の人鈴木傳左衛門君の長女にして、君との間に英雄君、保治君及び澄子、友子等あり、現に東京市四谷區仲町三ノ一九番地に住し電話四谷三四六八番たり。

隅田伊賀彥君

大都土木建築株式會社監査役

君は高知縣士族川崎專助君の二男にして、慶應二年九月を以つて生れ後ち先代團承君の養嗣子となる。

夙に九州財界に投じて活躍大いに努め現に大都土木建築株式會社監査役たり。

夫人尋久子は高知縣の人岡野正雄君の令妹にして、君との間に朔麿君、住夫君及び美彌子、和歌子、福子、豐子、千代子、光榮子等あり、現に小倉市京町三四一番地に住す。

菅谷駒之助君

株式會社博信商會監査役

君は茨城縣の出身にして、文久元年十月二十日を以つて生る。夙に實業界に投じて活躍大いに努め、我が通運界に覇を唱ふ內國通運株式會社に恪勤すること久しく、累進し同社神田支店長、本社參事等を初め各種の要職を歷任せり。

現に株式會社博信商會監査役たり、東京市淺草區猿若町三ノ三番地に現住す。

杉本九八郎君

吾妻川水力電氣株式會社取締役

君は高松市の出身にして、明治九年十二月三日を以つて生る。夙に高岡育英學舍に學び業成るや直ちに當地財界に活躍せしも、後ち川北德三郎商店に入りて恪勤すること七ケ年、更に鈴木常助商店に轉じて忠勤すること十有三年、其の發展に貢獻すること甚大なりき。

然して後ち入丸商會に移り推されて同常務取締役に就任し、現時は吾妻川水力電氣株式會社取締役たり。

夫人をせん子と稱し君との間に一男ありて七生君と稱す、現に東京市赤坂區青山高樹町十二番地に住し電話青山一二六五番たり。

昭和二年八月二十日印刷
昭和二年九月一日發行

（定價五十圓）

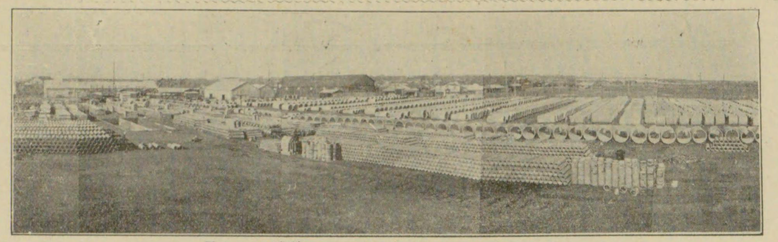
不許複製

著作兼發行者　新田宗盛　東京市麹町區有樂町三ノ三番地

印刷者　天井八郎　東京市麹町區有樂町三ノ一番地

發行所　東京丸ノ內有樂町三ノ三番　振替東京二〇五五六番　帝國時事通信社

（秀美堂印刷）



日本ヒユームコンクリート株式會社鶴見工場全景

世界各國專賣特許

ヒユーム管

ヒユーム管

本品ハ西曆千九百十二年濠洲アデレード市ヒユーム氏兄弟ノ發明ニ係ル遠心力應用ノ完全製品ニシテ全部機械力ノミニ依リ製作セラレ、鋼管、鐵管、木管及在來ノコンクリート管ニ於ケル腐蝕脆弱ノ缺點ヲ根絶シ今ヤ其ノ特徴ニ基キ世界的絶對優勝ノ販路ヲ確保スルニ至レリ

ヒユーム管一度現ルヽヤ濠洲不毛ノ地ハ之ヲ灌漑ニ利用シテ豐沃ノ耕地ト化シ、印度、南阿、馬來半島、英、米、佛、布哇等各地ニ於ケル使用延哩數實ニ幾千哩ニ及ブ

日本**ヒユームコンクリート**株式會社ハ日本及領土ニ於ケル專賣特許權ノ讓渡ヲ受ケ專ラ其ノ製造販賣ニ從ヒ、創業一歲ナラザルニ已ニ東京市橫濱市其他諸會社ヨリ指定採用ノ光榮ヲ得、尙ホ各地ヨリノ注文引合殺到殆ド應接ニ遑ナキ狀況ニアリ

ヒユーム管

用途ハ頗ル廣汎ニシテ高壓水道管、水力發電用取入管、温泉送湯管、油田送油管、下水管、鑛山通風管、灌漑用導水管、ケーブル線管、鐵管ニ代リテ遙ニ之ニ優リ

抗張力……強大
硬度……絶大
密度……堅緻
氣孔……絶無
内面……平滑
品質……均整
接續……容易
耐久力……無限
價格……至廉
貯藏品……豐富

特殊製品ニハ溝渠用半圓管、タンク用大徑管、漏斗型、弩型、灣曲型、孔明キ管、枝付管等各種アリ

接續用カラーハ各管ノ外徑ニ適合セル内徑ヲ以テ製作セラレ、鐵管同樣取付容易ニシテ、繼目ヨリ漏水ノ虞ハ絶對ニナシ

主製品左ノ如シ

高壓水道用管
水力發電用取入管
下水管、排水管
温泉送湯管、ケーブル管
貯藏用タンク
通風管、送油管
塀、杭、煙突及建築用柱
各種異形管及半圓管
築港防波堤用ブロック
鋪裝用敷石

日本ヒユームコンクリート株式會社

本社工場　神奈川縣鶴見町潮田二八八八
電話鶴見二〇九番
東京出張所　東京市麹町區有樂町一ノ一丸ビル内
電話丸ノ内一八六五番

我が國製菓業界の覇者

森永製菓株式會社

社長 森永太一郎

専務取締役 松崎半三郎

森永相互保證株式會社

専務取締役 渡邊雄男

森永製品販賣株式會社

専務取締役 廣瀬庄太郎

大安田家
事業の門戸

合名會社 安田善次郎

専務理事 結城豐太郎

安田保善社

總長 安田善次郎

社長 安田善次郎

安田信託株式會社

専務取締役 濱崎定吉

常務取締役 戸澤芳樹

常務監査役 園部保

本店 大阪市東區今橋三丁目一番地

支店 東京・京都・名古屋

資本金參千萬圓
本邦信託業界の
最高權威

本邦通運界の權威

內國通運株式會社
社長 中野金次郎

國際運送株式會社
社長 岩倉具光

明治運送株式會社
社長 山口壽

合同運送株式會社
社長男爵 中島久萬吉

資本金
壹億五千萬圓
支店
全國百四十一個所

株式會社
安田銀行

副頭取 結城豐太郎
頭取 安田善次郎
常務取締役 兵須久
常務取締役 菅原大太郎
常務取締役 丸山繼男
常務取締役 園部潛

拓殖
移民
製糖
製酒
食用

移民取扱
拓殖事業

東京市麹町區内山下町東洋ビルデイング三階

南洋興發株式會社東京事務所

専務取締役　松江春次

東京市麹町區有樂町仲通仲二號館

海外興業株式會社

社長　井上雅二

専務取締役　龍江義信

東邦電力株式會社

取締役社長　伊丹彌太郎

取締役副社長　松永安左衛門

朝日信託株式會社

取締役社長　神田鐳藏

常務取締役　那波齊治

内容の充實と基礎の强固
と以つて今や復興日本
財界の第一線に直面して
躍進する

紙類及原料製造販賣
電氣供給及木材賣買
殖林鑛業運輸業

王子製紙株式會社

專務取締役社長 藤原銀次郎
常務取締役 高島菊次郎
常務取締役 高田直屹
常務取締役 小笠原菊次郎

電氣機械機具直輸入

八洲商會

株式會社

取締役社長 和田嘉衛
代表取締役 藤原英三郎
常務取締役 久米寛三

斯界の權威

日本活動寫眞株式會社

社長 藤田謙一
副社長 横田永之助
常務取締役 後藤信治
取締役支配人 根岸耕一

鐵、亞鉛引平板
波板、丸釘、亞鉛
鉛引鐵線

東京市京橋區本八丁堀四丁目

岡谷合資會社

東京支店長 加藤謹之助

電話京橋 一一四、二七五〇、四七四
四八六、九二三

本邦保險界に介在して最も基礎の強固と保險契約高の高きと營業方針の嶄新なるとを以つて社會に錚々の名ある

愛國生命保險株式會社

取締役社長　原　邦造
専務取締役　曄道文藝

三井生命保險株式會社

取締役社長　團　琢磨
専務取締役　野依辰治
支配人　星　孝治

東海生命保險相互會社

専務取締役社長　松方五郎
取締役支配人　竹友安治郎

576
1